

2016年度

九州歯科大学 シラバス

歯学研究科 口腔保健学専攻

目次

大学院

歯学研究科 口腔保健学専攻

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法)	角舘 直樹	669
	日高 勝美	
	唐木 純一	
臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法)	角舘 直樹	672
	日高 勝美	
	唐木 純一	
高齢期歯科疾患概論	日高 勝美	675
	唐木 純一	
高齢期歯科疾患概論	日高 勝美	677
	唐木 純一	
高分子物性論	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗	679
生体材料論	〔非常勤講師〕 中澤 浩二	681
物理化学概論	〔非常勤講師〕 竹中 繁織	683
	〔非常勤講師〕 横野 照尚	
生体力学	〔非常勤講師〕 山田 宏	685
産業医学研究基盤コース	〔非常勤講師〕 井上 真澄	688
医学研究概論	〔非常勤講師〕 井上 真澄	690
	〔非常勤講師〕 森本 景之	
	〔非常勤講師〕 佐藤 寛晃	

	〔非常勤講師〕上野 光	
	〔非常勤講師〕岩井 佳子	
	〔非常勤講師〕上田 陽一	
	〔非常勤講師〕柳原 延章	
	〔非常勤講師〕吉田 安宏	
	〔非常勤講師〕足立 弘明	
	〔非常勤講師〕田中 良哉	
	〔非常勤講師〕久岡 正典	
	〔非常勤講師〕田中 文啓	
	〔非常勤講師〕酒井 昭典	
	〔非常勤講師〕原田 大	
	〔非常勤講師〕中村 元信	
	〔非常勤講師〕藤本 直浩	
	〔非常勤講師〕尾辻 豊	
	〔非常勤講師〕興梠 征典	
	〔非常勤講師〕西澤 茂	
	〔非常勤講師〕近藤 寛之	
	〔非常勤講師〕鈴木 秀明	
	〔非常勤講師〕川崎 貴士	
	〔非常勤講師〕蜂須賀 徹	
	〔非常勤講師〕楠原 浩一	
	〔非常勤講師〕東 華岳	
	〔非常勤講師〕齋藤 光正	
	〔非常勤講師〕平田 敬治	
	〔非常勤講師〕佐伯 覚	
	〔非常勤講師〕矢寺 和博	
人間工学特論	〔非常勤講師〕藤木 通弘	693
	〔非常勤講師〕泉 博之	
生命・医療倫理学	日高 勝美	695
	秋房 住郎	
	井上 博雅	
	引地 尚子	
	中道 敦子	
口腔保健科学特論	日高 勝美	697
	秋房 住郎	
	井上 博雅	
	引地 尚子	
	中道 敦子	
	久保田 浩三	
生命科学論文作成概論	園木 一男	699
	吉野 賢一	
	辻澤 利行	
	久保田 浩三	
医療情報学特論	中原 孝洋	701
内科学特論	園木 一男	703
口腔保健福祉学特論	秋房 住郎	705
口腔内科学特論	引地 尚子	707
細胞分子生物学特論	秋房 住郎	709
	引地 尚子	
摂食神経科学特論	吉野 賢一	711
分子栄養学特論	辻澤 利行	713
医療政策学特論	日高 勝美	715
	中道 敦子	
口腔科学特論	引地 尚子	717
口腔感染免疫学特論	井上 博雅	719
口腔保健管理学特論	園木 一男	721
	辻澤 利行	
	久保田 浩三	
	高橋 由希子	
歯科診療支援学特論	園木 一男	723

	引地 尚子	
	中道 敦子	
	高橋 由希子	
高齢者口腔機能支援学特論	泉 繭依	725
専門的口腔ケア特論	中道 敦子	727
口腔内科学演習	引地 尚子	729
細胞分子生物学演習	秋房 住郎	731
	井上 博雅	
	辻澤 利行	
	引地 尚子	
摂食神経科学演習	吉野 賢一	734
分子栄養学演習	辻澤 利行	737
	久保田 浩三	
	高橋 由希子	
医療政策学演習	日高 勝美	739
口腔科学演習	引地 尚子	743
口腔感染免疫学演習	井上 博雅	745
口腔保健管理学演習	辻澤 利行	748
	久保田 浩三	
	高橋 由希子	
歯科診療支援学演習	園木 一男	751
	引地 尚子	
	中道 敦子	
	久保田 浩三	
	高橋 由希子	
高齢者口腔機能支援学演習	泉 繭依	754
専門的口腔ケア演習	中道 敦子	757
	久保田 浩三	
	泉 繭依	
専門的歯科衛生士業務演習	久保田 浩三	760
	高橋 由希子	
口腔科学研究(担当教員: 日高 勝美)	日高 勝美	762
口腔科学研究(担当教員: 井上 博雅)	井上 博雅	764
口腔科学研究(担当教員: 引地 尚子)	引地 尚子	766
口腔科学研究(担当教員: 秋房 住郎)	秋房 住郎	768
口腔科学研究(担当教員: 久保田浩三)	久保田 浩三	770
口腔科学研究(担当教員: 園木 一男)	園木 一男	772
口腔科学研究(担当教員: 吉野 賢一)	吉野 賢一	774
口腔科学研究(担当教員: 辻澤 利行)	辻澤 利行	776
口腔科学研究(担当教員: 中道 敦子)	中道 敦子	778
Clinical Research Design	角館 直樹	780
	唐木 純一	
Clinical Research Design	角館 直樹	782
	唐木 純一	
Introduction to Polymer Physics	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗	784
Biomaterials	〔非常勤講師〕 中澤 浩二	786
Life and Medical Ethics	日高 勝美	788
	秋房 住郎	
	井上 博雅	
	引地 尚子	
	中道 敦子	
Advanced Oral Health Sciences	日高 勝美	790
	秋房 住郎	
	井上 博雅	
	引地 尚子	
	中道 敦子	
	久保田 浩三	
Advanced Oral Health and Welfare Promotion	秋房 住郎	792
Advanced Study of Oral Medicine	引地 尚子	794
Advanced Cellular Molecular Biology	秋房 住郎	796

	引地 尚子	
Advanced Neural Eating	吉野 賢一	798
Advanced Medical Policy	日高 勝美	800
	中道 敦子	
Advanced Study of Oral Science	引地 尚子	802
Advanced Oral Infection and Immunity	井上 博雅	804
Advanced Functional Support for Elderly persons	泉 繭依	806
Advanced Professional Oral Health Care	中道 敦子	808
Seminar of Oral Medicine	引地 尚子	810
Seminar of Cellular Molecular Biology	秋房 住郎	812
	井上 博雅	
	辻澤 利行	
	引地 尚子	
Seminar of Neural Eating	吉野 賢一	815
Seminar of Health and Medical Policies	日高 勝美	818
Seminar of Oral Science	引地 尚子	821
Seminar of Oral Infection and Immunity	井上 博雅	823
Seminar of Functional Support for Elderly persons	泉 繭依	826
Seminar of Professional Oral Health Care	中道 敦子	829
	久保田 浩三	
	泉 繭依	
Specialized Study for Oral Health (Hidaka K.)	日高 勝美	832
Specialized Study for Oral Health (Inoue H.)	井上 博雅	834
Specialized Study for Oral Health (Hikiji H.)	引地 尚子	836
Specialized Study for Oral Health (Akifusa S.)	秋房 住郎	838
Specialized Study for Oral Health (Yoshino K.)	吉野 賢一	840
Specialized Study for Oral Health (Nakamichi A.)	中道 敦子	842

2016年度

臨床研究デザイン（健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法）（Clinical Research Design）

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	選択科目（専門）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)角舘直樹 (口)日高勝美						
担当教員	角舘 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

本講義では、臨床研究の基礎的内容を学習し、臨床研究デザインについて理解する。また、各自で考えた診療現場における疑問に基づいて文献を検索し、選んだ論文を批判的に吟味してプレゼンテーションを行うことで、Evidence-Based Dentistry(EBD)の実践力を養う。

学生の到達目標

1. 診療上の疑問をリサーチクエスチョンにすることができる。
2. 臨床研究デザインの概略を理解する。
3. 適切な臨床研究デザインを選択できる。
4. 臨床研究論文・構造化抄録の批判的吟味ができる。
5. Evidence-Based Dentistryを実践できる。

テキスト

講義・演習プリントを配布する。
出)

著)

参考書

Evidence-Based Dentistry 入門

出)永末書店

著)

医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 第3版

出)メディカルサイエンスインターナショナル社

著)

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド

出)医歯薬出版

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習の提出物	50%
発表会	20%

その他

学生相談：月曜日～金曜日まで随時受け付ける。原則として時間予約を行うこと。

2016年度

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法) (Clinical Research Design)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)角館直樹 (口)日高勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	臨床研究とEBD 臨床研究とEBDの関係について学び、臨床研究の全体像を理解する。	講義	角館	予習: EBDの定義 復習: エビデンスレベル
2	批判的吟味 (観察研究) 観察研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義 + 演習	角館	予習: 論文の読解 復習: スクリーニングについて
3	研究デザインとバイアス コホート研究・ランダム化比較試験と3大バイアスについて理解する。	講義	角館	予習: 研究デザイン 復習: 3大バイアス
4	批判的吟味 (介入研究) ランダム化比較試験(RCT)に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義 + 演習	角館	予習: 論文の読解 復習: RCT論文の批判的吟味
5	臨床研究論文・構造化抄録の読み方 臨床研究論文の構成および構造化抄録の読解方法を学ぶ。	講義	角館	予習: 論文の構成 復習: 論文読解のポイント
6	診療上の疑問の定式化 各グループのリサーチクエスチョンをPICOのフォーマットを用いて定式化する。	講義 + 演習	角館	予習: 疑問の定式化 復習: PICOを用いた定式化
7	アウトカム指標の設定 アウトカムを測定する際の指標の種類、測定方法について学ぶ。	講義 + 演習	角館	予習: アウトカム指標 復習: 患者立脚型アウトカムについて
8	情報検索演習 文献検索方法について学び、PICOに基づいて実際にPubMed等を用いて文献検索する。	講義 + 演習	角館	予習: 文献検索方法について 復習: PubMed、医中誌を用いた検索
9	情報検索演習 Cochrane Library, Mindsを用いて、システマティックレビューや診療ガイドラインを検索する。	講義 + 演習	角館	予習: Cochrane Library/Minds 復習: システマティックレビュー・診療ガイドライン
10	システマティックレビュー・メタアナリシス・診療ガイドライン データ統合型研究・診療ガイドラインの詳細について学び、その評価方法について理解する。	講義	角館	予習: システマティックレビュー 復習: メタアナリシス
11	システマティックレビュー・メタアナリシスの読解 実際にデータ統合型研究論文の批判的吟味を行う。	演習	角館	予習: システマティックレビュー・メタアナリシス論文読解 復習: 論文の批判的吟味方法

2016年度

臨床研究デザイン（健康増進を目的とした臨床研究の 手法と研究計画の立案方法）（Clinical Research Design）

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	選択科目（専門）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯) 角館直樹 (口) 日高勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
12	プレゼンテーションスライド作成 各自で選んで批判的吟味した論文についてスライドを作成し、発表資料を作成し、質疑応答を行う。	演習	角館	予習：発表資料の作成 復習：発表資料の修正
13	論文の批判的吟味発表会 各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正
14	論文の批判的吟味発表会 各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正
15	論文の批判的吟味発表会 各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正

2016年度

臨床研究デザイン（健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法）（Clinical Research Design）

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	選択科目（専門）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)角館 直樹 (口)日高 勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

本講義では、臨床研究の専門的な知識および臨床研究を実践する上での応用力を養う。また、演習では診療現場におけるシナリオに基づいて研究プロトコルを作成するための能力を養う。最後に、研究プロトコルの発表会を行う。

学生の到達目標

1. 臨床疫学研究の計画から実施までの流れを理解できる。
2. 各自の診療上の疑問を定式化することができる。
3. 研究デザインを立案できる。
4. 統計的仮説検定の考え方を理解できる。
5. 研究プロトコルを作成することができる。

テキスト

講義・演習プリントを配布する。
出)

著)

参考書

Evidence-Based Dentistry 入門

出)永末書店

著)

医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 第3版

出)メディカルサイエンスインターナショナル社

著)

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド

出)医歯薬出版

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習の提出物	50%
発表会	20%

その他

学生相談：月曜日～金曜日まで随時受け付ける。原則として時間予約を行うこと。

2016年度

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法) (Clinical Research Design)

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)角館 直樹 (口)日高 勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	疑問の定式化 各自の診療上の疑問を用いてPICOのフォーマットを用いて定式化することの意義を学び、実践する。	講義	角館	予習：PICOについて 復習：Finerチェックについて
2	バイアスの制御 情報バイアス、選択バイアスなどについて理解し、その対処法を学ぶ。	講義 + 演習	角館	予習：研究デザイン 復習：情報バイアスと選択バイアスの制御方法
3	バイアスの制御 交絡バイアスについて理解し、それを制御する方法について学ぶ。	講義 + 演習	角館	予習：交絡バイアス 復習：交絡バイアスの制御方法
4	概念モデルの作成 第3の因子について学び、自らの仮説に基づいて概念モデルを作成する。	講義 + 演習	角館	予習：概念モデル 復習：概念モデルの作成
5	研究デザインの立案 自らの臨床上の疑問を解決するために適切な臨床研究デザインを選択する。	講義 + 演習	角館	予習：臨床研究デザイン 復習：各種の研究デザインの利点・欠点
6	研究デザインの立案 自らの臨床上の疑問を解決するために臨床研究をデザインを立案・計画する。	演習	角館	予習：臨床研究デザイン 復習：各種の研究デザインの利点・欠点
7	文献検索演習 文献検索方法について理解し、各自のPICOを基に文献検索する。	演習	角館	予習：文献検索方法 復習：PubMed、医中誌、Mindsの検索
8	文献検索演習 文献検索方法について理解し、各自のPICOを基に文献検索する。	演習	角館	予習：文献検索方法 復習：PubMed、医中誌、Mindsの検索
9	質問票の作り方・調査研究法 質問票の作り方を学び、実際に各自の質問項目を考える。	講義 + 演習	角館	予習：質問紙調査 復習：質問票の作成
10	統計解析の基本 データの種類と取扱い方についてまなび、相関について学習する。	講義	角館	予習：データの種類について 復習：相関について
11	統計解析の基本 仮説検定の方法について学び、カイ2乗検定について学習する。	講義 + 演習	角館	予習：検定について 復習：カイ2乗検定

2016年度

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の 手法と研究計画の立案方法) (Clinical Research Design)

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)角館 直樹 (口)日高 勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
12	統計解析の基本 統計学的有意差について学び、t検定について学習する。	講義 + 演習	角館	予習: t検定について 復習: 統計学的有意差について
13	研究計画書・倫理委員会への申請 研究計画書の作成方法・疫学研究における医療倫理について学び、実際に倫理委員会への書類提出のプロセスについて理解する。また、プレゼンテーションスライドを作成する。	講義 + 演習	角館	予習: 各種倫理指針・利益相反等 復習: 倫理委員会提出のプロセス
14	研究プロトコル最終発表会 各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションを行う。	演習	角館 唐木	予習: 発表用スライド準備 復習: スライド修正
15	研究プロトコル最終発表会 各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションを行う。	演習	角館 唐木	予習: 発表用スライド準備 復習: スライド修正

2016年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)唐木 純一 (口)日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

高齢期歯科疾患概論1(講義・演習)では、高齢者の身体的・社会的・精神的特徴について理解し、現在高齢者を取り巻く医療・介護制度についての把握をする。また、高齢期における歯科疾患の特徴を把握した上で、現在行われている細菌の培養・同定・毒性試験といった演習を通じて、口腔環境改善を通じた健康増進の観点から高齢者支援の知識を養う。

学生の到達目標

1. 高齢者の身体的な変化と口腔領域の老化を理解する。
2. 高齢者を取り巻く社会状況、医療・介護制度について理解する。
3. 高齢期に多い歯科疾患を理解する。
4. PCR法を理解・体得する。
5. 菌体成分の有害性を理解する。

テキスト

教科書は特に用いず、講義・演習プリントを配布する。各自の必要性に応じて参考書を購入すればよいが、どの参考書がよいか分からないときは随時相談に応じる。

出) 著)

参考書

- 老年医学への招待
出) 著)
- 高齢者歯科ガイドブック
出) 著)
- 口腔微生物学・免疫学
出) 著)
- 改訂PCR実験ノート
出) 著)
- 細胞培養入門ノート
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習態度	20%
プレゼンテーション	50%

その他

随時学習相談に対応する。
本科目は大学間連携共同教育推進事業科目に設定されている。
受講生の希望により、必要に応じて遠隔講義にて講義を行う。

2016年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)唐木 純一 (口)日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	高齢者歯科総論と老年症候群 高齢者歯科の特殊性について理解する。老年症候群について学ぶ。	講義	唐木	復習:老年症候群
2	高齢者を取り巻く医療・介護制度 高齢者医療制度の歩みと現状の高齢者医療制度について学ぶ。	講義	唐木	復習:高齢者医療制度
3	高齢者医療の現状 高齢者医療の現状と訪問歯科の現状について学ぶ。	講義	唐木	復習:訪問歯科の現状
4	高齢者に多い歯科疾患の特徴 う蝕・歯周病を主に、高齢者の歯科疾患の特徴について学ぶ。	演習	唐木	復習:高齢者の歯科疾患の特徴
5	高齢者に多い歯科疾患の特徴 舌痛症・口腔乾燥症・嚥下障害を主に、高齢者の歯科疾患の特徴について学ぶ。	演習	唐木	復習:高齢者の歯科疾患の特徴
6	サンプリング方法・PCR法の説明 細菌試験のサンプリング方法と、PCR法の手順について理解する。	講義	唐木	復習:細菌のサンプリング法
7	歯周ポケット内の細菌DNA解析 歯周病原細菌の種類と細菌サンプルの取り扱いについて学ぶ。	演習	唐木	予習:細菌サンプルの取り扱い
8	歯周ポケット内の細菌DNA解析 PCR法の原理について学び、DNA抽出実験を行う。	演習	唐木	予習:DNA抽出法
9	歯周ポケット内の細菌DNA解析 歯周ポケット内の細菌DNA解析 で抽出したDNAを用いてPCR法を行う。	演習	唐木	予習:PCR法 復習:データ分析
10	歯周ポケット内の細菌DNA解析 データの分析を行う。	演習	唐木	予習:データ分析
11	細菌酵素抽出法・毒性試験の説明 細菌酵素抽出法と毒性試験の概要について理解する。	講義	唐木	復習:細胞毒性試験
12	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 細胞培養とその扱い方について学ぶ。	演習	唐木	復習:細胞培養法
13	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 様々な細胞毒性試験について学ぶ。	講義・演習	唐木	復習:細胞毒性試験の方法
14	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 細胞毒性試験を行い、データの分析を行う。	演習	唐木	復習:データ分析
15	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 データの分析を行い、その結果に基づいて発表を行う。	演習	唐木	予習:データ分析

2016年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)唐木 純一 (口)日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

高齢期歯科疾患概論2(講義・演習)では、高齢期における歯科疾患の特徴と全身状態との関連について把握し、高齢者口腔内疾患の病態を理解した上で、口臭成分分析と最新の情報の検索演習を通じて、口腔環境改善を通じた健康増進の観点から高齢者支援の知識を養う。

学生の到達目標

1. 高齢者歯科医療分野におけるQOLの重要性について理解する。
2. 高齢期に多く見られる口腔関連疾患について理解する。
3. 口臭成分分析法・細菌培養法を理解する。
4. 高齢者歯科医療分野における最新の情報を検索でき、それをまとめることができる。

テキスト

教科書は特に用いず、講義・演習プリントを配布する。各自の必要性に応じて参考書を購入すればよいが、どの参考書がよいか分からないときは随時相談に応じる。

出) (著)

参考書

高齢者歯科ガイドブック
出) (著)

口腔微生物学・免疫学
出) (著)

改訂PCR実験ノート
出) (著)

細胞培養入門ノート
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習態度	20%
プレゼンテーション	50%

その他

随時学習相談に対応する。

本科目は大学間連携共同教育推進事業科目に設定されている。

受講生の希望により、必要に応じて遠隔講義にて講義を行う。

2016年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯)唐木 純一 (口)日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	高齢者のQOL QOLの概念と高齢者歯科医療における重要性を理解する。	講義	唐木	復習: QOL
2	高齢者のQOL 終末期医療におけるQOLの重要性と、死生観について学ぶ。	講義	唐木	復習:死生観
3	口腔乾燥症とは? 口腔乾燥症の症状と診断方法について学ぶ。	講義	唐木	復習:口腔乾燥症
4	口腔乾燥症の治療 口腔乾燥症の治療の現状について学ぶ。	講義	唐木	復習:口腔乾燥症 の治療
5	代替医療 さまざまな代替医療と、統合医療の概念について学ぶ。	講義	唐木	復習:統合医療
6	誤嚥性肺炎とは? 誤嚥性肺炎の概要について理解する。	講義	唐木	復習:誤嚥性肺炎
7	誤嚥性肺炎と口腔ケア 誤嚥性肺炎の予防法について口腔ケアを主として学習する。	講義	唐木	復習:口腔ケア
8	機能評価 代表的な全身状態の機能評価について学ぶ。	講義	唐木	復習:全身機能評 価法
9	機能評価 代表的な口腔関連の機能評価について学ぶ。	講義	唐木	復習:口腔内機能 評価法
10	リスク管理 転倒・誤嚥を代表とする高齢者のリスク管理について学ぶ。	講義	唐木	復習:高齢者のリ スク管理
11	サンプリング方法・細菌培養法の説明 細菌検査のサンプリング方法と細菌培養法について理解する。	講義	唐木	復習:細菌培養法
12	口臭成分分析と細菌培養 受講生間での口臭成分分析を行う。	演習	唐木	復習:口臭成分分 析データの分析
13	口臭成分分析と細菌培養 培地の作成と細菌培養を行う。	演習	唐木	予習:細菌培養法
14	高齢者歯科医療の最新の知見 高齢者歯科医療の最新の知見について検索を行う。	演習	唐木	復習:論文探索
15	高齢者歯科医療の最新の知見 高齢者歯科医療の最新の知見についての検索を行い、プレゼンテーションを行う。	演習	唐木	予習:論文探索

2016年度

高分子物性論 (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1～2年	期区分	後期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	櫻井 和朗						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						

授業の概要

タンパク質などの生体高分子や医療材料につかわれるシリコンなどの合成高分子の理解に不可欠な高分子物性の基礎に関して学ぶ。

学生の到達目標

医療分野で使われるプラスチック材料の理解に、必要な高分子の性質の基礎について、分子量、結晶化、レオロジー、散乱に関して理解をする。

テキスト

出) 著)

参考書

基礎高分子科学 2006年 ISBN 978-4-8079-0635-2
出)東京化学同人 著)高分子学会

高分子の物理学 1994年 ISBN 978-4-7853-2056-0
出)裳華房 著)田中文彦

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

その他

2016年度

高分子物性論 (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1～2年	期区分	後期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	櫻井 和朗						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	高分子とは	講義	櫻井	-
2	分子鎖の形態	講義	櫻井	-
3	高分子のコンフィギュレーション	講義	櫻井	-
4	高分子のコンフォメーション	講義	櫻井	-
5	結晶化状態	講義	櫻井	-
6	一次結晶化	講義	櫻井	-
7	二次結晶化	講義	櫻井	-
8	エントロピー弾性力	講義	櫻井	-
9	粘弾性	講義	櫻井	-
10	誘電性	講義	櫻井	-
11	界面物性	講義	櫻井	-
12	高分子と散乱 I	講義	櫻井	-
13	高分子と散乱 II	講義	櫻井	-
14	高分子と散乱 III	講義	櫻井	-
15	まとめ	講義	櫻井	-

2016年度

生体材料論 (Biomaterials)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中澤 浩二						
担当教員	〔非常勤講師〕中澤 浩二						

授業の概要

生体材料は、医療器具、再生医療、人工臓器、細胞培養などのライフサイエンス分野において欠くことのできない材料である。本講義では、生体材料として利用される材料の種類とその特徴、生体材料に求められる条件、さらには材料と生体間で起こる反応について理解する。

学生の到達目標

1. 生体材料の特徴と必要条件を理解する。
2. 材料と生体間で起こる反応を理解する。
3. 生体材料の設計や開発に必要な知識を修得する。
4. 生体材料の開発に関する近年の動向を知る。
5. 生体適合性を高めるための方針やアイデアを提案できる。

テキスト

出) 著)

参考書

新版ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル 2011年 2,800 ISBN 978-4-7809-0845-9

出)秀潤社

著)古園勉・岡田正弘

先端バイオマテリアルハンドブック 2012年 52,000 ISBN 978-4-86469-003-4

出)NTS

著)秋吉一成・石原一彦・山岡哲二監修

成績評価方法・基準

評価項目	割合
積極的な授業参加	30%
レポート	70%

その他

2016年度

生体材料論 (Biomaterials)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中澤 浩二						
担当教員	〔非常勤講師〕中澤 浩二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	バイオマテリアルとは	講義	中澤	-
2	バイオマテリアルの必要条件	講義	中澤	-
3	生体適合性	講義	中澤	-
4	異物反応	講義	中澤	-
5	マテリアルと生体反応	講義	中澤	-
6	マテリアルの界面設計	講義	中澤	-
7	安全性試験	講義	中澤	-
8	金属	講義	中澤	-
9	セラミックス	講義	中澤	-
10	高分子	講義	中澤	-
11	天然高分子	講義	中澤	-
12	プレゼンと討論 1 (前半組)	講義	中澤	-
13	プレゼンと討論 2 (後半組)	講義	中澤	-
14	総合討論	講義	中澤	-
15	まとめ	講義	中澤	-

2016年度

物理化学概論 (Introduction to physical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕横野 照尚、〔非常勤講師〕竹中 繁織						

授業の概要

学部で習得した物理化学に関する知識をさらに発展させ物理化学の応用について講義する。学年に応じてトピック的な主題を取り上げ、基礎から応用まで講義する。

学生の到達目標

熱力学を理解できる。
動力学を理解できる。
化学平衡を理解できる。
量子化学を理解できる。
統計熱力学を理解できる。
電気化学を理解できる。
群論を理解できる。

テキスト

関連資料を事前に配布する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小テストや試験	100%

講義ノートの提出を求める。授業中の小テストや試験にて評価をおこなう。

その他

月～金12:00～13:00・16:30～18:00

2016年度

物理化学概論 (Introduction to physical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕横野 照尚、〔非常勤講師〕竹中 繁織						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	気体と熱力学第零法則	講義	横野 竹中	文献、参考書予習
2	熱力学第一法則	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
3	熱力学第二法則と第三法則	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
4	自由エネルギーと化学ポテンシャル	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
5	化学平衡	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
6	一成分系・多成分系における平衡	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
7	電気化学とイオン溶液	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
8	量子力学入門	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
9	量子力学の適用 - モデル系と水素原子 -	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
10	原子と分子	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
11	量子力学における対称性	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
12	回転分光と振動分光	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
13	統計熱力学	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
14	気体分子運動論	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
15	反応速度論	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習

2016年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕山田 宏						

授業の概要

身体各部は内外で生じる力を受けており、その機能や挙動の一部は力学的現象である。生体現象と力学的因子との関係の解明は工学的観点から健康増進や障害・疾病の予防を支援する第一歩となる。本講義では筋骨格系等における生体組織の力学特性と工学的アプローチの習得のため、固体力学の立場から生体の構造、機能と応答を評価・解析する方法論を教授する。

学生の到達目標

1. バイオメカニクスの概要と関連分野を説明できる。
2. ニュートン力学の理論に基づいて筋骨格系に働く力を計算できる。
3. 材料力学の考え方に基づいて骨や歯の力学特性や応力状態を説明できる。
4. 粘弾性理論に基づいて生体軟組織の応力緩和やクリープ変形を説明できる。
5. 連続体力学の考え方に基づいて生体軟組織の大変形を説明できる。
6. 組織と細胞の材料力学試験と有限要素法による応力・ひずみ解析の方法を説明できる。

テキスト

力学の基礎とバイオメカニクス
 出)コロナ社

著)山田宏

補足資料は適宜配布する。
 出)

著)

参考書

講義内で紹介する。
 出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小課題	50%
各人の疑問に基づいた調査報告	20%
期末試験	30%

小課題は毎回の講義で課し、時間内に回収する。

その他

随時、相談を受け付ける。

2016年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕山田 宏						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	バイオメカニクスの概要と関連分野	講義	山田	文献、参考書 予習
2	ニュートン力学の基礎と無重量状態	講義	山田	講義・演習の 復習と 次回講義部分 の予習
3	静止状態で筋骨格系に働く力	講義	山田	講義・演習の 復習と 次回講義部分 の予習
4	材料力学の基礎と硬組織の微小変形	講義	山田	講義・演習の 復習と 次回講義部分 の予習
5	骨や歯の力学特性(正常状態)	講義	山田	講義・演習の 復習と 次回講義部分 の予習
6	骨や歯の力学特性(修復状態)	講義	山田	講義・演習の 復習と 次回調査の準備
7	疑問に基づいた調査・発表1(第1～6回)	演習	山田	調査内容の復 習と 次回講義部分 の予習
8	粘弾性理論の基礎と軟組織の粘弾性特性	講義	山田	調査内容の復 習と 次回講義部分 の予習
9	能動的収縮力を発揮する骨格筋の力学特性	講義	山田	調査内容の復 習と 次回講義部分 の予習
10	連続体力学の基礎と軟組織の大変形	講義	山田	調査内容の復 習と 次回講義部分 の予習
11	心臓・血管の力学特性1(生理的機能)	講義	山田	調査内容の復 習と 次回講義部分 の予習
12	心臓・血管の力学特性2(加齢・病変)	講義	山田	調査内容の復 習と 次回講義部分 の予習
13	衝撃等に対する生体組織の動的力学特性	講義	山田	調査内容の復 習と 次回講義部分 の予習

2016年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕山田 宏						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
14	組織・細胞の材料力学試験と有限要素解析	講義	山田	講義・演習の復習と次回調査の準備
15	疑問に基づいた調査・発表2(第8～14回)	演習	山田	調査内容の復習と期末試験の準備
16	期末試験	筆記試験	山田	試験の準備と復習

2016年度

産業医学研究基盤コース (Medical Research Basic Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 真澄						
担当教員	〔非常勤講師〕井上 真澄						

授業の概要

産業医学研究を進めるにあたって必須となる基盤的事項を理解し、研究者としての基本的な倫理観・態度を養う。

学生の到達目標

1. 大学院の使命を論じることができる。
2. トランスレーショナルリサーチについて説明できる。
3. 医学倫理・研究倫理について説明できる。
4. 研究における利益相反について説明できる。
5. 産業医学研究における疫学的手法について説明できる。
6. 基本的な統計学的手法を使うことができる。
7. 論文投稿・発表の倫理について説明できる。

テキスト

講義の中で必要に応じ紹介する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表、討論、レポート等	100%

発表、討論、レポート等により、総合的に評価する。

その他

2016年度

産業医学研究基盤コース (Medical Research Basic Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 真澄						
担当教員	〔非常勤講師〕井上 真澄						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	大学院の使命	講義	井上	-
2	医学研究法	講義	井上	-
3	トランスレーショナルリサーチ	講義	井上	-
4	医学倫理・研究倫理	講義	井上	-
5	研究における利益相反	講義	井上	-
6	疫学	講義	井上	-
7	統計学	講義	井上	-
8	医学英語	講義	井上	-
9	組織形態学観察法についての基礎知識	講義	井上	-
10	英語論文作成手法	講義	井上	-
11	論文投稿・発表の倫理	講義	井上	-
12	研究用微生物の取り扱い	講義	井上	-
13	動物実験を行う上での基礎知識	講義	井上	-
14	組み換えDNA及びWeb siteを用いた遺伝情報の収集	講義	井上	-
15	RIを使ったバイオ実験および放射線取り扱いの基礎知識	講義	井上	-

2016年度

医学研究概論 (Medical Research Introductory Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 真澄						
担当教員	〔非常勤講師〕井上 真澄、〔非常勤講師〕東 華岳、〔非常勤講師〕森本 景之、〔非常勤講師〕佐藤 寛晃、〔非常勤講師〕上野 光、〔非常勤講師〕岩井 佳子、〔非常勤講師〕上田 陽一、〔非常勤講師〕柳原 延章、〔非常勤講師〕吉田 安宏、〔非常勤講師〕足立 弘明、〔非常勤講師〕田中 良哉、〔非常勤講師〕久岡 正典、〔非常勤講師〕齋藤 光正、〔非常勤講師〕平田 敬治、〔非常勤講師〕田中 文啓、〔非常勤講師〕酒井 昭典、〔非常勤講師〕佐伯 覚、〔非常勤講師〕原田 大、〔非常勤講師〕中村 元信、〔非常勤講師〕藤本 直浩、〔非常勤講師〕尾辻 豊、〔非常勤講師〕興梠 征典、〔非常勤講師〕矢寺 和博、〔非常勤講師〕西澤 茂、〔非常勤講師〕近藤 寛之、〔非常勤講師〕鈴木 秀明、〔非常勤講師〕川崎 貴士、〔非常勤講師〕蜂須賀 徹、〔非常勤講師〕梶原 浩一						

授業の概要

本学で行われている医学研究の概要により、最新の医学研究に関する広範な知識を得るとともに、これから研究を進めるにあたって必要なリサーチマインドの熟成を目指す。

学生の到達目標

1. 医学研究の目的や意義について説明できる。
2. 最新の医学研究の動向について理解する。
3. 医学研究の特徴と様々な方法について学び、研究の基本的なプロセスを理解する。
4. 医学研究を行うにあたっての倫理的配慮および社会的責務について理解する。
5. 実際の研究方法について、具体例を通じて理解する。
6. 研究計画書の書き方を理解する。

テキスト

講義の中で必要に応じ紹介する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表、討論、レポート等	100%

発表、討論、レポート等により、総合的に評価する。

その他

所属講座の教員の指導のもと、15コマを選択し受講すること。

2016年度

医学研究概論 (Medical Research Introductory Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 真澄						
担当教員	〔非常勤講師〕井上 真澄、〔非常勤講師〕東 華岳、〔非常勤講師〕森本 景之、〔非常勤講師〕佐藤 寛晃、〔非常勤講師〕上野 光、〔非常勤講師〕岩井 佳子、〔非常勤講師〕上田 陽一、〔非常勤講師〕柳原 延章、〔非常勤講師〕吉田 安宏、〔非常勤講師〕足立 弘明、〔非常勤講師〕田中 良哉、〔非常勤講師〕久岡 正典、〔非常勤講師〕齋藤 光正、〔非常勤講師〕平田 敬治、〔非常勤講師〕田中 文啓、〔非常勤講師〕酒井 昭典、〔非常勤講師〕佐伯 覚、〔非常勤講師〕原田 大、〔非常勤講師〕中村 元信、〔非常勤講師〕藤本 直浩、〔非常勤講師〕尾辻 豊、〔非常勤講師〕興梠 征典、〔非常勤講師〕矢寺 和博、〔非常勤講師〕西澤 茂、〔非常勤講師〕近藤 寛之、〔非常勤講師〕鈴木 秀明、〔非常勤講師〕川崎 貴士、〔非常勤講師〕蜂須賀 徹、〔非常勤講師〕楠原 浩一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	構造形態と組織構造	講義	東 華岳	-
2	機能形態と細胞構造	講義	森本 景之	-
3	法医診断学概論	講義	佐藤 寛晃	-
4	がん幹細胞とは	講義	上野 光	-
5	遺伝機能と情報高分子	講義	岩井 佳子	-
6	統合の生理機構	講義	上田 陽一	-
7	適応の生理機構	講義	井上 真澄	-
8	生体情報と伝達機構	講義	柳原 延章	-
9	生体防御と認識機構	講義	吉田 安宏	-
10	神経疾患の分子生物学	講義	足立 弘明	-
11	臨床免疫学	講義	田中 良哉	-
12	病態病理学	講義	久岡 正典	-
13	感染病態学	講義	齋藤 光正	-
14	臓器障害学概論	講義	平田 敬治	-
15	臓器障害学概論	講義	田中 文啓	-
16	運動器障害学概論	講義	酒井 昭典	-
17	運動器障害学概論	講義	佐伯 覚	-
18	消化器障害	講義	原田 大	-
19	付属器の幹細胞について	講義	中村 元信	-
20	尿路機能異常	講義	藤本 直浩	-
21	虚血性僧帽弁逆流の機序と対策	講義	尾辻 豊	-

2016年度

医学研究概論 (Medical Research Introductory Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	選択科目(専門)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 真澄						
担当教員	〔非常勤講師〕井上 真澄、〔非常勤講師〕東 華岳、〔非常勤講師〕森本 景之、〔非常勤講師〕佐藤 寛晃、〔非常勤講師〕上野 光、〔非常勤講師〕岩井 佳子、〔非常勤講師〕上田 陽一、〔非常勤講師〕柳原 延章、〔非常勤講師〕吉田 安宏、〔非常勤講師〕足立 弘明、〔非常勤講師〕田中 良哉、〔非常勤講師〕久岡 正典、〔非常勤講師〕齋藤 光正、〔非常勤講師〕平田 敬治、〔非常勤講師〕田中 文啓、〔非常勤講師〕酒井 昭典、〔非常勤講師〕佐伯 覚、〔非常勤講師〕原田 大、〔非常勤講師〕中村 元信、〔非常勤講師〕藤本 直浩、〔非常勤講師〕尾辻 豊、〔非常勤講師〕興梠 征典、〔非常勤講師〕矢寺 和博、〔非常勤講師〕西澤 茂、〔非常勤講師〕近藤 寛之、〔非常勤講師〕鈴木 秀明、〔非常勤講師〕川崎 貴士、〔非常勤講師〕蜂須賀 徹、〔非常勤講師〕楠原 浩一						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
22	医用画像から得られる最新生体情報	講義	興梠 征典	-
23	呼吸器感染症	講義	矢寺 和博	-
24	脳循環	講義	西澤 茂	-
25	視覚情報の処理機構	講義	近藤 寛之	-
26	嚥下障害	講義	鈴木 秀明	-
27	外科的侵襲とその制御	講義	川崎 貴士	-
28	産婦人科癌の病因について	講義	蜂須賀 徹	-
29	小児感染症と宿主遺伝要因	講義	楠原 浩一	-

2016年度

人間工学特論 (Advanced Occupational Ergonomics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	選択科目(専門)	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	藤木 通弘						
担当教員	〔非常勤講師〕藤木 通弘、〔非常勤講師〕泉 博之						

授業の概要

産業医学における人間工学の果たす役割について、その基本的な考え方などについて理解するとともに、作業管理の現場において応用できる知識の習得を目指す。また、高齢労働者対策については特に深く理解できるようにする。さらに、測定機器の使用法などについても、グループワークなどを通じて身につけさせる。

学生の到達目標

1. 人間工学で知っておくべき生理学の知識を概説できる。
2. 人間工学で知っておくべき解剖学及び運動学の知識を概説し、その応用ができる。
3. 筋骨格系障害についてその発生要因について説明できる。
4. エラーについて、その評価方法やその低減方法について説明できる。
5. 疲労について、その基本的考え方および対策について説明できる。
6. 老化について説明ができ、高齢労働者に対する対策について説明できる。

テキスト

講義の中で必要に応じ紹介する。
出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
検討会での討論・発表・レポート等	100%

その他

2016年度

人間工学特論 (Advanced Occupational Ergonomics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	選択科目(専門)	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	藤木 通弘						
担当教員	〔非常勤講師〕藤木 通弘、〔非常勤講師〕泉 博之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	人間工学で知っておくべき生理学的知識	講義	藤木 通弘	-
2	人間工学で知っておくべき解剖学的および運動学的知識とその応用	講義・演習	泉 博之	-
3	生体情報の測定とその利用	講義・演習	藤木 通弘	-
4	疲労について	講義	泉 博之	-
5	エラーの評価方法とその低減方法	講義	泉 博之	-
6	老化と高年齢労働者問題	講義	藤木 通弘	-
7	作業関連性筋骨格系障害：上肢	講義・演習	藤木 通弘	-
8	作業関連性筋骨格系障害：腰痛、その他	講義・演習	泉 博之	-

2016年度

生命・医療倫理学 (Life and Medical Ethics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	基礎科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、秋房 住郎						

授業の概要

研究を遂行するにあたって必要となるヒトおよび実験動物等に対する倫理の実際と理論について講義する。

学生の到達目標

1. 生命科学研究における倫理について説明できる。
2. 臨床研究における倫理について説明できる。
3. 医療人として涵養すべき倫理について説明できる。
4. 歯科衛生士の倫理問題について説明できる。
5. 法令で規定する臨床試験の実施基準を理解する。

テキスト

出) 著)

参考書

臨床研究のための倫理審査ハンドブック

出)メディカ出版 著)笹栗俊之、池松秀之

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習課題	40%

講義の事後レポート(1～6回分)6回×10点、演習課題の提出(7、8回分)2回×20点で評価する。

その他

学生相談：随時

2016年度

生命・医療倫理学 (Life and Medical Ethics)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	基礎科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	医療人が涵養すべき医の倫理に関する基本的知識と態度 医療人が涵養すべき医の倫理に関する基本的知識と態度について、国の指針等を踏まえながら学習する。	講義	日高	事後レポートの提出
2	動物を用いた実験研究を遂行するにあたり関連する法律・指針 動物を用いた実験研究を遂行するにあたり、動物愛護に関連する法律・指針等とこれらの精神に基づく3Rの考え方について学習する。さらに、動物実験における感染症対策や国外における近年の傾向についても学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
3	人間を対象とした研究のうち、臨床研究における研究に係る倫理の実際 臨床研究のデザインと臨床研究機関における倫理委員会等の規定およびその委員会等への申請の具体的方法を学ぶ。	講義	引地	事後レポートの提出
4	人間を対象とした研究で、疫学研究および臨床研究（臨床試験を含む）に係る法令・指針 医療法や医薬品医療機器等法に加え、人間を対象とした疫学研究および臨床研究については、国から各種指針が示されており、それらを踏まえ学習する。	講義	日高	事後レポートの提出
5	歯科衛生士が臨床や保健活動で会得しておくべき倫理観について、その理論と実際 歯科衛生士が歯科医療の臨床および歯科保健活動で会得しておくべき倫理観について、その理論と実際について講義する。また歯科衛生士の倫理規範、守秘義務、法的義務についても学習する。	講義	中道	事後レポートの提出
6	保健・福祉に係る倫理についての理論と社会的通念の比較を通して、歯科衛生士としてのあるべき姿 保健・福祉に係る倫理についての国内外の理論と社会的通念との比較を通して、医療人として求められる歯科衛生士としてのあるべき姿を学習する。	講義	秋房	事後レポートの提出
7	倫理申請の実際1（申請書の作成） ヒトおよび動物を用いた研究を行うのに必要な倫理申請の実際について、九州歯科大学倫理審査の様式を用いて作成する。	演習	日高、井上、引地、中道、秋房	事後レポートの提出
8	倫理申請の実際2（倫理的研究方法） ヒトおよび動物を用いた研究を行うのに必要な倫理的方法について実例を示しながら理解する。	演習	日高、井上、引地、中道、秋房	事後レポートの提出

2016年度

口腔保健科学特論 (Advanced Oral Health Sciences)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	基礎科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、秋房 住郎、久保田 浩三						

授業の概要

口腔保健学に関する最新の知見についてオムニバス形式で講義する。

学生の到達目標

1. 歯科診療における感染予防対策の実際や最近の知見について説明できる。
2. 顎顔面領域の先天性疾患、外傷、腫瘍などにおける最近の知見とその診断・治療について説明できる。
3. 診療情報の管理や提供、医療広告に関する国の指針等について説明できる。
4. 口腔健康学に関わる理論とアプローチについて説明できる。
5. 免疫学的観点を踏まえた歯科的疾患と全身的健康状態の関わりについて説明できる。
6. ICFからみた健康の総体についての観念について説明できる。
7. 歯周疾患と全身疾患との関連性及び全身疾患を有する患者の歯周治療について説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

医療六法

出)中央法規出版 (著)

口腔外科ハンドマニュアル '09-13

出)クインテッセンス出版 (著)福田仁一他編集

エビデンスに基づく一般歯科診療における院内感染対策実践マニュアル(日本歯科医学会認定歯科診療ガイドライン)

出) (著)日本歯科医学会

ケアプランに活かすICFの視点

出)日総研出版 (著)諏訪 さゆり、大滝 清作

ザ・ペリオドントロジー

出)永末書店 (著)和泉雄一 他

歯周病の臨床

出)医歯薬出版 (著)長谷川紘司 他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	90%
試問	10%

事後レポート15回×6点、試問10点により評価する。

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔保健科学特論 (Advanced Oral Health Sciences)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	基礎科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、秋房 住郎、久保田 浩三						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	診療情報の管理や提供 患者情報・医療機関情報の種類、診療に関する記録の取扱いと保存、医療情報提供制度について学習する。	講義	日高	事後レポートの提出
2	診療情報の管理や提供 各種診療記録（診療録、診断書、処方せん、歯科衛生士業務記録、歯科技工指示書、照射録等）の法令上の位置づけおよび記載のあり方等について学習する。	講義	日高	事後レポートの提出
3	診療情報の管理や提供 診療情報の提供等に関する指針、医療・介護における個人情報の適切な取扱い、医療情報システムの安全管理等について学習する。	講義	日高	事後レポートの提出
4	歯科診療における感染予防対策の実際や最近の知見 一般歯科診療における感染の危険性とその対策を学習する。	講義	井上	事後レポートの提出
5	歯科診療における感染予防対策の実際や最近の知見 特にHIVとHBV及びHCVに対する感染とその対策を学習する。	講義	井上	事後レポートの提出
6	顎顔面領域疾患その1 先天性疾患における最近の知見とその診断・治療を学ぶ。	講義	引地	事後レポートの提出
7	顎顔面領域疾患その2 外傷などにおける最近の知見とその診断・治療を学ぶ。	講義	引地	事後レポートの提出
8	顎顔面領域疾患その3 腫瘍などにおける最近の知見とその診断・治療を学ぶ。	講義	引地	事後レポートの提出
9	口腔健康学に関わる理論とアプローチ 健康信念モデル、変化のステージモデルなどの理論を用いて、口腔保健教育の実際について学習する。	講義	中道	事後レポートの提出
10	口腔健康学に関わる理論とアプローチ2 口腔保健分野における各理論の実際の活用について学習する。	講義	中道	事後レポートの提出
11	免疫学的観点を踏まえた歯科的疾患と全身的健康状態の関わり 歯科的疾患と全身的健康状態の関わりについて、免疫学的観点を踏まえて学ぶ。	講義	秋房	事後レポートの提出
12	ソーシャルキャピタルと口腔保健 地域におけるソーシャルキャピタルが口腔保健に及ぼす影響について学習する。また、健康格差の問題についても触れる。	講義	秋房	事後レポートの提出
13	ICFからみた健康の総体についての観念 ICFからみた健康の総体についての観念を学習する。	講義	秋房	事後レポートの提出
14	歯周疾患と全身疾患との関連性及び全身疾患を有する患者の歯周治療について 歯周疾患関連の全身疾患との関連性について学習する。	講義	久保田	事後レポートの提出
15	歯周疾患と全身疾患との関連性及び全身疾患を有する患者の歯周治療について 歯周疾患関連の全身疾患での歯周治療法を学ぶ。	講義	久保田	事後レポートの提出

2016年度

生命科学論文作成概論 (How to Write Life and Medical Article)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	基礎科目	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、吉野 賢一、園木 一男、辻澤 利行						

授業の概要

学术论文における表題、著者欄、抄録、序論、対象と材料と方法、結果と観察、考察、謝辞、引用文献の書き方および図表の作成方法について理解する。あわせて文献探索や原稿校正の方法、著者として必要な倫理について学ぶ。

学生の到達目標

1. 著者としての倫理的判断ができる。
2. 論文の種類と構成を説明できる。
3. 論文として相応しい文体の使用、図表の作成、文献の引用ができる。
4. 論文に用いられる略語、記号、用語が説明できる。
5. 編集者や校閲者の指摘を理解し校正することができる。

テキスト

講義ごとに資料を配布する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

点数配分：レポート100点で8回の平均点で評価する。

その他

学生相談：8：30～17：15

2016年度

生命科学論文作成概論 (How to Write Life and Medical Article)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	基礎科目	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、吉野 賢一、園木 一男、辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	著者としての倫理 研究者が社会において守るべき（とくに論文として発表する際の）倫理について学ぶ。	講義	久保田	事後レポートの提出
2	論文の種類 研究論文、総説論文、症例報告、あるいは口頭発表やポスターを基盤にする抄録などについて学ぶ。	講義	久保田	事後レポートの提出
3	論文の構成 表題、著者、抄録、序論、材料と方法、結果、考察、謝辞および引用文献などの構成について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
4	論文の文体 学術論文における文体や構造について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
5	図表の作成 図や表の構成、文字と説明書き、縮尺、単位などについて学ぶ。	講義	園木	事後レポートの提出
6	参考文献の引用 本文で引用すべき参考文献の選択、および文献リストの作成などを学ぶ。	講義	園木	事後レポートの提出
7	論文に用いる略語、記号、用語 学術論文に用いられる略語、記号、および専門用語について学ぶ。	講義	辻澤	事後レポートの提出
8	論文の校閲と校正 自他者の論文を校閲および校正するために必要な知識と手技を学ぶ	講義	辻澤	事後レポートの提出

2016年度

医療情報学特論 (Advanced Medical Informatics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋						

授業の概要

医療におけるICTの活用事例を学ぶ。また、システム構築時における留意点や、医療従事者、患者間の意識ギャップについて演習形式でディスカッションを行う。

学生の到達目標

1. 医療情報システムを理解できる。
2. 医療情報倫理を理解できる。
3. 利用者感情を踏まえた医療情報システムの最適化ができる。

テキスト

出) 著)

参考書

医療ITシステム 診療・経営のための情報活用戦略と実践事例 (医療経営士テキスト 中級 一般講座)

出) 著)森川富昭

新版医療情報 医療情報システム編

出) 著)日本医療情報学会医療情報技師育成部会

医療情報 医学・医療編

出) 著)日本医療情報学会医療情報技師育成部会

医療情報 情報処理技術編

出) 著)日本医療情報学会医療情報技師育成部会

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	70%
プレゼンテーション	30%

点数配分：レポート1回10点満点×7回、プレゼンテーション30点満点

その他

2016年度

医療情報学特論 (Advanced Medical Informatics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中原 孝洋						
担当教員	中原 孝洋						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	医療情報システムについての実態について体験する 本学附属病院で使用している医療情報システムについて、練習環境を使用し、医療情報システムの基本機能を学ぶ。また、電子環境下でのPOMR形式の記載について体験する。	講義・演習	中原	事後レポートの提出
2	歯科におけるICT、CAD/CAM(1) 歯科分野におけるCAD/CAMの論文を検索、抄読するとともに、現在までの歴史と将来への発展性についてディスカッションを行う。	講義・演習	中原	論文検索・抄読 事後レポートの提出
3	歯科におけるICT、CAD/CAM(2) 実際に、CAD/CAMシステムが導入されている技工所ないし歯科診療所を見学し、システムの運用実態と技術面での課題をまとめる。	講義・演習	中原	事後レポートの提出
4	医療情報倫理、個人情報保護と医療従事者の意識ギャップ 個人情報の漏洩事例をもとに、本質的な原因を追求する。また、国民サイドの要求と医療現場の運用や意識とのギャップについて意見を出す。	講義・演習	中原	事後レポートの提出
5	医療におけるトレーサビリティシステムの必要性 薬事法に定められた医療材料・医薬品のトレーサビリティについて理解する。さらに、流通や医療現場との乖離について解説を加え、ディスカッションを行う。	講義・演習	中原	事後レポートの提出
6	歯科に必要な医療情報システム(1) 第1～5回の講義・演習を通し、歯科医療ICTについて機能面での項目を出し、理想的なシステム概念をまとめる。	講義・演習	中原	事後レポートの提出
7	歯科に必要な医療情報システム(2) 第6回を踏まえて、実現化に必要な技術の調査及び導入時のメリット・デメリットについてロールプレイなどを通してシミュレーションする。	講義・演習	中原	資料作成・発表 事後レポートの提出
8	プレゼンテーション 「理想的な歯科医療ICT」について、プレゼンテーションを行うとともに、質疑を通して理解を深める。	講義・演習	中原	資料作成・発表

2016年度

内科学特論 (Advanced Internal Medicine)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	園木 一男						
担当教員	園木 一男						

授業の概要

内科系疾患を系統的に学びながら口腔疾患に影響する内科系疾患、あるいは逆に口腔疾患が内科系疾患にどのように影響するのか学ぶ。さらに内科系疾患と口腔疾患との関係を報告した最新の文献にもふれる。

学生の到達目標

1. 全身疾患の部分症状としての口腔症状には何があり、その疾患と口腔症状を説明できる。
2. 口腔疾患の経過に影響を及ぼす全身疾患には何があり、その疾患と口腔症状を説明できる。
3. 口腔疾患に起因する全身疾患には何があり、その疾患を説明できる。
4. 目的にあった文献を検索し、理解、まとめ、資料を作成し、説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

口腔内科学シークレット
出)MEDSi

著)島原政司、勝 健一

口腔と全身の健康
出)医歯薬出版

著)第22回日本歯科医学会総会記念誌
編集委員会

口腔の病気と全身の健康
出)医歯薬出版

著)田中健蔵その他

知って安心! 全身疾患ガイド
出)医歯薬出版

著)デンタルハイジーン別冊

成績評価方法・基準

評価項目	割合
論文の理解度	30%
プレゼンテーション	30%
事後レポート	30%
全体諮問	10%

その他

2016年度

内科学特論 (Advanced Internal Medicine)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	園木 一男						
担当教員	園木 一男						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	全身疾患の部分症状としての口腔症状その1 感染症、血液疾患による口腔症状を学ぶ。	講義	園木	-
2	全身疾患の部分症状としての口腔症状 その2 膠原病、内分泌疾患による口腔症状を学ぶ。	講義	園木	-
3	全身疾患の部分症状としての口腔症状 その3 抄読会 感染症、血液疾患、膠原病、内分泌疾患のいずれかによる口腔症状に関する文献を見つけ、説明する。	演習	園木	事後レポート の提出
4	口腔疾患の経過に影響を及ぼす全身疾患 その1 糖尿病、薬物がどのように口腔疾患の経過に影響を及ぼすかを学ぶ。	講義	園木	-
5	口腔疾患の経過に影響を及ぼす全身疾患 その2 抄読会 糖尿病、薬物のいずれかが口腔疾患の経過に影響した文献を見つけ、説明する。	演習	園木	事後レポート の提出
6	口腔疾患に起因する全身疾患 その1 口腔疾患に起因する全身疾患として金属アレルギー、菌血症・敗血症を学ぶ。	講義	園木	-
7	口腔疾患に起因する全身疾患 その2 口腔疾患に起因する全身疾患として動脈硬化性疾患、誤嚥性肺炎を学ぶ。	講義	園木	-
8	口腔疾患に起因する全身疾患 その3 抄読会 口腔疾患に起因する全身疾患として金属アレルギー、菌血症・敗血症、動脈硬化性疾患、誤嚥性肺炎の中から文献を見つけ、説明する。 全体の諮問	演習	園木	事後レポート の提出

2016年度

口腔保健福祉学特論 (Advanced Oral Health and Welfare Promotion)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業の概要

地域におけるヘルスプロモーション（HP）や福祉の推進（WP）にかかる活動や、歯科における医療・保健・福祉連携の実際に係る理論と方法の詳細について講義を行う。

学生の到達目標

1. 地域の保健・福祉の実際を説明できる。
2. 歯科における医療・保健・福祉の連携の実際を説明できる。
3. 歯科における医療・保健・福祉の連携を推進するための方法論を習得する。
4. 地域で口腔HP、WPを実践するための知識を習得する。

テキスト

地方分権時代の健康政策実践書 みんなで楽しくできるヘルスプロモーション
 出)ライフサイエンスセンター 著)石井 敏弘、中村 譲治、その他

参考書

国民衛生の動向
 出)厚生労働統計協会 著)厚生労働統計協会

不平等が健康を損なう
 出)日本評論社 著)イチロー カワチ,ブルース・P. ケネディ

ソーシャル・キャピタルと健康
 出)日本評論社 著)イチロー カワチ

各種行政資料(歯科保健に関する事例レポートなど)
 出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
プレゼンテーション	20%

レポートおよび第5回、第7回の企画内容のプレゼンテーションにより評価する。

点数配分：レポート10点×8回、プレゼンテーション10点×2回

その他

学生相談：7：00～17：00

2016年度

口腔保健福祉学特論 (Advanced Oral Health and Welfare Promotion)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	ヘルスプロモーションの理論 PRECEDE-PROCEED modelなどHPで用いられる一般的な手法および近年用いられている新しい手法について学習する。	講義	秋房	事後レポートの提出
2	口腔を通じた福祉のあり方について 介護制度を含む高齢者福祉や障害者福祉における歯科の役割とあるべき姿について学習する。	講義	秋房	事後レポートの提出
3	オーラルヘルスプロモーションの実際理論 口腔保健におけるHPの理論について学ぶ。	講義	秋房	事後レポートの提出
4	オーラルヘルスプロモーションの実際(1)～事例の収集～ 口腔保健におけるHPの実際について、市町村事業の実例を示しながら方法論を学ぶ。	演習	秋房	事後レポートの提出
5	オーラルヘルスプロモーションの実際(2)～事例の収集～ 前回に引き続き、口腔保健におけるHPの実際について、市町村事業の実例を示しながら方法論を学ぶ。	演習	秋房	事後レポートの提出
6	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(1)～事例の収集～ 地域歯科保健等に関する報告書などから地域における口腔HP、WPの実例を選出する。	演習	秋房	事後レポートの提出
7	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(2)～事例から学ぶ課題と解決方法～ 前回選出した事例について地域の課題とその解決方法について考察する。	演習	秋房	事後レポートの提出
8	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(3)～事例から学ぶ課題と解決方法～ 文献検索を行い、国内外の事例の実際を検討する。	演習	秋房	事後レポートの提出
9	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(4)～事例から学ぶ課題と解決方法～ 前回に引き続き文献検索を行い、国内外の事例の実際を検討する。	演習	秋房	事後レポートの提出
10	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(1)～課題の抽出～ 福岡県内市町村の中からモデル地区を選出してその課題を抽出する。	演習	秋房	事後レポートの提出
11	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(2)～課題の解決方法の企画立案～ 前回抽出したモデル地区の課題の解決方略を企画立案する。	演習	秋房	事後レポートの提出
12	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(3)～課題の解決方法の企画立案～ 前回抽出したモデル地区の課題の解決方略を企画立案する。	演習	秋房	事後レポートの提出
13	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(4)～課題の解決方法の企画立案～ 前回抽出したモデル地区の課題の解決方略を企画立案する。	演習	秋房	事後レポートの提出
14	地域のHP、WPに対する働きかけ 地域住民に働きかけを行うために必要な方法論について事例を交えながら学習する。	演習	秋房	事後レポートの提出
15	まとめ これまで行ってきた内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。	演習	秋房	プレゼンテーション内容の提出

2016年度

口腔内科学特論 (Advanced study of Oral Medicine)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

口腔内科的疾患治療に対する最新の知見、および解明すべき問題点について講義を行う。

学生の到達目標

1. 介護施設、病院歯科で歯科衛生士として遭遇する口腔内科的疾患（主に口腔粘膜病変など）の概要と最新の治療体系を学ぶ。
2. それに対応する歯科衛生過程について理解する。
3. 歯科衛生過程に付随するリスクアセスメントについて理解する。
4. 口腔内科的疾患における歯科衛生過程の理論構築を説明できる。

テキスト

口腔内科学
出)飛鳥出版室

著)尾崎 登喜雄

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	90%
提出教材	10%

レポートおよび第14回、第15回の提出教材を評価する。
点数配分：レポート18点×5回、提出教材 5点×2回

その他

学生相談；随時

2016年度

口腔内科学特論 (Advanced study of Oral Medicine)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	日常的に遭遇する口腔疾患(その1) 口腔内アフタなど日常的に遭遇する口腔疾患の概要と最新の治療体系について学習する。	講義	引地	-
2	日常的に遭遇する口腔疾患(その2) 口腔内アフタなど日常的に遭遇する口腔疾患の歯科衛生過程について学習する。	講義	引地	-
3	日常的に遭遇する口腔疾患(その3) 口腔内アフタなど日常的に遭遇する口腔疾患のマネジメントのリスク管理について学習する。	講義	引地	-
4	全身疾患に関連する口腔疾患(その1) ベーチェット病、シェーグレン症候群など全身疾患に関連する口腔疾患の概要と最新の治療体系について学習する。	講義	引地	日常的に遭遇する口腔疾患に関する事後レポート提出
5	全身疾患に関連する口腔疾患(その2) ベーチェット病、シェーグレン症候群など全身疾患に関連する口腔疾患の歯科衛生過程について学習する。	講義	引地	-
6	全身疾患に関連する口腔疾患(その3) ベーチェット病、シェーグレン症候群など全身疾患に関連する口腔疾患のマネジメントのリスク管理について学習する。	講義	引地	-
7	心身機能と口腔疾患(その1) 舌痛症、口臭症などの心身機能と関連する口腔疾患の概要と最新の治療体系について学習する。	講義	引地	全身疾患に関連する口腔疾患に関する事後レポート提出
8	心身機能と口腔疾患(その2) 舌痛症、口臭症などの心身機能と関連する口腔疾患の歯科衛生過程について学習する。	講義	引地	-
9	心身機能と口腔疾患(その3) 舌痛症、口臭症などの心身機能と関連する口腔疾患のマネジメントのリスク管理について学習する。	講義	引地	-
10	年齢と口腔疾患(その1) 口腔カンジダ症や口腔乾燥症など年齢と相関している口腔疾患の概要と最新の治療体系について学習する。	講義	引地	心身機能と口腔疾患に関する事後レポート提出
11	年齢と口腔疾患(その2) 口腔カンジダ症や口腔乾燥症など年齢と相関している口腔疾患の歯科衛生過程について学習する。	講義	引地	-
12	年齢と口腔疾患(その3) 口腔カンジダ症や口腔乾燥症など年齢と相関している口腔疾患のマネジメントのリスク管理について学習する。	講義	引地	-
13	歯科衛生過程と口腔疾患(その1) 口腔内科学的疾患の総括的診断・治療アルゴリズムとそれに対応する歯科衛生過程のあり方と概要について学習する。	講義	引地	年齢と口腔疾患に関する事後レポート提出
14	歯科衛生過程と口腔疾患(その2) 口腔内科学的疾患の総括的診断・治療アルゴリズムとそれに対応する歯科衛生過程の作成法を、教材を用いながら学習する。	講義	引地	作成した教材の提出
15	歯科衛生過程と口腔疾患(その3) 口腔内科学的疾患の総括的診断・治療アルゴリズムとそれに対応する歯科衛生過程におけるリスク管理の実際を、教材を用いながら学習する。	講義	引地	歯科衛生過程と口腔疾患に関する事後レポートは終了後時期を定めて提出・作成した教材の提出

2016年度

細胞分子生物学特論 (Advanced Cellular Molecular Biology)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子、秋房 住郎						

授業の概要

【引地】(5回、概論5回)

口腔に関連した骨代謝学の基礎と応用について、最近の知見・臨床病態を加え、講義する。

【秋房】(5回、概論5回)

免疫機能について概説し、研究の方向性について講義する。

学生の到達目標

1. 細胞分子生物学(細胞の構造および各種細胞内小器官、ゲノム、タンパク質合成機序、細胞内情報伝達系)の概要を説明できる。
2. 細胞生物学的実験の基礎となる知識を習得する。
3. 硬組織研究に必要な基礎と応用にかかる知識を習得する。【引地】
4. 免疫研究に必要な基礎と応用にかかる知識を習得する。【秋房】

テキスト

細胞の分子生物学; 第5版
出)ニュートンプレス

著)Bruce Alberts、Julian Lewis、
Martin Raff他

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	90%
口頭試問	10%

事後レポート15回×6点と口頭試問10点により評価する。

その他

学生相談：7：00～17：00

2016年度

細胞分子生物学特論 (Advanced Cellular Molecular Biology)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子、秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	細胞分子生物学概論(細胞とゲノム) 原核細胞と真核細胞における細胞や染色体の構造について学び、細胞内小器官の機能についても学習する。	講義	引地、秋房	事前配布資料の予習
2	細胞分子生物学概論(細胞骨格とタンパク質) 細胞骨格の蘇生と構造および細胞内でのタンパク質合成機序について学習する。	講義	引地、秋房	前回学習の事後レポート提出
3	細胞分子生物学概論(細胞と情報伝達) 細胞内外の刺激にかかる細胞内の情報伝達のあり方について学び、各種カスケードの詳細についても学習する。	講義	引地、秋房	前回学習の事後レポート提出
4	細胞分子生物学概論(細胞周期とアポトーシス) 細胞周期及びアポトーシスに関する分子制御の概要を理解して、腫瘍分子の相互作用について理解を深める。	講義	引地、秋房	前回学習の事後レポート提出
5	細胞分子生物学概論(細胞と免疫) 免疫機序における非自己認識の意義について学び、疾患との関連についても学習する。	講義	引地、秋房	前回学習の事後レポート提出
6	硬組織の形態と機能 歯・骨などの硬組織の解剖学的形態およびその機能について講義する。	講義	引地	前回学習の事後レポート提出
7	硬組織の細胞と分化 歯・骨などの硬組織を構成する細胞の機能およびその分化過程について学習する。	講義	引地	事前配布資料の予習・前回学習の事後レポート提出
8	硬組織とその代謝 歯・骨などの硬組織のリモデリングに関わる代謝過程について学習する。	講義	引地	前回学習の事後レポート提出
9	硬組織代謝と疾患 歯・骨などの硬組織の疾患における代謝異常について学習する。	講義	引地	前回学習の事後レポート提出
10	硬組織研究法 歯・骨などの硬組織の研究手法を主に分子生物学的手法を中心に学習する。	講義	引地	前回学習の事後レポート提出
11	免疫組織・細胞の機能 炎症応答におけるリンパ系組織および細胞の役割について学習する。	講義	秋房	前回学習の事後レポート提出
12	自然免疫の概要 好中球やマクロファージ、樹状細胞の非自己認識機能について最新の研究成果を交えながら学習する。	講義	秋房	前回学習の事後レポート提出
13	獲得免疫の概要 T細胞、B細胞等が非自己を認識して惹起する液性・細胞性免疫の概要について学習する。	講義	秋房	前回学習の事後レポート提出
14	免疫と疾患 免疫機能の異常により起こる疾患の発症メカニズムについて学ぶ。	講義	秋房	前回学習の事後レポート提出
15	免疫研究の実際 免疫系の実験研究の実際について概説し、当該領域の研究を遂行するために必要な実験的知識を学習する。	講義	秋房	前回学習の事後レポート提出・15回の事後レポートは終了後時期を定めて提出

2016年度

摂食神経科学特論 (Advanced Neural Eating)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業の概要

視覚情報を主とする外因性情報の処理，およびそれらの情報を記憶や空腹感などの内因性情報と統合することにより誘発される摂食行動における大脳皮質制御機構を学ぶ。

学生の到達目標

1. ヒトと他の動物の摂食行動の違いを，大脳生理学的に説明できる。
2. 摂食行動に関与する高次脳機能について説明できる。
3. 神経系を介した口腔と全身の関わりについて理解する。

テキスト

出) (著)

参考書

Principles of Neural Science, Fifth Edition

出) (著) Kandel ER, Schwartz JH, Jessell
TM Siegelbaum SA, Hudspeth AJ

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

提出されたレポート（6点×15回および最終レポート10点）により評価する。

その他

学生相談：8：30～17：15

2016年度

摂食神経科学特論 (Advanced Neural Eating)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	ヒトと動物の摂食行動 哺乳類では例外的に視覚動物であり、腕の伸展運動および手の掌握運動により食物を口に運ぶヒトの摂食行動について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
2	摂食行動の認知期（視覚情報入力） 視覚情報は網膜の視細胞で受容され、外側膝状体を経由し、大脳皮質一次視覚野に入力されるまでの視覚生理学について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
3	摂食行動の認知期（視覚情報処理） トップダウンあるいはボトムアップ情報により取舍選択された視覚情報において、その処理過程および高次脳機能との関連について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
4	摂食行動の認知期（情報統合） 視覚情報ははじめとする他の外因性情報、および記憶情報に代表される内因性情報の統合過程を学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
5	摂食行動の認知期（対象物認知） 統合された情報をもとに対象物を食べ物として認知する過程における大脳皮質の役割について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
6	摂食行動の認知期（行動選択） 対象物の認知後、摂食行動の選択に関与する高次脳機能について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
7	摂食行動の認知期（運動準備） 大脳皮質運動関連領域における運動準備ニューロンの働きをもとに、摂食運動の準備に関与する各領域の機能を学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
8	摂食行動の認知期（運動発現・遂行） 摂食運動の発現および遂行に関与する大脳皮質一次運動野を中心とした領域の働きについて学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
9	摂食行動の咀嚼期（顎運動発現） 咀嚼運動の発現および遂行に関与する大脳皮質および下位脳（脳幹）の働きについて学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
10	摂食行動の咀嚼期（顎運動制御） 咀嚼運動時に生じる感覚をフィードバックし、顎運動制御および顎運動プログラムの変換等に関与する大脳皮質の働きについて学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
11	摂食行動の咀嚼期（情報処理） 咀嚼運動により生じる体性感覚、味覚、温度覚などの情報処理過程について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
12	摂食行動の咀嚼期（情報統合） 咀嚼運動に起因する感覚情報を統合し、対象物に最も相応しい運動の選択を行う過程について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
13	摂食行動の口腔期 嚥下運動の口腔期における随意的顎および舌運動、さらにはその過程に関連する感覚情報の処理機構について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
14	摂食行動の咽頭期 嚥下運動の咽頭期における不随意的運動（反射）およびそれに関連する神経系の働きについて学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
15	摂食行動の食道期 嚥下運動の食道期における不随意的運動（反射）およびそれに関連する神経系の働きについて学ぶ。	講義	吉野	事後および最終レポートの提出

2016年度

分子栄養学特論 (Advanced Molecular Nutrition)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行						

授業の概要

食べる機能の発達・維持・回復、齲蝕予防、摂食・嚥下障害や要介護の原因となる生活習慣病の予防、口腔のトラブルによって起こりうる低栄養の防止などの研究を行うために必要な歯科に関連する栄養学関係の基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. う蝕の栄養学について理解する。
2. 歯周病の栄養学について理解する。
3. 低栄養について理解する。
4. 栄養調査・栄養アセスメントについて理解する。
5. 時間栄養学について理解する。
6. 生活習慣病の分子栄養学について理解する。
7. 加齢と栄養学について理解する。

テキスト

事前に配布した関連分野の文献およびプリント。
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

事後レポート14点×5回，15点×2回により評価する。

その他

学生相談：随時

2016年度

分子栄養学特論 (Advanced Molecular Nutrition)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	う蝕の細菌学・栄養学 1 歯科の二大疾患であるう蝕の細菌学について栄養学的な視点から学習する。	講義・演習	辻澤	-
2	う蝕の細菌学・栄養学 2 歯科の二大疾患であるう蝕の細菌学について栄養学的な視点から学習する。	講義・演習	辻澤	事後レポートの提出
3	歯周病の細菌学・栄養学 1 歯科の二大疾患である歯周病の細菌学について栄養学的な視点から学習する。	講義・演習	辻澤	-
4	歯周病の細菌学・栄養学 2 歯科の二大疾患である歯周病の細菌学について栄養学的な視点から学習する。	講義・演習	辻澤	事後レポートの提出
5	低栄養（飢餓・炎症）1 飢餓と炎症における低栄養の仕組みについて学習する。	講義・演習	辻澤	事後レポートの提出
6	ヒトの遺伝子 1 ヒトゲノムの構造、遺伝子多型について学び、多様化する個人に合わせた栄養管理の考え方を学ぶ。	講義・演習	辻澤	-
7	ヒトの遺伝子 2 ヒトゲノムの構造、遺伝子多型について学び、多様化する個人に合わせた栄養管理の考え方を学ぶ。	講義・演習	辻澤	-
8	ヒトの遺伝子 3 ヒトゲノムの構造、遺伝子多型について学び、多様化する個人に合わせた栄養管理の考え方を学ぶ。	講義・演習	辻澤	事後レポートの提出
9	時間栄養学 生活リズムを整える上で重要とされる時間栄養学について学習する。	講義・演習	辻澤	事後レポートの提出
10	疾患と遺伝子 1 単一遺伝子疾患と多因子疾患について学習する。	講義・演習	辻澤	-
11	疾患と遺伝子 2 単一遺伝子疾患と多因子疾患について学習する。	講義・演習	辻澤	-
12	疾患と遺伝子 3 単一遺伝子疾患と多因子疾患について学習する。	講義・演習	辻澤	事後レポートの提出
13	食品成分と遺伝子 1 食品成分による遺伝子発現制御について学ぶ。	講義・演習	辻澤	-
14	食品成分と遺伝子 2 食品成分による遺伝子発現制御について学ぶ。	講義・演習	辻澤	-
15	食品成分と遺伝子 3 食品成分による遺伝子発現制御について学ぶ。	講義・演習	辻澤	事後レポートの提出

2016年度

医療政策学特論 (Advanced Medical Policy)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美、中道 敦子						

授業の概要

医療供給体制、医療計画、保健事業、医療保険制度、診療報酬制度及び関係法規等の歴史的経緯、施策の要点について学ぶ。

学生の到達目標

医療政策および歯科医療政策の現状と課題を理解する。医療政策学や公衆衛生学等の研究手法を活用して具体的かつ個別的に高度な研究能力を習得する。

1. 保健医療政策および社会保険政策の概要を説明できる。
2. 医療法と関連する政策を理解する。
3. 医療従事者に関連する政策を理解する。
4. 保健衛生関係法規と関連する政策を理解する。
5. 健康保険法と関連する政策を理解する。
6. 健康社会学の概念を説明できる。
7. 健康社会学のアプローチを詳細に説明できる。
8. 健康社会学の研究方法を詳細に説明できる。
9. 健康・医療の社会学の系譜を詳細に説明できる。
10. 健康社会学の対象と領域を詳細に説明できる。
11. ヘルスプロモーションを詳細に説明できる。
12. 社会健康学における歯科医療者の役割を理解できる。

テキスト

出) (著)

参考書

- 国民衛生の動向
出) (著)厚生労働統計協会
- 保険と年金の動向
出) (著)厚生労働統計協会
- 実務衛生行政六法
出)新日本法規出版 (著)衛生法規研究会
- 公衆衛生がみえる
出) (著)医療情報科学研究所
- 健康と病気の社会学第9版,2013
出)ワーク出版 (著)コンラッドほか
- 保健社会学 - 生活・労働・環境問題,1993
出)有信堂 (著)園田恭一ほか

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
発表内容	30%
プレゼンテーション態度	20%

その他

学生相談：随時

2016年度

医療政策学特論 (Advanced Medical Policy)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美、中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	保健医療政策の概要 保健医療行政の仕組み、政策決定の方法、行政機関および医療関係団体の役割等について学習する。	講義	日高	-
2	医療法と関連する政策 病診連携の推進、地域医療支援病院、特定機能病院の認可要件と役割について学習する。	講義	日高	-
3	医療法と関連する政策 病院・診療所における医薬品・医療機器の安全管理対策、院内感染防止対策について学習する。	講義	日高	-
4	医療従事者に関連する政策 歯科医療従事者の資質向上施策、チーム医療の推進における看護業務の見直し等の動向について学習する。	講義	日高	事後レポートの提出
5	健康増進法等と関連する政策 国民健康づくり運動の経緯、健康日本21（第2次）および歯科口腔保健法に基づく施策の動向について学習する。	講義	日高	-
6	地域保健法等と関連する政策 衛生行政の沿革、保健所・市町村保健センターにおける業務の現況、健康危機管理への対応について学習する。	講義	日高	-
7	社会保険政策の概要 高齢化の進展に伴う医療保険制度、年金保険制度および介護保険制度のあり方に関する政策の動向を学習する。	講義	日高	-
8	健康保険法と関連する政策 保険診療および保険外併用療法（選定療養、評価療養）の仕組み、診療報酬の改定、高額療養費制度等について学習する。	講義	日高	事後レポートの提出
9	健康社会学の理論 健康社会学の歴史、健康社会学のコンセプト、原則、モデルを学習する。	講義	中道	事後レポートの提出
10	健康社会学のアプローチ 健康社会学の具体的なアプローチ方法を概説する。ヘルスプロモーションと健康教育における理論を学習する。	講義	中道	事後レポートの提出
11	健康社会学の研究手法 健康社会学の研究領域を学んで、その研究モデルを理解する。	講義	中道	事後レポートの提出
12	健康・医療の社会学の系譜 疾病構造、社会的課題、医療の発展などを学習する。	講義	中道	事後レポートの提出
13	健康社会学の対象と領域 地域住民、学校、労働者など対象別の課題とその解決方法を学習する。	講義	中道	事後レポートの提出
14	ヘルスプロモーション 地域歯科医療分野におけるヘルスプロモーションの事例を挙げて、その課題を抽出し、その考察をする。	講義	中道	事後レポートの提出
15	まとめ 健康社会学における歯科医療者の役割を学習する。	講義	中道	事後レポートの提出

2016年度

口腔科学特論 (Advanced study of Oral Science)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

歯・歯周組織を除く口腔硬組織・軟組織疾患の成立機序および検討すべき基礎的研究課題について講義を行う。

学生の到達目標

1. 口腔疾患の成立機序を理解する。
2. 口腔疾患の基礎的検討方法を理解する。
3. 口腔疾患の研究課題を理解する。

テキスト

口腔科学
出)朝倉書店

著)戸塚康則他

硬組織研究ハンドブック
出)MDU出版会

著)松本歯科大学大学院硬組織研究グループ

参考書

口と歯の事典
出)朝倉書店

著)高戸毅他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

事後レポートにより評価する。
点数配分：レポート20点×5回

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学特論 (Advanced study of Oral Science)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	口腔硬組織・軟組織疾患基礎的研究の概要 口腔疾患(先天奇形、外傷、腫瘍ほか)の概要とその基礎的研究の流れについて学習する。	講義	引地	-
2	口腔硬組織・軟組織の形態学 その1(硬組織の特徴) 正常硬組織および硬組織を中心とする疾患(骨髄炎など)の形態学的特徴を学習する。	講義	引地	-
3	口腔硬組織・軟組織の形態学 その2(軟組織の特徴) 正常軟組織および軟組織を中心とする疾患(軟組織腫瘍など)の形態学的特徴を学習する。	講義	引地	-
4	口腔硬組織・軟組織の形態学 その3(文献精読) 口腔硬組織・軟組織疾患の形態学的研究に関連する文献を精読する。	文献精読	引地	-
5	口腔硬組織・軟組織の薬理学 その1(薬剤投与の効果) 口腔硬組織・軟組織疾患の薬剤効果・薬剤投与法の検討など、薬理学的研究の概要を学習する。	講義	引地	1-4回学習の事後レポート提出
6	口腔硬組織・軟組織の薬理学 その2(文献精読) 口腔硬組織・軟組織疾患の薬理学的研究に関連する文献を精読する。	文献精読	引地	-
7	口腔硬組織・軟組織の生化学 その1(受容体) 口腔硬組織・軟組織疾患における受容体拮抗薬の開発などの生化学的研究の概要を学習する。	講義	引地	5-6回学習の事後レポート提出
8	口腔硬組織・軟組織の生化学 その2(遺伝子発現) 口腔硬組織・軟組織疾患における遺伝子発現異常の解明などの生化学的研究の概要を学習する。	講義	引地	-
9	口腔硬組織・軟組織の生化学 その3(タンパク質) 口腔硬組織・軟組織疾患における酵素活性変化や酵素治療薬の開発などの生化学的研究の概要を学習する。	講義	引地	-
10	口腔硬組織・軟組織の生化学 その4(情報伝達系) 口腔硬組織・軟組織疾患における情報伝達系異常などの生化学的研究の概要を学習する。	講義	引地	-
11	口腔硬組織・軟組織の生化学 その5(文献精読) 口腔硬組織・軟組織疾患の生化学的研究に関連する文献を学習する。	文献精読	引地	-
12	口腔硬組織・軟組織の生理学 その1(細胞内カルシウム動態) 口腔硬組織・軟組織疾患における細胞内カルシウム動態の異常などの生理学的研究の概要を学習する。	講義	引地	7-11回学習の事後レポート提出
13	口腔硬組織・軟組織の生理学 その2(文献精読) 口腔硬組織・軟組織疾患の生理学的研究に関連する文献を精読する。	文献精読	引地	-
14	口腔硬組織・軟組織の免疫学 その1(骨免疫・粘膜免疫) 口腔硬組織・軟組織疾患における免疫異常などの免疫学的研究の概要を学習する。	講義	引地	12-13回学習の事後レポート提出
15	口腔硬組織・軟組織の免疫学 その2(文献精読) 口腔硬組織・軟組織疾患の免疫学的研究に関連する文献を精読する。	文献精読	引地	14-15回学習の事後レポートは終了後時期を定めて提出

2016年度

口腔感染免疫学特論 (Advanced Oral Infection and Immunity)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅						

授業の概要

細菌や真菌による口腔内へ定着、感染に至る経過、生体の免疫応答などの基礎知識について講義する。

学生の到達目標

1. 微生物の病原性に関わる因子を説明できる。
2. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。
3. 細胞内情報伝達系や転写調節を説明できる。
4. アポトーシスや細胞周期を説明できる。
5. 粘膜免疫系を説明できる。

テキスト

口腔微生物学・免疫学 第3版
出)医歯薬出版

著)浜田茂幸

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	90%
口頭試問	10%

毎回提出する事後レポート(15回各6点)と不定期の口頭試問10点を合計して100点満点として評価する。

その他

学生相談: 随時

2016年度

口腔感染免疫学特論 (Advanced Oral Infection and Immunity)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	感染症概論 主に口腔の感染症と関わりがある感染症について成立条件や感染のタイプについて学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
2	微生物の病原性に関わる因子 口腔感染症を例に病原体側の定着因子、内毒素、細菌毒素などについて学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
3	自然免疫の概要 自然免疫を説明しそれと獲得免疫の違いなどについて学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
4	微生物感染に対する障害 口腔内における唾液および液性の抗菌物質についてそれぞれ学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
5	微生物感染に対する自然免疫応答 宿主が侵入微生物を検出するTLRほかの機序を学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
6	微生物感染に対する自然免疫応答 感染のシグナルとしての炎症性メディエーターやサイトカインを学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
7	微生物感染に対する自然免疫応答 細胞が関わる自然免疫防御機序について病原体別に学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
8	獲得免疫の概要 獲得免疫防御機序について大まかな機序とその特徴を学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
9	感染防御における分子生物学 感染防御に関わるNF Bなどの転写調節因子とその細胞内情報伝達系を学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
10	アポトーシスと細胞周期 病原体の増殖と感染の関係、増殖調節と細胞周期さらにアポトーシスの関与を学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
11	口腔における粘膜免疫系 粘膜免疫系の概要を説明し、その特徴や全身免疫系との違いを学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
12	口腔における粘膜免疫系 口蓋扁桃を介して誘導される唾液IgA抗体を例に特徴や生理的意義を学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
13	各論 カンジダ・アルピカンスの性質 カンジダの分類、菌糸型と酵母型の形態、培養条件などを学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
14	各論 口腔カンジダ症の病理組織学 非感染性カンジダキャリアーの口腔内分布や存在様式等を学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出
15	各論 カンジダ・アルピカンスの感染 カンジダ・アルピカンスが感染に至る条件などを学ぶ。	講義	井上	事後レポートの提出

2016年度

口腔保健管理学特論 (Advanced Oral Health Management)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、園木 一男、辻澤 利行、高橋 由希子						

授業の概要

様々な全身状態の背景をもつ歯周疾患患者のメンテナンス・SPT治療における対策、アセスメントについて講義する。

学生の到達目標

1. 全身疾患を有する歯周疾患患者でのメンテナンス・SPT治療の計画と評価が説明できる。
2. 歯周疾患患者への栄養指導、生活指導について説明できる。
3. 全身疾患を有する歯周疾患患者のメンテナンス・SPT時での全身的管理について説明できる。
4. 歯周疾患を持つ周術期口腔ケアを説明できる。

テキスト

歯科治療とメンテナンス
出)クインテッセンス

著)T,G,Wilson,Jr

参考書

入院患者に対するオーラスマネジメント
出)

著)財団法人8020推進財団

講義ごとに資料を配布する。
出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート・プレゼンテーション	100%

レポートおよび第14回、第15回の報告会での、発表内容、プレゼンテーションにより評価する。点数配分：レポート100点の15回分と、プレゼンテーション100点の2回分の総合計の平均点で評価する。

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔保健管理学特論 (Advanced Oral Health Management)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、園木 一男、辻澤 利行、高橋 由希子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	全身疾患を有する歯周疾患患者でのメンテナンス・SPTについて 全身疾患を有する歯周病患者のメンテナンス・SPTの必要性と意義について学ぶ。	講義	久保田	事後レポートの提出
2	歯周疾患患者でのメンテナンス・SPT治療計画作成法について 種々の歯周疾患でのメンテナンス・SPTを行うに当たって具体的な治療計画作成法について学ぶ。	講義	久保田	事後レポートの提出
3	歯周疾患患者でのメンテナンス・SPT治療でのメンテナンス処方箋について 個々の歯周疾患患者でのメンテナンス・SPT治療についてそれぞれの方法を学ぶ。	講義	久保田	事後レポートの提出
4	歯周疾患患者でのメンテナンス・SPT治療の評価法について 個々の歯周疾患患者でのメンテナンス・SPT治療についてそれぞれの評価法を学ぶ。	講義	久保田	事後レポートの提出
5	糖尿病を持つ歯周病患者のアセスメントについて その1 血糖コントロールの評価方法を知り、歯周病にどう影響するのか学ぶ。	講義	園木	事後レポートの提出
6	糖尿病を持つ歯周病患者のアセスメントについて その2 糖尿病の病態を知り、歯周病にどう影響するのか学ぶ。	講義	園木	事後レポートの提出
7	循環器疾患を持つ歯周病患者のアセスメントについて 循環器疾患を知り、歯周病診療にどう影響するのか学ぶ。	講義	園木	事後レポートの提出
8	歯周病患者における栄養管理について 1 歯周病患者（SPT患者）における栄養管理について学ぶ。	講義	辻澤	事後レポートの提出
9	歯周病患者における栄養管理について 2 歯周病患者（SPT患者）における栄養管理について学ぶ。	講義	辻澤	事後レポートの提出
10	食事調査の種類とその特徴について 食事歴記録法・食物摂取頻度調査法についてその特徴を学ぶ。	講義	辻澤	事後レポートの提出
11	歯周疾患を有する周術期患者に対する口腔衛生管理法 術前患者の口腔内と専門的口腔衛生管理法を学ぶ。	講義	高橋	事後レポートの提出
12	歯周疾患を有する周術期患者に対する口腔衛生管理法 術前患者の口腔内と専門的口腔衛生管理法を学ぶ。	講義	高橋	事後レポートの提出
13	歯周疾患を有する周術期患者に対する口腔衛生管理法 術前患者の口腔内と専門的口腔衛生管理法を学ぶ。	講義	高橋	事後レポートの提出
14	全身疾患を有する歯周病患者のメンテナンス・SPT治療計画書、処方箋のプレゼンテーションについて学ぶ。	演習	久保田、園木、辻澤、高橋	資料作成・発表 事後レポートの提出
15	全身疾患を有する歯周病患者のメンテナンス・SPT治療計画書、処方箋のプレゼンテーションについて学ぶ。	演習	久保田、園木、辻澤、高橋	資料作成・発表 事後レポートの提出

2016年度

歯科診療支援学特論 (Advanced Support of Dental Practice)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	高橋 由希子						
担当教員	高橋 由希子、引地 尚子、園木 一男、中道 敦子						

授業の概要

現在行われている歯科診療の実際を分類・体系化し、診療支援介入により安全性と効率性の双方を追求するための方法論を学び、歯科診療における歯科衛生士が果たす役割と可能性について議論する。

学生の到達目標

1. 周術期患者の診察・検査・診断について理解する。
2. 周術期患者の病態を理解する。
3. 周術期患者の心理状態を理解する。
4. 周術期における口腔内症状の関連性について理解する。
5. 周術期口腔マネジメントの理論的背景を理解する。

テキスト

関連分野の文献およびプリントを配付する。
出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
筆記試験	40%

レポートおよび筆記試験により総合評価する。
点数配分：レポート4点×15回、筆記試験40点

その他

学生相談：随時

2016年度

歯科診療支援学特論 (Advanced Support of Dental Practice)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	高橋 由希子						
担当教員	高橋 由希子、引地 尚子、園木 一男、中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	診察・検査・診断 周術期患者の診察法、検査法、診断法の全般を概観し、列挙された周術期について特に注意すべき点を学習する。	講義	引地	事後レポートの提出
2	病態 周術期患者の病態の全般を概観し、列挙された周術期について特に注意すべき点を学習する。	講義	引地	事後レポートの提出
3	入院患者とメンタルヘルス 入院中の患者に起こるメンタルヘルスに影響する要因とその対処方法を学習する。	講義	園木	事後レポートの提出
4	周術期におけるチーム医療 事例を介し、周術期患者におけるチーム医療に必要な多職種協働について学習する。	講義	高橋	事後レポートの提出
5	口腔外科系診療に関連した医療安全管理 を介し、医療上の事故等や医療関連感染症等における患者の安全確保について学習する。	講義	高橋	事後レポートの提出
6	口腔外科系診療時の診療補助 事例を介し、口腔外科系診療時に関連した診療補助業務についての共同動作について学習する。	講義	高橋	事後レポートの提出
7	口腔外科系手術に関連した器具の取り扱いと管理 口腔外科系手術に関連した器具を系統的に提示し、その重要度の分類、取扱い上の注意点、安全な管理方法を学習する。	講義	引地	事後レポートの提出
8	口腔外科系手術の術式 主に用いられる口腔外科系手術の術式を述べ、それに対応する歯科衛生過程について学習する。	演習	引地	事後レポートの提出
9	診療録（等）記載事項の読み方 周術期に関する注意すべき点を列挙し、課題を抽出することで診療録等の記載について学習する。	演習	引地	事後レポートの提出
10	口腔保清維持のための口腔保健理論法 周術期口腔管理における口腔保健の支援について学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出
11	術前・術後の口腔機能訓練法 周術期患者の摂食・嚥下機能障害の状態や評価について学習する。	講義	園木	事後レポートの提出
12	術前・術後の口腔機能訓練法 摂食・嚥下機能障害を有する周術期患者に対する口腔機能訓練法を学習する。	講義	園木	事後レポートの提出
13	口腔マネジメントに対する多職種連携法 周術期患者の口腔マネジメントにおける多職種連携について課題抽出法を学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出
14	症例に合わせた口腔マネジメントの計画立案法 事例を介し、周術期患者の口腔マネジメント法の理論的背景について考察し、学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出
15	症例に合わせた口腔マネジメントの計画立案法 事例を介し、変容する周術期患者の安全な口腔マネジメント法について計画立案法を学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出

2016年度

高齢者口腔機能支援学特論 (Advanced Functional Support for Elderly and Disability persons)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	泉 繭依						
担当教員	泉 繭依						

授業の概要

口腔機能を通じて高齢者の生活を守り、健康寿命の延長のために必要な歯科衛生士の役割について講義する。摂食嚥下機能評価および口腔内状況の評価に基づき、理論的に口腔ケアを実践するための方法を習得する。

学生の到達目標

1. 超高齢社会に対応する口腔保健活動の実際を説明できる。
2. 口腔周囲・関連筋群の訓練方法について詳細に説明できる。
3. 嚥下機能の評価（VF、VE）および嚥下機能訓練について詳細に説明できる。
4. 症例を通じた口腔ケア計画の立案ができる。

テキスト

関連論文および資料を配布する。

出) 著)

参考書

よくわかる摂食・嚥下のメカニズム

出)医歯薬出版 著)山田好秋

摂食・嚥下リハビリテーション 第3版

出)医歯薬出版 著)才藤栄一・向井美恵

疾患別に診る嚥下障害

出)医歯薬出版 著)藤島一郎

5疾病の口腔ケア

出)医歯薬出版 著)藤本篤士

関係学会雑誌（日本摂食・嚥下リハビリテーション学会等）

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
プレゼンテーション	20%

レポートおよび第14回、第15回の企画内容のプレゼンテーションにより評価する。

点数配分：レポート10点×8回、プレゼンテーション10点×2回

その他

学生相談：随時

2016年度

高齢者口腔機能支援学特論 (Advanced Functional Support for Elderly and Disability persons)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	泉 繭依						
担当教員	泉 繭依						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	超高齢社会の現状 社会の中における高齢者の位置づけや高齢者福祉の実情について学習する。	講義	泉	事後レポートの提出
2	在宅歯科医療 在宅歯科医療推進のための取り組みについて学習する	講義	泉	事後レポートの提出
3	医科歯科連携について 医科歯科連携の取り組みについて学習する	講義	泉	事後レポートの提出
4	リハビリテーション栄養の実際 嚥下調整食の知識と連携の実際について学習する	講義	泉	事後レポートの提出
5	検査値の読み取り方 医科・歯科・栄養の連携に必要な検査値の読み取り方について学習する	講義	泉	事後レポートの提出
6	口腔と栄養の関連 サルコペニアによる筋力低下と口腔筋力の低下について学習する	講義	泉	事後レポートの提出
7	口腔衛生の基礎 要介護高齢者の口腔内の特徴について学習する	講義	泉	事後レポートの提出
8	嚥下機能の評価 (VF) 嚥下機能訓練 各種機能評価方法と検査方法および機能訓練について学習する。	講義	泉	事後レポートの提出
9	嚥下機能の評価 (VE) 嚥下機能訓練 各種機能評価方法と検査方法および機能訓練について学習する。	講義	泉	事後レポートの提出
10	口腔周囲・関連筋群の筋力評価 1 口腔周囲筋および関連筋群の筋力評価について学習する	講義	泉	事後レポートの提出
11	口腔周囲・関連筋群の筋力評価 2 口腔周囲筋および関連筋群の筋力評価について学習する	講義	泉	事後レポートの提出
12	口腔周囲・関連筋群の訓練方法 1 口腔周囲筋および関連筋群の訓練方法について学習する。	講義	泉	事後レポートの提出
13	口腔周囲・関連筋群の訓練方法 2 口腔周囲筋および関連筋群の訓練方法について学習する。	講義	泉	事後レポートの提出
14	事例検討 1 事例提示を行い、リハビリテーション計画の立案・検討、多職種連携についてディスカッションし、考察する。	講義	泉	事後レポートの提出
15	事例検討 2 事例提示を行い、リハビリテーション計画の立案・検討、多職種連携についてディスカッションし、考察する。	講義	泉	事後レポートの提出

2016年度

専門的口腔ケア特論 (Advanced Professional Oral Health Care)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中道 敦子						
担当教員	中道 敦子						

授業の概要

周術期口腔機能管理に必要な知識と技術を学修するとともに、科学的根拠に基づいた専門的口腔ケアを実践するために、症例に対して歯科衛生過程を活用する。

学生の到達目標

1. 周術期口腔機能管理の概要を説明できる
2. がん治療による症状別の口腔管理を説明できる
3. 心臓手術、臓器移手術の口腔管理を説明できる
4. 専門的口腔ケアのための系統的口腔診査法を説明できる
5. 歯科衛生過程を用いて周術期患者への専門的口腔ケアを記述できる
6. 多職種との連携を説明できる

テキスト

これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル
出)永末書店 著)別所和久監修

歯科衛生ケアプロセス実践ガイド
出)医歯薬出版 著)佐藤陽子 齋藤淳編著

参考書

周術期口腔機能管理の基本がわかる本
出)クインテッセンス出版 著)梅田正博編著

5疾病の口腔ケア
出)医歯薬出版 著)藤本篤士編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

参考文献をもとに作成したレポートを評価する。
点数配分：レポート10点×10回

その他

学生相談：月～金16:30～17:30

2016年度

専門的口腔ケア特論 (Advanced Professional Oral Health Care)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	専門選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中道 敦子						
担当教員	中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	チーム医療としての周術期口腔機能管理の考え方	講義	中道	-
2	がん治療と口腔管理 周術期	講義	中道	-
3	がん治療と口腔管理 誤嚥性肺炎, VAP	講義	中道	論文検索・事後 レポート
4	がん治療と口腔管理 化学療法	講義	中道	論文検索・事後 レポート
5	がん治療と口腔管理 放射線治療	講義	中道	論文検索・事後 レポート
6	がん治療と口腔管理 緩和医療	講義	中道	-
7	心臓手術と口腔管理	講義	中道	論文検索・事後 レポート
8	臓器移植と口腔管理	講義	中道	論文検索・事後 レポート
9	専門的口腔ケアのための系統的口腔観察法	講義	中道	-
10	歯科衛生過程：症例 対象理解（疾患，治療法）	講義	中道	症例分析・事後 レポート
11	歯科衛生過程：症例 歯科衛生アセスメント	講義	中道	症例分析・事後 レポート
12	12 歯科衛生過程：症例 歯科衛生診断	講義	中道	症例分析・事後 レポート
13	歯科衛生過程：症例 歯科衛生計画立案	講義	中道	症例分析・事後 レポート
14	歯科衛生過程：症例 歯科衛生介入・評価	講義	中道	症例分析・事後 レポート
15	歯科衛生過程：症例 振り返りとまとめ	講義	中道	-

2016年度

口腔内科学演習 (Seminar of Oral Medicine)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

歯科衛生士に必要な口腔内科的疾患治療に対する最新の知見、および解明すべき問題点を理解した上で、研究計画を立案し、実践する手法を学ぶ。

学生の到達目標

1. 口腔内科的疾患(主に口腔粘膜病変など)の診断・治療アルゴリズムと呼応する歯科衛生過程の体系的に理解し、研究計画を立てることができる。
2. 実践的な手法を身につける。
3. 歯科衛生過程に対応した事前リスクアセスメントを行うことができる。

テキスト

口腔内科学
出)飛鳥出版室

著)尾崎 登喜雄

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

事後レポートにより評価する。
点数配分：レポート20点×5回

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔内科学演習 (Seminar of Oral Medicine)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	口腔疾患のアセスメント(その1) 口腔内科的疾患(主に口腔粘膜病変など)の診断・治療アルゴリズムの理解のために、一つの疾患を選択してアルゴリズムを作成する。	演習	引地	-
3,4	口腔疾患のアセスメント(その2) 1に引き続き口腔内科的疾患(主に口腔粘膜病変など)の診断・治療アルゴリズムの理解のために、一つの疾患を選択してアルゴリズムを作成し、完成させる。	演習	引地	-
5,6	口腔疾患のアセスメント(その3) 2で作成した診断・治療アルゴリズムを互いに評価し、内容をブラッシュアップする。	演習	引地	-
7,8	口腔疾患の歯科衛生判断(その1) 3で作成した診断・治療アルゴリズムをもとにそれに対応した歯科衛生過程を作成する。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
9,10	口腔疾患の歯科衛生判断(その2) 4に引き続き、作成した診断・治療アルゴリズムをもとにそれに対応した歯科衛生過程を作成し、完成させる。	演習	引地	-
11,12	口腔疾患の歯科衛生判断(その3) 5で作成した歯科衛生過程を互いに評価し、内容をブラッシュアップする。	演習	引地	-
13,14	口腔疾患の計画立案(その1) 6で作成した歯科衛生過程をもとに、個々の患者に対応した業務計画を立案する。その際、事前リスクアセスメントも併せ行う。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
15,16	口腔疾患の計画立案(その2) 7に引き続き、作成した歯科衛生過程をもとに、個々の患者に対応した業務計画を立案し、事前リスクアセスメントを行う。	演習	引地	-
17,18	口腔疾患の計画立案(その3) 8で作成した業務計画を互いに評価し、内容をブラッシュアップする。	演習	引地	-
19,20	口腔疾患管理の実施(その1) 9で作成した業務計画をもとに、実際に患者管理を実施する。その結果をフィードバックする。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
21,22	口腔疾患管理の実施(その2) 10に引き続き作成した業務計画をもとに、実際に患者管理を実施する。その結果をフィードバックする。	演習	引地	-
23,24	口腔疾患管理の実施(その3) 11で行った患者管理を互いに検証し、管理方法をブラッシュアップする。	演習	引地	-
25,26	口腔疾患管理の評価(その1) 12で行った患者管理をもとにその評価の基準を設定する。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
27,28	口腔疾患管理の評価(その2) 13に引き続き患者管理の評価の基準を設定する。	演習	引地	-
29,30	口腔疾患管理の評価(その3) 14で行った患者管理評価基準をもとに行った患者管理を再評価する。	演習	引地	15回の事後レポートは終了後時期を定めて提出

2016年度

細胞分子生物学演習 (Seminar of Cellular Molecular Biology)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅、引地 尚子、秋房 住郎、辻澤 利行						

授業の概要

細胞生物学と分子生物学の基礎と応用について概説し、実験手法を習得する。

学生の到達目標

1. 細胞培養の原理と手技を説明できる。
2. 細胞分化の検出方法を説明できる。
3. 細胞の活性化の検出方法を説明できる。
4. アポトーシスによる細胞死の検出方法を説明できる。
5. タンパク質の分離と分析方法を説明できる。
6. 核酸の分析方法を説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

- バイオ実験イラストレイテッド(細胞工学別冊 目で見える実験ノートシリーズ)
) 1 分子生物学実験の基礎
出) (秀潤社) (著)
- バイオ実験イラストレイテッド(細胞工学別冊 目で見える実験ノートシリーズ)
) 2 遺伝子解析の基礎
出) (秀潤社) (著)
- バイオ実験イラストレイテッド(細胞工学別冊 目で見える実験ノートシリーズ)
) 3+ 本当にふえるPCR
出) (秀潤社) (著)
- バイオ実験イラストレイテッド(細胞工学別冊 目で見える実験ノートシリーズ)
) 5 タンパクなんてこわくない
出) (秀潤社) (著)
- バイオ実験イラストレイテッド(細胞工学別冊 目で見える実験ノートシリーズ)
) 6 すくすく育て細胞培養
出) (秀潤社) (著)
- マウス・ラット実験ノート はじめての取り扱い、飼育法から投与、解剖、
分子生物学的手法まで (無敵のバイオテクニカルシリーズ)
出) (羊土社) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

事後レポート ～ (各10点) により評価する。

その他

学生相談：随時

2016年度

細胞分子生物学演習 (Seminar of Cellular Molecular Biology)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅、引地 尚子、秋房 住郎、辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	細胞培養の基礎 (その1) 細胞の取り扱い方 培地の作り方	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
2	細胞培養の基礎 (その2) 細胞の継代	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
3	細胞培養の基礎 (その3) 細胞の保存	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
4	動物の取り扱い方(その1) マウス、ラット、ウサギの取り扱い方	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
5	動物の取り扱い方(その2) 動物への薬物の投与方法	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
6	動物の取り扱い方(その3) 動物からの採血法	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
7	マウスからの臓器・細胞の調製(その1) マウスの麻酔法	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
8	マウスからの臓器・細胞の調製(その2) 脾臓細胞、骨髄細胞、腹腔マクロファージの調製法	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
9	マウスからの臓器・細胞の調製(その3) 初代骨芽細胞の調製法	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
10	細胞の分化 (その1) 骨髄系幹細胞の分化の理論と実際	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
11	細胞の分化 (その2) 骨芽細胞の分化の理論と実際	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
12	細胞の分化 (その3) 樹立系細胞の分化の理論と実際	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
13	細胞の活性化(その1) リンパ球活性化の検出	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
14	細胞の活性化(その2) 骨芽細胞を介した破骨細胞の活性化	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
15	細胞の活性化(その3) アディポカインなどの生理活性物質の免疫学的検討	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
16	アポトーシス(その1) アポトーシスの機序と検出法の理論	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
17	アポトーシス(その2) 破骨細胞、マクロファージのアポトーシス	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
18	アポトーシス(その3) アポトーシス細胞の検出方法の実際	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
19	PCRによるDNAの分析(その1) PCR法とRT-PCR法の原理	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
20	PCRによるDNAの分析(その2) 細胞(臓器)からのDNAの調製と定量	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤

2016年度

細胞分子生物学演習 (Seminar of Cellular Molecular Biology)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅、引地 尚子、秋房 住郎、辻澤 利行						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
21	PCRによるDNAの分析(その3) PCR反応の実施 アガロースゲル電気泳動と生成物の検出	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
22	タンパク質の分離と定量法(その1) 細胞(臓器)からのタンパク質の調製	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
23	タンパク質の分離と定量法(その2) タンパク質の定量	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
24	タンパク質の分離と定量法(その3) タンパク質の分離の原理	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
25	SDS-PAGEによるタンパク質の分離(その1) 電気泳動の種類と原理	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
26	SDS-PAGEによるタンパク質の分離(その2) アクリルアミドゲルの作成と試料の調製方法	講義・演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
27	SDS-PAGEによるタンパク質の分離(その3) SDS-PAGEの実施とゲル染色	講義・演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤
28	Western Blotting によるタンパク質の分析(その1) Western Blotting法とELISA法の原理	演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
29	Western Blotting によるタンパク質の分析(その2) PVDF膜への転写とBlocking	演習	-	井上、引地、秋房、辻澤
30	Western Blotting によるタンパク質の分析(その3) 1次抗体との反応 2次抗体との反応	演習	事後レポートの提出	井上、引地、秋房、辻澤

2016年度

摂食神経科学演習 (Seminar of Neural Eating)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業の概要

摂食行動における大脳皮質制御機構をより深く理解するために、非侵襲的な近赤外線分光法を用いることにより、摂食行動に不可欠である視覚情報の処理、舌運動および顎運動の遂行における脳の働きについて学ぶ。

学生の到達目標

1. 基本的な近赤外線分光法の原理を理解する。
2. 光イメージング脳機能測定装置を操作することができる。
3. 視覚誘導性課題を作成することができる。
4. 正確なデータの収集と解析を行うことができる。
5. 顎口腔領域の運動に関する脳機能について論理的に理解する。

テキスト

必要な資料および文献等は授業ごとに配布する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	100%

最終講義時に口頭試問を行い評価する。

その他

学生相談：8：30～17：15

2016年度

摂食神経科学演習 (Seminar of Neural Eating)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	近赤外線分光法の原理 近赤外線分光法による光イメージング脳機能測定の原理について学ぶ。	演習	吉野	論文検索・抄読
2	近赤外線分光法の原理 近赤外線分光法による光イメージング脳機能測定の原理について学ぶ。	演習	吉野	事後レポートの提出
3	近赤外線分光法と脳機能測定 光イメージング脳機能測定装置 (Spectratech OEG-16) の操作およびデータ処理 (fNIRS Data Viewer) について学ぶ。	演習	吉野	論文検索・抄読
4	近赤外線分光法と脳機能測定 光イメージング脳機能測定装置の操作およびデータ処理について学ぶ。	演習	吉野	事後レポートの提出
5	視覚誘導性舌突出課題と脳機能 脳機能を測定に使用する舌突出課題を画像刺激呈示システム (ITEM S-12105) により作成する。	演習	吉野	作成教材の提出
6	視覚誘導性舌突出課題と脳機能 脳機能を測定に使用する舌突出課題を画像刺激呈示システムにより作成する。	演習	吉野	作成教材の提出
7	視覚誘導性舌突出課題と脳機能 脳機能を測定に使用する舌突出課題を画像刺激呈示システムにより作成する。	演習	吉野	作成教材の提出
8	視覚誘導性舌突出課題と脳機能 脳機能を測定に使用する舌突出課題を画像刺激呈示システムにより作成する。	演習	吉野	事後レポートの提出
9	近赤外線分光法を用いた測定 舌突出課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
10	近赤外線分光法を用いた測定 舌突出課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
11	近赤外線分光法を用いた測定 舌突出課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
12	近赤外線分光法を用いた測定 舌突出課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
13	近赤外線分光法を用いた測定 舌突出課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
14	近赤外線分光法を用いた測定 舌突出課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
15	データ解析 記録したデータから脳賦活部位および賦活と舌運動の関係について解析する。	演習	吉野	資料作成
16	データ解析 記録したデータから脳賦活部位および賦活と舌運動の関係について解析する。	演習	吉野	資料作成
17	視覚誘導性顎運動課題と脳機能 脳機能を測定に使用する顎運動課題を画像刺激呈示システムにより作成する。	演習	吉野	作成教材の提出
18	視覚誘導性顎運動課題と脳機能 脳機能を測定に使用する顎運動課題を画像刺激呈示システムにより作成する。	演習	吉野	作成教材の提出
19	視覚誘導性顎運動課題と脳機能 脳機能を測定に使用する顎運動課題を画像刺激呈示システムにより作成する。	演習	吉野	作成教材の提出
20	視覚誘導性顎運動課題と脳機能 脳機能を測定に使用する顎運動課題を画像刺激呈示システムにより作成する。	演習	吉野	事後レポートの提出

2016年度

摂食神経科学演習 (Seminar of Neural Eating)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
21	近赤外線分光法を用いた測定 顎運動課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
22	近赤外線分光法を用いた測定 顎運動課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
23	近赤外線分光法を用いた測定 顎運動課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
24	近赤外線分光法を用いた測定 顎運動課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
25	近赤外線分光法を用いた測定 顎運動課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
26	近赤外線分光法を用いた測定 顎運動課題遂行中の被験者において前頭前野の活動を記録する。	演習	吉野	事後レポートの提出
27	データ解析 記録したデータから脳賦活部位および賦活と顎運動の関係について解析する。	演習	吉野	資料作成
28	データ解析 記録したデータから脳賦活部位および賦活と顎運動の関係について解析する。	演習	吉野	資料作成
29	データ解析 舌突出および顎運動課題により得られた結果から摂食行動における高次脳機能について考察する。	演習	吉野	資料作成
30	データ解析 舌突出および顎運動課題により得られた結果から摂食行動における高次脳機能について考察する。	演習	吉野	資料作成・発表

2016年度

分子栄養学演習 (Seminar of Molecular Nutrition)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行、久保田 浩三、高橋 由希子						

授業の概要

食べる機能の発達・維持・回復、齲蝕予防、摂食・嚥下障害や要介護の原因となる生活習慣病の予防、口腔のトラブルによって起こりうる低栄養の防止など歯科に関連する栄養学関係の論文を精読する。また、研究成果の討論会を行う。討論会を通して研究の論理展開を理解するとともに大学院生間の情報交換の場として活用する。

学生の到達目標

1. 論理的に説明できる。
2. 実験手技および調査方法についてその原理と結果の解釈を理解・説明できる。
3. 自分の研究への応用が可能かどうかを考えることができる。

テキスト

事前に配布した関連分野の文献。大学院生が作成する実験ノートや研究データ。
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表・プレゼンテーション	100%

発表内容およびプレゼンテーションを総合評価する。
発表・プレゼンテーション 10点×10回

その他

学生相談：随時

2016年度

分子栄養学演習 (Seminar of Molecular Nutrition)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行、久保田 浩三、高橋 由希子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～20	研究の背景と文献の内容，および関連分野の研究の今後の展望を学習する。	講義・文献紹介、討論	文献検索・抄読	辻澤、久保田、高橋
21～30	研究データを発表し、プレゼンテーション能力を養う。質問に回答していきながら科学的な質疑応答能力を養っていく。	研究報告および討論	文献検索・抄読	辻澤、久保田、高橋

2016年度

医療政策学演習 (Seminar of Health and Medical Policies)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美						

授業の概要

国や地方自治体における医療供給体制、医療計画、保健事業、医療保険等に関する各種施策を探索・整理し、保健医療施策、歯科保健医療施策の企画立案の在り方を学ぶ。

学生の到達目標

1. 社会保障制度の概要を説明できる。
2. 医療法と同法に基づく政策を説明できる。
3. 歯科衛生士法及び歯科衛生士に関する政策を詳細に説明できる。
4. 歯科医師法・歯科技工士法及び各職種に関する政策を説明できる。
5. その他の医療従事者の資格法と各職種に関する政策の概要を説明できる。
6. 地域保健法、健康増進法、母子保健法、学校安全保健法、労働安全衛生法、歯科口腔保健法、食育基本法及び各法に基づく政策の概要を説明できる。
7. 食品衛生法、医薬品医療機器等法及び各法に基づく政策の概要を説明できる。
8. 感染症予防法、予防接種法、検疫法及び各法に基づく政策の概要を説明できる。
9. 康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法及び各法に基づく政策を説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

- 国民衛生の動向
出) (著)厚生労働統計協会
- 年金と保険の動向
出) (著)厚生労働統計協会
- 国民の福祉と介護の動向
出) (著)厚生労働統計協会
- 公衆衛生がみえる
出) (著)医療情報科学研究所
- 実務衛生行政六法
出)新日本法規出版 (著)衛生法規研究会
- 社会福祉六法
出)新日本法規出版 (著)社会福祉法規研究会
- 歯科点数表の解釈
出) (著)社会保険研究所

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
プレゼンテーション	10%
口頭試問	10%

レポート、プレゼンテーションおよび口頭試問により評価する。
点数配分：レポート8点×10回、プレゼンテーション10点、口頭試問10点

2016年度

医療政策学演習 (Seminar of Health and Medical Policies)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美						

その他

学生相談：随時

2016年度

医療政策学演習 (Seminar of Health and Medical Policies)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	社会保障制度の概要 わが国の社会保障制度の歴史、社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生の概要を学習する。	講義	日高	-
2	医療法 医療提供の理念、医療担当者の責務、医療に関する選択の支援、医療安全の確保等について学習する。	講義	日高	-
3	医療法 病院・診療所の開設および管理、人員および施設の基準、医療提供体制の確保等について学習する。	講義	日高	-
4	医療法に基づく政策 医療に関する情報の提供、医薬・歯科医薬に関する広告、医療計画等について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
5	歯科衛生士法 歯科衛生士法の制定・法改正の経緯、歯科衛生士養成制度、試験および免許制度の変遷を学習する。	講義	日高	-
6	歯科衛生士法 歯科衛生士法および同法施行令・施行規則、歯科衛生士学校養成所指定規則を学習する。	講義	日高	-
7	歯科衛生士に関する政策 診療報酬制度・介護保険制度における歯科衛生士業務の評価、歯科衛生士の業務範囲の検討経過と法改正に向けての課題を学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
8	歯科医師法 歯科医師法および同法施行令・施行規則、歯科医師養成の現況等を学習する。	講義	日高	-
9	歯科技工士法 歯科技工士法および同法施行令・施行規則、歯科技工士養成の現況等を学習する。	講義	日高	-
10	10 歯科医師・歯科技工士に関する政策 歯科医師の臨床研修および需給対策、歯科技工士の資質向上、歯科技工委託のあり方について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
11	保健師助産師看護師法 保健師助産師看護師法および同法施行令・施行規則、歯科衛生士法との相違を学習する。	講義	日高	-
12	医師その他の医療従事者の資格法 医師法、薬剤師法、診療放射線技師法、言語聴覚士法等のその他の医療従事者の資格法について学習する。	講義	日高	-
13	医師・看護師等の医療従事者に関する政策 医師、薬剤師、看護師等の養成の現況、需給計画および臨床研修制度等について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
14	地域保健法 地域保健法および同法施行令・施行規則、保健所、市町村保健センターの設置状況等について学習する。	講義	日高	-
15	健康増進法・歯科口腔保健法 健康増進法および歯科口腔保健法について概説する。歯科口腔保健法に基づく基本的事項、歯科保健目標の設定について学習する。	講義	日高	-

2016年度

医療政策学演習 (Seminar of Health and Medical Policies)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
16	地域保健法・健康増進法等に基づく政策 地域における健康増進対策の沿革、健康日本21（第2次）における主な目標について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
17	母子保健法 母子保健法および同法施行令・施行規則、健やか親子21の推進など各種母子保健事業を学習する。	講義	日高	-
18	学校保健安全法 学校保健安全法および同法施行令・施行規則、保健教育、保健管理、学校保健活動について学習する。	講義	日高	-
19	母子保健法・学校保健安全法に基づく政策 乳幼児健診等の母子保健事業、児童生徒等に対する学校保健事業、学校安全対策について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
20	食品衛生法・食育基本法 食品衛生法および同法施行令・施行規則、食育基本法、政府・団体等における食育の推進方策について学習する。	講義	日高	-
21	医薬品医療機器等法及び関連法規 医薬品医療機器等法、毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法等について学習する。	講義	日高	-
22	食品衛生法・医薬品医療機器等法に基づく政策 食品の安全管理・表示と広告、歯科医療用機器・医薬品等の法的な位置づけ、臨床試験の実施基準等について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
23	労働安全衛生法 労働安全衛生法および同法施行令・施行規則、職場における安全衛生管理体制を学習する。	講義	日高	-
24	感染症予防法・予防接種法・検疫法 感染症予防法、予防接種法および検疫法について概説する。感染症の種類と発症時等の対応を学習する。	講義	日高	-
25	労安衛法・感染症予防法等に基づく政策 業務上疾病の動向、健康診断の実施状況、感染症の発生状況、感染症の予防対策の現況等について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
26	健康保険法・高齢者医療確保法 健康保険法および高齢者医療確保法を概説する。各種医療保険制度および国民医療費の現況等を学習する。	講義	日高	-
27	診療報酬制度 診療報酬制度の仕組み、保険医療機関及び保険医の責務、審査支払機関の役割等を学習する。	講義	日高	-
28	介護保険法 介護保険法、介護保険制度の仕組み、介護給付・介護予防給付の現況、地域包括支援センターの役割等を学習する。	講義	日高	-
29	健康保険法・介護保険法等に基づく政策 医療保険制度および介護保険制度に対する高齢化の影響、制度見直しのあり方について学習する。	講義、演習	日高	事後レポートの提出
30	まとめ 学習事項からテーマを選択して成果を発表する。その際、歯科衛生士の立場から今後の保健医療介護制度のあり方について考察を加える。	演習	日高	事後レポートの提出

2016年度

口腔科学演習 (Seminar of Oral Science)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

歯周組織を除く口腔硬組織・軟組織疾患の成立機序および基礎的研究課題について実習を行う。

学生の到達目標

1. 口腔硬組織・軟組織疾患の成立機序を理解する。
2. 口腔硬組織・軟組織疾患に関する基礎的研究手法を理解する。
3. 文献検索の仕方を学ぶ。
4. 研究結果・文献を批判する能力を養う。

テキスト

硬組織研究ハンドブック
出)MDU出版会

著)松本歯科大学大学院硬組織研究グループ

参考書

教員から供与された文献と検索を行って得た文献など、必要な資料を集めて行う。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

事後レポートにより評価する。
点数配分：レポート15点×5回(4, 7, 10, 12, 14回)、25点×1回(15回修了後)

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学演習 (Seminar of Oral Science)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	口腔硬組織・軟組織疾患基礎的研究手法の概要 口腔硬組織・軟組織疾患研究に必要な基本的手技について学習する。	演習	引地	-
3,4	組織学的手法その1(病理材料の取り扱い) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における病理材料の取り扱い方法を学習する。	演習	引地	-
5,6	組織学的手法その2(評価の仕方) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における病理組織材料の評価の仕方を顕微鏡等を用いて学習する。	演習	引地	-
7,8	薬理学的手法その1(疾患モデル実験動物の取り扱い) 口腔硬組織・軟組織疾患研究におけるマウスなどの疾患モデルの取り扱いについて学習する。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
9,10	薬理学的手法その2(薬物投与方法) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデルに対する薬物投与方法を学習する。	演習	引地	-
11,12	薬理学的手法その3(評価の仕方) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデルの疾患改善・増悪などの評価の仕方を学習する。	演習	引地	-
13,14	生化学手法その1(疾患遺伝子発現の評価) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデル組織あるいは由来細胞中の疾患遺伝子発現を評価する手法を学習する。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
15,16	生化学手法その2(タンパク質発現の評価) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデル組織あるいは組織由来細胞中の疾患関連タンパク質発現を評価する手法を学習する。	演習	引地	-
17,18	生化学手法その3(生物学的効果の評価) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデルのMRI,CTなどの画像評価や、行動パターンの評価手法を学習する。	演習	引地	-
19,20	生理学的手法その1(細胞内カルシウム動態など) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデル組織由来細胞中の細胞内カルシウム動態測定などの手法を学習する。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
21,22	生理学的手法その2(評価の仕方) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデル組織由来細胞中の生理学的指標の評価手法を学習する。	演習	引地	-
23,24	免疫学的手法その1(免疫関連細胞の取り扱い) 口腔硬組織・軟組織疾患研究における疾患モデル組織由来免疫関連細胞の操作法を学習する。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
25,26	免疫学的手法その2(炎症性変化の評価) 疾患モデル組織由来免疫関連細胞の炎症時反応を評価する方法を学習する。	演習	引地	前回学習の事後レポート提出
27,28	文献検索とその評価その1 文献検索を行い、学んだ手技を用いて行った研究の成果発表の準備の仕方を学習する。	演習	引地	-
29,30	文献検索とその評価その2 14に引き続き研究成果発表準備の仕方を学習する。	演習	引地	15回の事後レポートは終了後時期を定めて提出

2016年度

口腔感染免疫学演習 (Seminar of Oral Infection and Immunity)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅						

授業の概要

口腔微生物感染に関する感染の経過、生体の免疫応答などについての基礎的な実験手技を学ぶ。

学生の到達目標

1. 微生物学的な実験手技を説明できる。
2. 微生物のバイオセーフティーレベル分類を説明できる。
3. 免疫学的な実験手技を説明できる。
4. 口腔感染症について実験手技を説明できる。

テキスト

毎回事前に配布する資料をテキストとして使用する。
出) 著)

参考書

戸田新細菌学34版
出)南山堂出版

著)吉田眞一、柳雄介、吉開泰信

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

毎回提出する事後レポート(10回各10点)を合計100点として評価する。

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔感染免疫学演習 (Seminar of Oral Infection and Immunity)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	微生物の観察 光学顕微鏡と電子顕微鏡による種々の観察法を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
2	微生物の観察 普通染色法と種々の特殊染色法を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
3	細菌の取扱い 細菌用の培地と培養法について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
4	細菌の取扱い 選択培地と生化学性状試験の為の培地について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
5	細菌の性質 熱や乾燥に対する細菌の耐性と感染に及ぼす影響について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
6	細菌の性質 熱、乾燥、消毒薬に対する細菌の耐性の実験方法について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
7	細菌の性質 消毒薬に対する感受性についての実験方法について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
8	細菌数の測定 生菌数と総細菌数の測定法、増殖のモニタリングについて学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
9	細菌の同定 細菌の生化学的方法と核酸増幅法による同定法を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
10	真菌学的検査法 真菌の観察、培養、同定法などを学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
11	病原体の安全管理と取扱い 病原菌のバイオセーフティーレベルと安全な取り扱いについて学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
12	免疫 抗原の調製 抗原接種、免疫スケジュールについて学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
13	抗体の調製 血清採取、アフィニティークロマトグラフィー他による抗体の精製について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
14	抗体の反応 沈降反応と直接および間接凝集反応について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
15	抗体の反応 ラジオイムノアッセイやELISA法、イムノプロット法などの標識抗体について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
16	抗体の反応 イムノプロット法とELISA法の実際について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
17	モノクローナル抗体の調製 モノクローナル抗体作成法の種類と原理を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
18	モノクローナル抗体の調製 モノクローナル抗体作成法の実際について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
19	免疫細胞の調製 T細胞、B細胞の脾臓、リンパ節、その他の臓器からの調製方法について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
20	免疫細胞の性質 免疫細胞の細胞表面抗原とフローサイトメーターによる検出法について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出

2016年度

口腔感染免疫学演習 (Seminar of Oral Infection and Immunity)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
21	免疫細胞の反応 B細胞のELISPOT反応による抗体産生細胞の定量法を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
22	免疫細胞の反応 T細胞の抗原特異的増殖、遺伝子発現について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
23	サイトカイン 種々のサイトカインに関する生物活性の測定法について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
24	サイトカイン 遺伝子発現を含む種々のサイトカインの定量法について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
25	動物実験法 実験計画、実験動物の種類と取扱い、注意すべき感染症を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
26	動物実験法 動物への細菌接種実験と検索方法を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
27	動物実験法 実験的アレルギーでの感作方法、アレルギーによる暴露とアレルギー反応の検出方法とその評価方法を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
28	動物実験法 遺伝子改変動物を応用した免疫学的検索法を学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
29	Candida albicansの性質 Candidaの分類、C. albicansの抗原、病原因子、宿主の防御因子について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出
30	C. albicansの感染機序 C. albicansの定着とヒト口腔内分布、感染への移行について学ぶ。	演習	井上	事後レポートの提出

2016年度

口腔保健管理学演習 (Seminar of Oral Health Management)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、辻澤 利行、高橋 由希子						

授業の概要

様々な全身状態の背景をもつ歯周疾患患者のメンテナンス・SPT治療における対策、アセスメントについて個々の患者にあったメンテナンス・SPT処方箋の作成を行うと共に心理、栄養に関する状態を把握する演習を行う。

学生の到達目標

1. 全身疾患を有する歯周疾患患者でのメンテナンス・SPT治療の計画書とメンテナンス・SPT処方箋の作成し評価できる。
2. 歯周疾患患者への栄養指導、生活指導について行える。
3. 歯周疾患を持つ周術期口腔ケアの患者の計画書、管理書を作成できる。

テキスト

歯科治療とメンテナンス

出)クインテッセンス出版

著)T,G,Wilson,Jr

関連分野の文献および資料を配付する。

出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート・プレゼンテーション	100%

レポートおよび第27回から第30回の報告会での、発表内容、プレゼンテーションにより評価する。点数配分：レポート100点の19回分と、プレゼンテーション100点の4回分の総合計の平均で評価する。

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔保健管理学演習 (Seminar of Oral Health Management)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、辻澤 利行、高橋 由希子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	全身疾患を有する歯周疾患患者の資料採取法1 全身疾患を有する歯周疾患患者に対して患者情報を得るための全身状態を含めた問診および診査を行う。	演習	久保田	事後レポートの提出
2	全身疾患を有する歯周疾患患者の資料採取法2 患者に対して歯周疾患診査と口腔内写真撮影を行う。	演習	久保田	事後レポートの提出
3	全身疾患を有する歯周疾患患者の資料採取法3 実際に診察で使用している問診表診査表をそれぞれの患者ごとに作成する。	演習	久保田	事後レポートの提出
4	全身疾患を有する歯周疾患患者の治療計画書作成1 個々の患者の歯周治療計画書を作成すると同時に診査データと共にファイリングする。	演習	久保田	事後レポートの提出
5	全身疾患を有する歯周疾患患者の治療計画書作成2 前回と同様に計画書、ファイリングを行うが、それぞれ違った全身疾患を有するものとする。	演習	久保田	事後レポートの提出
6	全身疾患を有する歯周疾患患者の治療計画書作成3 前回と同様に計画書、ファイリングを行う。	演習	久保田	事後レポートの提出
7	全身疾患を有する歯周疾患患者の処方箋作成1 個々の患者の計画書、診査データを基に治療を査定しそれに対する治療処方箋を作成する。	演習	久保田	事後レポートの提出
8	全身疾患を有する歯周疾患患者の処方箋作成2 別の患者に対する歯周治療処方箋を作成する。	演習	久保田	事後レポートの提出
9	全身疾患を有する歯周疾患患者の処方箋作成3 別の患者に対する歯周治療処方箋を作成する。3つの計画、処方箋に対してディスカッションを行う。	演習	久保田	事後レポートの提出
10	全身疾患を有する歯周疾患患者の治療計画、処方箋に基づく治療実施 治療計画、処方箋を基に指導医と共に治療を実施する。その後評価をおこなう。	演習	久保田	事後レポートの提出
11	全身疾患を有する歯周疾患患者の治療計画、処方箋に基づく治療実施 治療計画、処方箋を基に指導医と共に治療を実施する。その後評価をおこない、ディスカッションを行う。	演習	久保田	事後レポートの提出
12	食事調査・生活習慣調査の実際1 食事調査・生活習慣調査を歯科医師の指導のもとで行う。	演習	久保田、辻澤	事後レポートの提出
13	食事調査・生活習慣調査の実際2 食事調査・生活習慣調査を歯科医師の指導のもとで行う。	演習	久保田、辻澤	事後レポートの提出
14	食事調査・生活習慣調査の解析1 食事調査および生活習慣調査の解析を行う。	演習	辻澤	事後レポートの提出
15	食事調査・生活習慣調査の解析2 食事調査および生活習慣調査のデータ入力を行い解析する。	演習	辻澤	事後レポートの提出
16	食事調査・生活習慣調査の解析3 食事調査および生活習慣調査のデータ入力を行い解析する。	演習	辻澤	事後レポートの提出
17	生活習慣指導の実際1 解析した結果を歯科医師の指導のもと対象者へ還元する。	演習	久保田、辻澤	事後レポートの提出
18	生活習慣指導の実際2 解析した結果を歯科衛生士の指導のもと対象者へ還元する。	演習	高橋、辻澤	事後レポートの提出

2016年度

口腔保健管理学演習 (Seminar of Oral Health Management)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、辻澤 利行、高橋 由希子						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
19	歯周疾患を有する周術期患者に対する口腔衛生管理法 歯肉炎・軽度歯周病患者症例における専門的口腔衛生管理法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討
20	歯周疾患を有する周術期患者に対する口腔衛生管理法 軽度～中程度歯周病患者症例における専門的口腔衛生管理法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討
21	歯周疾患を有する周術期患者に対する口腔衛生管理法 中程度～重度歯周病患者症例における専門的口腔衛生管理法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討
22	歯周疾患を有する周術期患者に対する口腔衛生管理法 重度歯周病患者症例における専門的口腔衛生管理法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討
23	メンテナンス・SPTの患者に対するモチベーション法 メンテナンス導入時期に必要なモチベーション法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討
24	メンテナンス・SPTの患者に対するモチベーション法 SPT患者に必要なモチベーション法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討
25	メンテナンス・SPTの患者に対するモチベーション法 長期メンテナンス患者に必要なモチベーション法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討
26	メンテナンス・SPTの患者に対するモチベーション法 長期メンテナンス患者に必要なモチベーション法についてディスカッションを行う。	演習	高橋	症例検討 事後レポートの提出
27	ケース・プレゼンテーション1 それぞれの症例を基にプレゼンテーションを行う。	演習	久保田、辻澤、高橋	資料作成・発表
28	ケース・プレゼンテーション2 それぞれの症例を基にプレゼンテーションを行う。	演習	久保田、辻澤、高橋	資料作成・発表
29	ケース・プレゼンテーション3 それぞれの症例を基にプレゼンテーションを行う。	演習	久保田、辻澤、高橋	資料作成・発表
30	ケース・プレゼンテーション4 それぞれの症例を基にプレゼンテーションを行う。	演習	久保田、辻澤、高橋	資料作成・発表

2016年度

歯科診療支援学演習 (Seminar of Support of Dental Practices)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	高橋 由希子						
担当教員	高橋 由希子、引地 尚子、久保田 浩三、園木 一男、中道 敦子						

授業の概要

歯科診療支援学特論で議論した方法の実際を体得するため、診療機器を用い演習し、臨床の現場に還元することを目指す。

学生の到達目標

1. 口腔マネジメントに必要な病態や治療についての知識を理解する。
2. 臨床検査データの読み方等について系統的に学習する。
3. 周術期口腔マネジメント技法を習得する。

テキスト

関連分野の文献およびプリントを配付する。
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	70%
プレゼンテーション	30%

レポートおよび第28回～第30回の企画内容のプレゼンテーションにより評価する。点数配分：レポート（20回×3.5点）、プレゼンテーション（3回×10点）

その他

学生相談：随時

2016年度

歯科診療支援学演習 (Seminar of Support of Dental Practices)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	高橋 由希子						
担当教員	高橋 由希子、引地 尚子、久保田 浩三、園木 一男、中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	病棟における医療安全管理 入院患者における事故等や医療関連感染症等における安全確保について学習する。	演習	高橋	-
2	周術期患者管理の理解 周術期患者の病態の全般を概観し、歯科衛生士として注意すべき点や患者への配慮について学習する。	演習	高橋	-
3	生検補助 生体組織診断の手順を理解し、必要な器具や補助業務を学習する。	演習	引地	-
4	モニタリング(血圧・血中酸素飽和度) 入院患者におけるモニタリング(心電図や血圧の変動等)の解釈について学習する。	演習	園木	事後レポートの提出
5	全身麻酔手術見学 その1 口腔外科に関わる全身麻酔手術の概要を理解し、使用器具と補助業務を理解した上で手術見学を行う。	演習	引地	事後レポートの提出
6	全身麻酔手術見学 その2 口腔外科に関わる全身麻酔手術の概要を理解し、使用器具と補助業務を理解した上で手術見学を行う。	演習	引地	事後レポートの提出
7	口腔外科系診療に関連した器具の取り扱いと管理 その1 口腔外科診療器具で特に操作の複雑なもの、見分け方の難しいものを中心にその取扱いや適切な管理について学習する。	演習	引地	-
8	口腔外科系診療に関連した器具の取り扱いと管理 その2 口腔外科系診療における器具で特に見分け方の難しいものを中心にその取扱いや適切な管理について学習する。	演習	高橋	-
9	口腔衛生管理のシミュレーション演習 口腔外科系疾患を有する口腔病態模型を使用し、シミュレーション演習を行う。	演習	高橋	事後レポートの提出
10	吸引カテーテルの使用法と口腔マネジメント その1 吸引カテーテルの原理を理解し、口腔マネジメントに有効で適切な使用法を学習する。	演習	引地	事後レポートの提出
11	吸引カテーテルの使用法と口腔マネジメント その2 演習後、口腔マネジメントにおいて吸引カテーテルの必要性和使用のタイミングについて学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出
12	口腔機能訓練法 その1 術後、摂食・嚥下機能障害が生じた場合を想定した口腔機能訓練法において学習する。	演習	園木	-
13	口腔機能訓練法 その2 術後、摂食・嚥下機能障害が生じた場合を想定した口腔機能訓練法についてシミュレーション演習にて学習する。	演習	園木	事後レポートの提出
14	口腔機能訓練法 その3 術後、摂食・嚥下機能障害が生じた場合を想定した口腔機能訓練法についてシミュレーション演習にて学習する。	演習	園木	事後レポートの提出
15	術前口腔マネジメント その1 カンファランスにおいて患者の状態を理解し、術前の口腔マネジメントと術後を想定した計画立案について学習する。	演習	久保田	事後レポートの提出
16	術前口腔マネジメント その2 術前から術後までの患者の状態を理解し、想定した口腔マネジメント法と計画立案について学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出

2016年度

歯科診療支援学演習 (Seminar of Support of Dental Practices)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	高橋 由希子						
担当教員	高橋 由希子、引地 尚子、久保田 浩三、園木 一男、中道 敦子						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
17	術前口腔マネジメント その3 術前から術後までの患者の状態を理解し、想定した口腔マネジメント法と計画立案について学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出
18	手術カンファレンスへの参加 その1 カンファレンスに参加し、医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を認識し、歯科衛生過程を立案することを学ぶ。	演習	引地	事後レポートの提出
19	手術カンファレンスへの参加 その2 カンファレンスに参加し、医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を認識し、歯科衛生過程を立案することを学ぶ。	演習	引地	事後レポートの提出
20	術後口腔マネジメント その1 口腔マネジメント法 マネジメント実施のための口腔環境整備 口腔機能訓練 患者・家族への保健指導を立案し、多職種連携の構築法を学習する。	演習	久保田	事後レポートの提出
21	術後口腔マネジメント その2 術後から退院時の 口腔マネジメント法 口腔マネジメント実施のための口腔環境整備 患者・家族への保健指導を立案し、多職種連携の構築法を学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出
22	術後口腔マネジメント その3 退院後から定期検診時の 口腔マネジメント法 口腔マネジメント実施のための口腔環境整備 患者・家族への保健指導を立案し、多職種連携の構築法を学習する。	演習	高橋	事後レポートの提出
23	栄養マネジメント その1 対象者の栄養上の問題点を把握するために栄養スクリーニングを学習する。	演習	引地	事後レポートの提出
24	栄養マネジメント その2 栄養スクリーニングの結果に基づき、栄養マネジメントを考案することを学習する。	演習	引地	事後レポートの提出
25	術後口腔機能訓練法 その1 周術期における口腔内状態の変容に対する摂食・嚥下機能訓練法について学習する。	演習	園木	-
26	術後口腔機能訓練法 その2 周術期における口腔内状態の変容に対する摂食・嚥下機能訓練法について学習する。	演習	園木	事後レポートの提出
27	術後口腔機能訓練法 その3 周術期における口腔内状態の変容に対する摂食・嚥下機能訓練法について学習する。	演習	園木	事後レポートの提出
28	症例検討プレゼンテーション その1 それぞれの症例についてプレゼンテーションを行い、口腔マネジメントについて学習する。	演習	高橋、引地、久保田、園木	高橋、引地、久保田、園木
29	症例検討プレゼンテーション その1 それぞれの症例についてプレゼンテーションを行い、口腔マネジメントについて学習する。	演習	高橋、引地、久保田、園木	高橋、引地、久保田、園木
30	症例検討プレゼンテーション その1 それぞれの症例についてプレゼンテーションを行い、口腔マネジメントについて学習する。	演習	高橋、引地、久保田、園木	高橋、引地、久保田、園木

2016年度

高齢者口腔機能支援学演習 (Seminar of Functional Support for Elderly and Disability persons)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	泉 繭依						
担当教員	泉 繭依						

授業の概要

高齢者の摂食・嚥下を中心とした口腔機能に障害をもたらす実際の症例・事例から課題を抽出し、介入計画を立案し、介入すべき機能向上・回復に関する技法を演習する。

学生の到達目標

1. 口腔機能向上および回復の理論を理解し、その方法を実践できる
2. 口腔機能障害の病態による機能障害の理解と機能評価を実施できる
3. 療養ステージに応じた口腔機能向上および回復の方法を実践できる
4. 多職種との連携を理解できる

テキスト

関連論文および資料を配布する。

出) (著)

参考書

摂食・嚥下リハビリテーション 第3版

出)医歯薬出版 (著)才藤栄一・向井美恵

よくわかる摂食・嚥下のメカニズム

出)医歯薬出版 (著)山田好秋

疾患別に診る嚥下障害

出)医歯薬出版 (著)藤島一郎

5疾病の口腔ケア

出)医歯薬出版 (著)藤本篤士

関係学会雑誌(日本摂食・嚥下リハビリテーション学会等)

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
プレゼンテーション	20%

レポートおよび第27回～第30回の企画内容のプレゼンテーションにより評価する。

点数配分：レポート8点×10回、プレゼンテーション5点×4回

その他

学生相談：随時

2016年度

高齢者口腔機能支援学演習 (Seminar of Functional Support for Elderly and Disability persons)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	泉 繭依						
担当教員	泉 繭依						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	口腔機能向上・回復の理論 1 口腔機能向上・回復のための評価と管理において、近年用いられている理論について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
2	口腔機能向上・回復の理論 2 口腔機能向上・回復のための評価と管理において、近年用いられている理論について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
3	口腔機能向上・回復の理論 3 口腔機能向上・回復のための評価と管理において、近年用いられている理論について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
4	間接訓練 間接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
5	間接訓練 間接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
6	間接訓練 間接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
7	間接訓練 間接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
8	直接訓練 直接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
9	直接訓練 直接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
10	直接訓練 直接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
11	直接訓練 直接訓練の手技を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
12	食事支援 食事支援の手技や手法を理解し、学生同士や臨床において多職種連携のもとに実施する。	演習	泉	事後レポートの提出
13	急性期に応じた口腔機能向上・回復の方法（急性期 1） 急性疾患発症にともなう生じる病態や症状に応じて行う口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
14	急性期に応じた口腔機能向上・回復の方法（急性期 2） 急性疾患発症にともなう生じる病態や症状に応じて行う口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
15	急性期に応じた口腔機能向上・回復の方法（急性期 3） 急性疾患発症にともなう生じる病態や症状に応じて行う口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
16	急性期に応じた口腔機能向上・回復の方法（急性期 4） 急性疾患発症にともなう生じる病態や症状に応じて行う口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
17	回復期に応じた口腔機能向上・回復の方法（回復期 1） 回復期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出

2016年度

高齢者口腔機能支援学演習 (Seminar of Functional Support for Elderly and Disability persons)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	泉 繭依						
担当教員	泉 繭依						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
18	回復期に応じた口腔機能向上・回復の方法（回復期2） 回復期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
19	回復期に応じた口腔機能向上・回復の方法（回復期3） 回復期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
20	回復期に応じた口腔機能向上・回復の方法（回復期4） 回復期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
21	維持期に応じた口腔機能向上・回復の方法（維持期1） 維持期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
22	維持期に応じた口腔機能向上・回復の方法（維持期2） 維持期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
23	維持期に応じた口腔機能向上・回復の方法（維持期3） 維持期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
24	療維持期に応じた口腔機能向上・回復の方法（維持期4） 維持期における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
25	在宅療養者に応じた口腔機能向上・回復の方法（在宅1） 在宅における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
26	在宅療養者に応じた口腔機能向上・回復の方法（在宅2） 在宅における療養環境や病態・症状に応じて実施する口腔機能向上・回復のための手法や多職種との協働について学習する。	演習	泉	事後レポートの提出
27	事例検討 これまで学習した知識や技術をもとに、提示した事例に応じた、多職が協働して連携できる口腔リハビリテーション計画を立案し、考察を行う。	演習	泉	事後レポートの提出
28	事例検討 これまで学習した知識や技術をもとに、提示した事例に応じた、多職が協働して連携できる口腔リハビリテーション計画を立案し、考察を行う。	演習	泉	事後レポートの提出
29	事例検討 これまで学習した知識や技術をもとに、提示した事例に応じた、多職が協働して連携できる口腔リハビリテーション計画を立案し、考察を行う。	演習	泉	事後レポートの提出
30	事例検討 これまで学習した知識や技術をもとに、提示した事例に応じた、多職が協働して連携できる口腔リハビリテーション計画を立案し、考察を行う。	演習	泉	事後レポートの提出

2016年度

専門的口腔ケア演習 (Seminar of Professional Oral Health Care)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中道 敦子						
担当教員	中道 敦子、久保田 浩三、泉 繭依						

授業の概要

周術期口腔機能管理の臨床を通して、歯科衛生過程を用いて口腔保健上の問題を検討し、歯科衛生士の役割および具備すべき能力を考案する。

学生の到達目標

1. 周術期口腔機能管理のシステムを説明できる
2. 周術期患者の術前の専門的口腔ケアを実施できる
3. ICUにおける専門的口腔ケアを説明できる
4. 周術期患者の術後の専門的口腔ケアを実施できる
5. がんの放射線治療中の患者の専門的口腔ケア計画を立案できる
6. 化学療法中の患者の専門的口腔ケア計画を立案できる
7. 周術期患者の症例を歯科衛生過程を用いて記述できる
8. 周術期患者の口腔保健上の問題の特徴を説明できる
9. 周術期口腔機能管理のための歯科衛生士の能力を説明できる
10. 周術期口腔機能管理のための歯科衛生士教育方法を説明できる

テキスト

これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル
出)永末書店 著)別所和久監修

歯科衛生ケアプロセス実践ガイド
出)医歯薬出版 著)佐藤陽子 齋藤淳編著

参考書

周術期口腔機能管理の基本がわかる本
出)クインテッセンス出版 著)梅田正博編著

5疾病の口腔ケア
出)医歯薬出版 著)藤本篤士編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

参考文献をもとに作成したレポートを評価する。
点数配分：術前の口腔ケア：10点，ICUの口腔ケア：20点，術後の口腔ケア：20点，放射線療法・化学療法：10点，歯科衛生過程：30点，歯科衛生の能力・教育方法：10点

その他

学生相談：月～金16:30～17:30

2016年度

専門的口腔ケア演習 (Seminar of Professional Oral Health Care)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中道 敦子						
担当教員	中道 敦子、久保田 浩三、泉 繭依						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	周術期口腔機能管理の概要 周術期の医学的管理および看護ケアの実際を学ぶ。	講義・演習	中道	事後レポートの提出
2	周術期口腔機能管理のシステム 症例を通して周術期口腔機能管理の過程を学ぶ。	演習	中道	事後レポートの提出
3	周術期口腔機能管理のシステム 症例を通して周術期口腔機能管理の過程の実際を学ぶ。	演習	中道	事後レポートの提出
4	周術期口腔機能管理のシステム 周術期口腔機能管理の過程の実際を通して歯科衛生士の役割を考察する。	講義・演習	中道	論文検索・事後レポートの提出
5	周術期の専門的口腔ケア 周術期患者の術前の専門的口腔ケアを行う。	演習	中道	事後レポートの提出
6	周術期の専門的口腔ケア 周術期患者の術前の専門的口腔ケアを行う。	演習	中道	事後レポートの提出
7	周術期の専門的口腔ケア 周術期患者の術前の専門的口腔ケアを行う。	演習	中道	事後レポートの提出
8	周術期の専門的口腔ケア 周術期患者のICUの専門的口腔ケアの実際を学ぶ。	演習	中道	事後レポートの提出
9	周術期の専門的口腔ケア 周術期患者のICUの専門的口腔ケアにおいて必要な他職種連携の内容を学修する。	講義・演習	中道	論文検索・事後レポートの提出
10	周術期の専門的口腔ケア 病棟での周術期患者の術後の専門的口腔ケアを行う。	演習	中道	事後レポートの提出
11	周術期の専門的口腔ケア 同一の病棟患者に術後の専門的口腔ケアを行い、看護師と情報を共有する。	演習	中道	事後レポートの提出
12	周術期の専門的口腔ケア 同一の病棟患者の術後経過にあわせた専門的口腔ケアを行う。	演習	中道	事後レポートの提出
13	周術期の専門的口腔ケア 同一の病棟患者の退院にむけた口腔保健管理計画を立案する。	演習	中道	事後レポートの提出
14	がんの放射線治療中の患者に対する専門的口腔ケア 実際の症例を通して放射線治療と粘膜傷害および口腔保健上の問題を学ぶ。	演習	中道	論文検索・抄読 事後レポートの提出
15	がんの放射線治療中の患者に対する専門的口腔ケア 放射線治療による粘膜傷害に応じた専門的口腔ケアを計画立案する。	演習	中道	事後レポートの提出
16	化学療法中の患者の専門的口腔ケア 実際の症例を通して化学療法と粘膜傷害などの有害事象を学ぶ。	演習	中道	論文検索・抄読 事後レポートの提出
17	化学療法中の患者の専門的口腔ケア 骨髄移植患者の治療過程を通して化学療法を受ける患者の状態を理解する。	演習	中道	事後レポートの提出
18	化学療法中の患者の専門的口腔ケア 化学療法による粘膜傷害に応じた専門的口腔ケアを計画立案する。	演習	中道	事後レポートの提出
19	周術期患者の歯科衛生過程 症例分析	演習	中道	事後レポートの提出
20	周術期患者の歯科衛生過程 症例分析	演習	中道	事後レポートの提出

2016年度

専門的口腔ケア演習 (Seminar of Professional Oral Health Care)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中道 敦子						
担当教員	中道 敦子、久保田 浩三、泉 繭依						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
21	周術期患者の歯科衛生過程 症例分析	演習	中道	事後レポートの 提出
22	周術期患者の歯科衛生過程 症例分析	演習	中道	事後レポートの 提出
23	周術期患者の歯科衛生過程 症例分析	演習	中道	事後レポートの 提出
24	周術期患者の歯科衛生過程 症例分析	演習	中道	事後レポートの 提出
25	周術期患者の口腔保健上の問題の特徴 ～ の症例レポートの総合分析	演習	中道	論文検索・抄読
26	周術期患者の口腔保健上の問題の特徴 ～ 総合分析のまとめ	演習	中道	論文検索・抄読 事後レポートの 提出
27	周術期口腔機能管理のために歯科衛生士が具備すべき能力	演習	中道	論文検索・抄読
28	周術期口腔機能管理のための専門教育方法	演習	中道	論文検索・抄読
29	周術期口腔機能管理のための専門教育方法	演習	中道	事後レポートの 提出
30	周術期口腔機能管理のための専門教育方法	演習	中道	論文検索・抄読 事後レポートの 提出

2016年度

専門的歯科衛生士業務演習 (Seminar of Professional Dental Hygiene Practice)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、高橋 由希子						
	<連携施設で実習する場合>：施設での指導担当者						

授業の概要

専門分野において行われるハイレベルな歯科衛生士業務に必要な知識・技能を、実践的に習得する。

学生の到達目標

1. 学生の個々の希望・適性に応じた臨床的専門分野を選択し、その分野において重要とされる高度な知識・技能を学び、実践することができる。
2. また、その内容を患者・学部学生に説明することができる。

テキスト

関連分野の文献およびプリントを配付する。
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	70%
プレゼンテーション態度	30%

その他

学生相談：随時

2016年度

専門的歯科衛生士業務演習 (Seminar of Professional Dental Hygiene Practice)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年前期	科目	専門選択科目	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三、高橋 由希子						
	< 連携施設で実習する場合 > : 施設での指導担当者						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～6	<p>専門分野の特性の理解 歯科専門分野の特性を理解し、それぞれの専門分野での歯科衛生士が行う業務（歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導）を理解する。 < 連携施設で実習する場合 > 病棟や高齢者施設での他職種の業務内容について理解する。</p>	演習	久保田、高橋、 連携施設の担当者	事後レポートの提出
7～24	<p>専門分野における歯科衛生士業務の技術習得 それぞれの歯科専門分野での歯科衛生士業務のスキルアップを行い、種々の認定歯科衛生士の習得が目指せる技術力を習得する。 < 連携施設で実習する場合 > 病棟や高齢者施設で求められる歯科衛生業務のスキルアップを行う。</p>	演習	久保田、高橋、 連携施設の担当者	事後レポートの提出
25～30	<p>専門分野における歯科衛生士業務の計画立案とその実践 それぞれの専門分野での症例に対する治療への医療チームの一員として役割を果たすと共に治療計画立案を実践し、プレゼンテーションを行う。 < 連携施設で実習する場合 > 病棟や高齢者施設での症例に対する治療への医療チームの一員として役割を果たすと共に治療計画立案を実践し、プレゼンテーションを行う。</p>	演習	久保田、高橋、 連携施設の担当者	事後レポートの提出

2016年度

口腔科学研究（担当教員：日高 勝美） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美						

授業の概要

歯科保健に関わる諸規程を理解するとともに、市町村、学校、事業所、介護保険施設等の地域における歯科保健上の課題を把握し、歯科保健対策の進め方を考察する。

学生の到達目標

1. 歯科保健に関わる法令等の諸規程を理解する。
2. 地域における歯科疾患や口腔保健管理の実態を把握する。
3. 地域における歯科保健上の課題を整理し、対策の進め方を立案する。
4. 学習結果をプレゼンテーションできる。

テキスト

出) 著)

参考書

- 国民衛生の動向
出) 著)厚生労働統計協会
- 国民の福祉と介護の動向
出) 著)厚生労働統計協会
- 公衆衛生がみえる
出) 著)医療情報科学研究所
- 実務衛生行政六法
出)新日本法規出版 著)衛生法規研究会
- 社会福祉六法
出)新日本法規出版 著)社会福祉法規研究会
- 医療六法
出)中央法規出版 著)
- 歯科保健指導関係資料
出) 著)口腔保健協会
- 歯科保健関係統計資料
出) 著)口腔保健協会

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

プレゼンテーションおよび報告書により評価する。
プレゼンテーション50点×1回、報告書50点×1回

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学研究（担当教員： 日高 勝美） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	日高 勝美						
担当教員	日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保健に関わる法令等の学習 ・ 市町村、学校、事業所、介護保険施設等における歯科保健対策事例の学習 ・ 調査計画の立案 ・ 地域における歯科保健上の課題調査、改善方策に関する考察 ・ 調査報告、学習結果のとりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 ・ 文献抄読、検討 ・ 実態調査 ・ 調査結果等の検討 	日高	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献検索、抄読

2016年度

口腔科学研究（担当教員：井上 博雅）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅						

授業の概要

口腔における粘膜免疫、感染免疫、アレルギーなどの免疫現象について実践的に学習をする。

学生の到達目標

1. 口腔の免疫に関する文献について論理的に説明できる。
2. 実験結果をまとめ、検討できる。
3. 学会等で研究成果を発表できる。
4. 論文にまとめ学術雑誌に投稿できる。

テキスト

教員が供与した論文や参考書および各自が検索した関連分野の文献を利用する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学研究（担当教員：井上 博雅） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	井上 博雅						
担当教員	井上 博雅						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容に関連した文献を検索・抄読する。 ・実験結果を検討する。 ・結果を整理し、学会に発表し、論文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文抄読・検討 ・実験結果の検討 ・作成した論文の検討 	井上	<ul style="list-style-type: none"> ・論文検索・抄読

2016年度

口腔科学研究（担当教員：引地 尚子）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

口腔科学または口腔内科学の研究理論・手法を学んだ学生が、演習を通じ明確にした命題に対して研究計画を立案し、担当教員と協議しながら主体的に研究を行い、その結果を発表する。

学生の到達目標

以下のいずれかの一つを行う。

1. 歯科衛生士に必要な口腔内科的疾患に対する臨床エビデンスに基づいた診断・治療・口腔ケアシステムの構築を行う（口腔内科学特論履修者）。
2. 歯・歯周組織を除く口腔硬組織・難組織疾患の機序の解明を、実験的手法を用いて行う（口腔科学特論履修者）。

テキスト

（口腔内科学特論履修者）口腔内科学
出）飛鳥出版室

著）尾崎 登喜雄

（口腔科学特論履修者）口腔科学
出）朝倉書店

著）戸塚康則他

硬組織研究ハンドブック
出）MDU出版会

著）松本歯科大学大学院硬組織研究グループ

参考書

関連分野の文献および参考書は教員から供与したものおよび各自検索したものを利用する。

出） 著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

プレゼンテーションおよび報告書により評価する。
プレゼンテーション50点×1回、報告書50点×1回

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学研究（担当教員：引地 尚子）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	<ul style="list-style-type: none"> 口腔科学または口腔内科学に関する重要な最新の研究の内容を理解する。 研究内容に即した文献を収集・抄読する。 研究計画を立案・実施する。 （口腔内科学特論履修者） 診断・治療・口腔ケアシステムの作成を行う （口腔科学特論履修者） 口腔疾患に関する主に免疫学的側面に関する実験を分子生物学的手法で行う 報告書やプレゼンテーション・論文を作成する。 発表する。 	（口腔内科学特論履修者） <ul style="list-style-type: none"> 論文抄読・検討 研究計画立案と実施 論文・報告書作成および検討 （口腔科学特論履修者） <ul style="list-style-type: none"> 論文抄読・検討 研究計画立案 実験 論文・報告書作成および検討 	引地	<ul style="list-style-type: none"> 論文の検索 抄読 資料作成・発表

2016年度

口腔科学研究（担当教員：秋房 住郎） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業の概要

メタリックシンドロームなどのエネルギー代謝異常状態における免疫応答の変化について、細胞分子生物学的手法および疫学的手法を用いた研究の実践に関する指導を行う。

学生の到達目標

1. 代謝におけるアディポカイン群の免疫機能に与える影響について、細胞分子生物学の実験手法を用いて解明する。
2. 実験結果をまとめ、論文にまとめ学術雑誌に投稿する。
3. 必要に応じて学会等で研究成果を発表する。

テキスト

関連分野の文献および参考書は教員から供与したものおよび各自検索したものを利用する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

プレゼンテーションおよび報告書により評価する。
プレゼンテーション50点×1回、報告書50点×1回

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学研究（担当教員：秋房 住郎） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容に即した文献を収集・抄読する。 ・研究計画の立案 ・代謝におけるアディポカイン群の免疫機能に与える影響を解明するため細胞分子生物学的実験を行う。 ・論文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験 ・論文抄読・検討 ・作成した論文の検討 	秋房	<ul style="list-style-type: none"> ・論文検索、抄読 ・実験手法の予/復習

2016年度

口腔科学研究（担当教員：久保田浩三）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三						

授業の概要

歯周疾患を中心とした口腔内のケア・治療を行い、それを維持するメンテナンス治療の有効性とその効果を全身的な機能や精神的な影響に関して研究を行うことを指導する。

学生の到達目標

1. 関連論文を読んで、概略を理解する。
2. 治療症例の資料を基に、関連論文との比較検討を行うことができる。
3. メンテナンス治療中の症例の問題点を抽出し、考察することができる。
4. 治療症例と論文との比較を基に、プレゼンテーションすることができる。

テキスト

歯科治療とメンテナンス
出)クインテッセンス出版

著)T,G,Wilson,Jr

参考書

講義ごとに資料を配布する。
出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

その他

2016年度

口腔科学研究（担当教員：久保田浩三）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	久保田 浩三						
担当教員	久保田 浩三						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	歯周メンテナンス治療に関する総説や最近の研究内容を理解し説明する。 歯周メンテナンス治療症例の資料の整理検討を行う。 文献と症例の比較検討を行う。	論文紹介、検討。症例の提示とそれに対する討論	久保田	論文検索・抄読

2016年度

口腔科学研究（担当教員：園木 一男）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	園木 一男						
担当教員	園木 一男						

授業の概要

歯周病や残存歯数、咀嚼能などの口腔内の状況と動脈硬化や糖尿病などの全身の状況との関係を解明するため、地域住民の歯科・内科検診データベースを使った疫学研究や臨床研究および基礎研究を行う。

学生の到達目標

1. 疫学研究の手法（統計解析を含む）を理解できる。
2. 臨床研究や基礎研究の課題を自ら設定し、研究方法をデザインし、実行、まとめることができる。
3. 研究を進めていく上で重要な論文をみつけ、理解できる。
4. 研究の成果を考察し、学会等で発表することができる。
5. 研究成果を論文にまとめ、学術雑誌に投稿できる。

テキスト

関連分野の文献および参考書は教員から供与したものおよび各自検索したものを利用する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

その他

2016年度

口腔科学研究（担当教員：園木 一男） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	園木 一男						
担当教員	園木 一男						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容に即した文献を収集・抄読する。 ・研究計画の立案 ・口腔状態と全身状態との関係解明のため、疫学研究、臨床研究、基礎研究のうち一つを選び、研究を行う。 ・論文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・論文抄読 ・実験・解析 ・作成した論文の検討 	園木	<ul style="list-style-type: none"> ・論文検索、抄読 ・実験手法の予習/復習

2016年度

口腔科学研究（担当教員：吉野 賢一） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業の概要

摂食行動に関わる情報の処理や統合、運動の発現や遂行、あるいは記憶や学習などにおける大脳皮質の役割について、ヒトを対象とした非侵襲的な方法による研究の実践、指導を行い、視覚誘導性舌突出課題遂行中の脳機能に関する論文を作成する。

学生の到達目標

1. 大脳皮質の機能局在を理解できる。
2. 近赤外分光法により視覚情報提示および運動遂行時の脳活動（脳血流、ヘモグロビン量の変化）を計測できる。
3. 研究の遂行に必要な引用論文の内容を理解できる。
4. 研究成果を論文としてまとめ学術雑誌に投稿する。
5. 必要に応じて学会等で研究成果を発表する。

テキスト

関連分野の文献および参考書は教員から供与したものおよび各自検索したものを利用する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

プレゼンテーションおよび報告書により評価する。
プレゼンテーション50点×1回、報告書50点×1回

その他

学生相談：8：30～17：15

2016年度

口腔科学研究（担当教員：吉野 賢一） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	視覚刺激に誘導される舌突出課題遂行中の被験者において、近赤外分光法により前頭前野の活動を記録、解析する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験 ・論文抄読・検討 ・作成した論文の検討 	吉野	<ul style="list-style-type: none"> ・論文検索・抄読 ・資料作成・発表

2016年度

口腔科学研究（担当教員：辻澤 利行）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行						

授業の概要

食べる機能の発達・維持・回復、齲蝕予防、摂食・嚥下障害や要介護の原因となる生活習慣病の予防、口腔のトラブルによって起こりうる低栄養の防止など歯科保健の立場から食育を支援したり歯科臨床栄養に関与する調査研究や実験研究を行う。

学生の到達目標

1. 論理的に説明できる。
2. 調査方法および実験手技についてその原理と結果の解釈を理解でき、まとめることができる。
3. 研究を進めていく上で重要な論文をみつけ、理解できる。
4. 結果をプレゼンテーションできる。

テキスト

関連分野の文献および参考書は教員から供与したものおよび各自検索したものを利用する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

プレゼンテーションおよび報告書により評価する。
プレゼンテーション50点×1回、報告書50点×1回

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学研究（担当教員：辻澤 利行） (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	辻澤 利行						
担当教員	辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～90	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容に即した文献を収集・抄読する。 ・研究計画の立案・実行・まとめ ・論文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・実験 ・論文抄読・検討 ・作成した論文の検討 	辻澤	文献検索・抄読

2016年度

口腔科学研究（担当教員：中道 敦子）（Specialized Study for Oral Health）

開講年次	1～2年	期区分	1年後期～2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中道 敦子						
担当教員	中道 敦子						

授業の概要

歯科衛生の高度専門技術を修得し、シミュレータを用いた教育方法について研究する

学生の到達目標

1. 研究を進めていくうえで重要な論文を見つけ理解できる。
2. 疾病と回復の各ステージにおける専門的口腔ケアが適切に実施できる。
3. 対象者のレベルに応じた口腔ケアの教育方法を考案できる。
4. 必要に応じて学会等で研究成果を発表する。

テキスト

関連分野の文献および参考書は教員から供与したものと各自検索したものを利用する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
報告書	50%

その他

学生相談：随時

2016年度

口腔科学研究 (担当教員: 中道 敦子) (Specialized Study for Oral Health)

開講年次	1~2年	期区分	1年後期~2年通年	科目	専門研究	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	中道 敦子						
担当教員	中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~90	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容に即した文献を収集・抄読する ・専門的口腔ケアの症例を検討する ・シミュレータを用いた口腔ケアの教育方法を検討する ・関連学会で成果を発表する 	・論文抄読、討論	中道	・論文検索、抄読

2016年度

Clinical Research Design (Clinical Research Design)

開講年次	1 ~ 3 grades	期区分	前期	科目	Elective	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Kakudate N.						
担当教員	角舘 直樹、唐木 純一						

授業の概要

【Language】English and Japanese

In this lecture, you will learn basic aspects of clinical research design. In addition, to develop practical skills in Evidence-Based Dentistry (EBD), you will conduct a literature search based on a question you derive from your own dental practice, and make a presentation after critical appraisal of the selected papers.

学生の到達目標

At the completion of this course, you will be able to:

1. Formulate questions arising in clinical practice into research questions.
2. Understand the outlines of clinical study design.
3. Select appropriate clinical study designs.
4. Critically appraise clinical research papers and structured abstracts.
5. Practice Evidence-based Dentistry.

テキスト

Introduction to Evidence-Based Dentistry
出) Ishiyaku Publishers. 著)

参考書

Designing Clinical Research
出) 著) Stephen B Hulley

Guide to Practice-Based Research and Scientific Writing
出) Ishiyaku Publishers 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
attendance	30%
deliverables during your coursework	50%
presentation	20%

その他

2016年度

Clinical Research Design (Clinical Research Design)

開講年次	1 ~ 3 grades	期区分	前期	科目	Elective	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Kakudate N.						
担当教員	角舘 直樹、唐木 純一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Introduction to EBD: You will learn about the definition of EBD and clinical research.	Lecture	Kakudate	Definition of EBD/Level of evidence
2	Observational study: You will learn about critical appraisal of reports of observational studies.	Lecture	Kakudate	Critical appraisal/ Screening test
3	Study design: You will learn about epidemiological study design and biases.	Lecture	Kakudate	Study design/ Concept of bias
4	Randomized Controlled Trials: You will learn about critical appraisal of reports of RCT	Lecture	Kakudate	Critical appraisal of research articles of RCT
5	Research articles: You will learn about the structure of research articles and abstracts on clinical research	Lecture	Kakudate	Structure of the research articles and abstracts
6	EBD step 1: You will learn how to formulate an answerable question.	Lecture and Practice	Kakudate	P I C O: Formulate an answerable question
7	Outcome of interest: You will learn about outcome indicators in clinical research	Lecture and Practice	Kakudate	Measuring outcomes of interest
8	EBD step 2: You will learn how to search the literature using PubMed.	Lecture and Practice	Kakudate	Literature search
9	EBD step 2: You will learn how to search the literature using the Cochrane library and Minds.	Lecture and Practice	Kakudate	Cochrane review / Clinical guidelines
10	Systematic reviews and Meta-analyses: You will learn how to critically appraise systematic reviews and meta-analyses.	Lecture	Kakudate	Systematic review / Meta- analysis
11	Systematic reviews and meta-analyses: You will critically appraise research reports of meta-analyses.	Lecture and Practice	Kakudate	Critical appraisal of research papers of systematic reviews and meta-analysis
12	EBD step 3: You will perform critical appraisal of the literature based on your own research question	Lecture and Practice	Kakudate	Preparing PowerPoint presentations
13	Final presentation -Part 1-	Presentation	Kakudate Karaki	Preparing PowerPoint presentations
14	Final presentation -Part 2-	Presentation	Kakudate Karaki	Preparing PowerPoint presentations
15	Final presentation -Part 3-	Presentation	Kakudate Karaki	Preparing PowerPoint presentations

2016年度

Clinical Research Design (Clinical Research Design)

開講年次	1 ~ 3 grades	期区分	後期	科目	Elective	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Kakudate N.						
担当教員	角舘 直樹、唐木 純一						

授業の概要

【Language】 English and Japanese

In this lecture, you will obtain specialized knowledge on clinical research design and applied skills in the conduct of clinical research. In addition, you will develop the ability to create a study protocol based on a clinical question you derive from your own dental practice. Finally, you will make a presentation of the study protocol.

学生の到達目標

At the completion of this course, you will be able to:

1. Understand the process flow from the planning of clinical epidemiology research up to implementation.
2. Formulate a research question derived from your own dental practice.
3. Develop a research design.
4. Understand the basics of statistical hypothesis testing.
5. Create a research protocol.

テキスト

Introduction to Evidence-Based Dentistry
出) Ishiyaku Publishers. 著)

参考書

Designing Clinical Research
出) 著) Stephen B Hulley

Guide to Practice-Based Research and Scientific Writing
出) Ishiyaku Publishers. 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
attendance	30%
deliverables during your coursework	50%
presentation	20%

その他

2016年度

Clinical Research Design (Clinical Research Design)

開講年次	1 ~ 3 grades	期区分	後期	科目	Elective	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Kakudate N.						
担当教員	角舘 直樹、唐木 純一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Introduction to clinical research: You will learn how to formulate an answerable question.	Lecture	Kakudate	PICO/Finer ' s check
2	Controlling bias part 1: You will learn how to control information bias and selection bias.	Lecture and Practice	Kakudate	Study design/Informati on and selection bias
3	Controlling bias part 2: You will learn how to control confounding bias.	Lecture and Practice	Kakudate	Confounding bias
4	Hypothetical conceptual model: You will learn how to build a hypothetical conceptual model.	Lecture and Practice	Kakudate	Hypothetical conceptual model
5	Selecting study design part 1: You will learn how to select an appropriate epidemiological study design.	Lecture and Practice	Kakudate	Epidemiological study design
6	Selecting study design part 2: You will learn how to plan and conduct epidemiological studies.	Practice	Kakudate	Epidemiological study design
7	Finding the Evidence Part 1: You will search the literature based on your PICO framework.	Practice	Kakudate	Literature search
8	Finding the Evidence Part 2: You will search the literature based on your PICO framework.	Practice	Kakudate	Literature search
9	Questionnaire survey: You will learn how to produce questionnaires and question items.	Lecture and Practice	Kakudate	Questionnaire survey
10	Statistical analysis part 1: You will learn the types of data and correlation.	Lecture	Kakudate	Correlation coefficient
11	Statistical analysis part 2: You will learn hypothesis testing and the chi-square test.	Lecture and Practice	Kakudate	Hypothesis testing/ Chi- square test
12	Statistical analysis part 3: You will learn statistical significance and the t-test.	Lecture and Practice	Kakudate	Research protocol for an Institutional Review Board
13	Final presentation -Part 1-	Presentation	Kakudate	Preparing PowerPoint presentations
14	Final presentation -Part 1-	Presentation	Kakudate, Karaki	Preparing PowerPoint presentations
15	Final presentation -Part 2-	Presentation	Kakudate, Karaki	Preparing PowerPoint presentations

2016年度

Introduction to Polymer Physics (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	後期	科目	大学間連携 (九工大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Sakurai K.						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						

授業の概要

【Language】*English, Japanese, あるいはEnglish and Japaneseのいずれか
To conduct research on biopolymers and environmental materials, understanding physical properties of polymers is extremely important. This lecture explains physical properties of polymers.

学生の到達目標

Studying the several basic knowledge required in industrial field such as molecular distribution, crystallization, scattering, and rheology.

テキスト

出) 著)

参考書

Introduction to Polymer Physics
出) ISBN-10: 4785320567 著) F. Tanaka

成績評価方法・基準

評価項目	割合
Report	100%

その他

2016年度

Introduction to Polymer Physics (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	後期	科目	大学間連携 (九工大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Sakurai K.						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	What is the Polymer	Lecture	Sakurai K.	Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance
2	Single Chain Conformations	Lecture	Sakurai K.	
3	Configurations of Polymers	Lecture	Sakurai K.	
4	Conformations of Polymers	Lecture	Sakurai K.	
5	Crystalline State	Lecture	Sakurai K.	
6	Primary Crystallization	Lecture	Sakurai K.	
7	Secondary Crystallization	Lecture	Sakurai K.	
8	Rubber Elasticity	Lecture	Sakurai K.	
9	Viscoelasticity	Lecture	Sakurai K.	
10	Dielectric Property	Lecture	Sakurai K.	
11	Interfacial Property	Lecture	Sakurai K.	
12	Polymer and Scattering I 【Colloid】	Lecture	Sakurai K.	
13	Polymer and Scattering II 【Light scattering method】	Lecture	Sakurai K.	
14	Polymer and Scattering III 【Molecular weight】	Lecture	Sakurai K.	
15	Summary	Lecture	Sakurai K.	

2016年度

Biomaterials (Biomaterials)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	前期	科目	大学間連携 (九工大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Nakazawa K.						
担当教員	〔非常勤講師〕中澤 浩二						

授業の概要

【Language】 Official language for this subject : Japanese unless specified.

Biomaterial is any substance (other than drugs) or combination of substances synthetic and natural in origin, which can be used for any period of time, as a whole or as a system which treats, augments, or replaces any tissue, organ, or function of the body. In this lecture, we discuss the biomaterials.

学生の到達目標

テキスト

The materials are hand out by printed matters.
出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
Active participation to the class	30%
Report	70%

その他

This lecture supports a student studying the field of animal cell culture, tissue engineering, and DDS.

2016年度

Biomaterials (Biomaterials)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	前期	科目	大学間連携 (九工大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Nakazawa K.						
担当教員	〔非常勤講師〕中澤 浩二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	What are biomaterials ?	Lecture	Nakazawa K.	Good preparations for classes and reviews after classes will enhance your performance.
2	Necessary conditions of biomaterials	Lecture	Nakazawa K.	
3	Biocompatibility	Lecture	Nakazawa K.	
4	Foreign matter reactions	Lecture	Nakazawa K.	
5	Biomaterials and biological reactions	Lecture	Nakazawa K.	
6	Surface design of biomaterials	Lecture	Nakazawa K.	
7	Safety testing	Lecture	Nakazawa K.	
8	Metals	Lecture	Nakazawa K.	
9	Ceramics	Lecture	Nakazawa K.	
10	Polymers	Lecture	Nakazawa K.	
11	Composites	Lecture	Nakazawa K.	
12	Presentation and Discussion 1	Lecture	Nakazawa K.	
13	Presentation and Discussion 2	Lecture	Nakazawa K.	
14	Discussion	Lecture	Nakazawa K.	
15	Summary	Lecture	Nakazawa K.	

2016年度

Life and Medical Ethics (Life and Medical Ethics)

開講年次	1 grade	期区分	前期	科目	basic	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	S Akifusa						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、秋房 住郎						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on theory and practice of ethical issue about human and animal experiment, clinical research and etiological study

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe ethical issue on life science research;
- (2) describe ethical issue on clinical research;
- (3) cultivate sense of medical ethics;
- (4) describe ethical issue on dental hygienist;
- (5) understand practice standard stipulated in the law for clinical study

テキスト

出) 著)

参考書

Reference Book is edited in Japanese.

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on No. 1 to 6 lecture	60%
practice assignments of No. 7 and 8	40%

その他

2016年度

Life and Medical Ethics (Life and Medical Ethics)

開講年次	1 grade	期区分	前期	科目	basic	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	S Akifusa						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Basic knowledge and behavior on medical ethics	Lecture	Hidaka	after-action report
2	Animal welfare and animal rights	Lecture	Inoue	after-action report
3	Ethical issue for clinical research	Lecture	Hikiji	after-action report
4	Laws and guidelines for etiological and clinical research	Lecture	Hidaka	after-action report
5	Ethical issue for clinical and healthcare activity by dental hygienist	Lecture	Nakamichi	after-action report
6	Ethical theory on medicine, healthcare and welfare	Lecture	Akifusa	after-action report
7	Practice of application for ethical review in Kyushu Dental University (1)	Practice	Hidaka, Inoue, Hikiji, Nakamichi , Akifusa	practice assignment
8	Practice of application for ethical review in Kyushu Dental University (2)	Practice	Hidaka, Inoue, Hikiji, Nakamichi , Akifusa	practice assignment

2016年度

Advanced Oral Health Sciences (Advanced Oral Health Sciences)

開講年次	1 grade	期区分	前期	科目	Basic Subject	単位数	2
授業方法	講義	時間数	16hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	S Akifusa						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、久保田 浩三、秋房 住郎						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on recent evidences of oral health sciences by omnibus form.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe theory and practice of strategy for prevention of infection in dental practice;
- (2) describe recent diagnostic and therapeutic findings on congenital disorder, traumatic injury, and tumor in oral and maxillofacial area;
- (3) describe national guidelines for management or provision of medical records/information, and medical advertising;
- (4) describe theory and practice for oral health science;
- (5) describe relationship between oral diseases and systemic health with the object of immunology;
- (6) describe general health on the basis of knowledge of ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health);
- (7) describe relationship between periodontal disease and systemic disorders, and describe periodontal therapy for persons with systemic illness;

テキスト

出) 著)

参考書

Reference Books are edited in Japanese.
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report	90%
examination	10%

その他

2016年度

Advanced Oral Health Sciences (Advanced Oral Health Sciences)

開講年次	1 grade	期区分	前期	科目	Basic Subject	単位数	2
授業方法	講義	時間数	16hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	S Akifusa						
担当教員	日高 勝美、井上 博雅、引地 尚子、中道 敦子、久保田 浩三、秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Management or provision of medical records/information 1	Lecture	Hidaka	after-action report
2	Management or provision of medical records/information 2	Lecture	Hidaka	after-action report
3	Management or provision of medical records/information 3	Lecture	Hidaka	after-action report
4	Principles of infection control in dental health-care settings 1	Lecture	Inoue	after-action report
5	Principles of infection control in dental health-care settings 2	Lecture	Inoue	after-action report
6	Oral and maxillofacial diseases 1	Lecture	Hikiji	after-action report
7	Oral and maxillofacial diseases 2	Lecture	Hikiji	after-action report
8	Oral and maxillofacial diseases 3	Lecture	Hikiji	after-action report
9	Describe theory and practice for oral health science 1	Lecture	Nakamichi	after-action report
10	Describe theory and practice for oral health science 2	Lecture	Nakamichi	after-action report
11	Relationship between dental disease and systemic health based on immune function	Lecture	Akifusa	after-action report
12	Relationship between social capital and oral health	Lecture	Akifusa	after-action report
13	Concept of health and ICF	Lecture	Akifusa	after-action report
14	Relationship between periodontal disease and systemic disorders	Lecture	Kubota	after-action report
15	Relationship between periodontal disease and systemic disorders on periodontal treatment	Lecture	Kubota	after-action report

2016年度

Advanced Oral Health and Welfare Promotion (Advanced Oral Health and Welfare Promotion)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on actual activity of community health and welfare promotion. Additionally, to lecture theory and practice of collaboration of medical, health, and welfare section in oral healthcare

学生の到達目標

- The ability to: (1) describe activities community health and welfare activities;
(2) describe collaboration of medical, health, and welfare section in oral healthcare;
(3) learn methods to drive the collaboration of medical, health, and welfare section in oral healthcare;
(4) learn knowledge of methods to practice oral HP/WP in community

テキスト

地方分権時代の健康政策実践書 みんなで楽しくできるヘルスプロモーション (Japanese)
出)ライフサイエンスセンター 著)石井 敏弘、中村 譲治、その他

参考書

国民衛生の動向(Japanese)
出) 著)厚生労働統計協会編集

不平等が健康を損なう(Japanese)
出)日本評論社 著)イチロー カワチ,ブルース・P. ケネディ

ソーシャル・キャピタルと健康(Japanese)
出)日本評論社 著)イチロー カワチ

各種行政資料(歯科保健に関する事例レポートなど)(Japanese)
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on all lectures	80%
practice assignments of No. 5 and 7	20%

その他

2016年度

Advanced Oral Health and Welfare Promotion (Advanced Oral Health and Welfare Promotion)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Theory of health promotion	Lecture	Akifusa	after-action report
2	Welfare activity with oral healthcare	Lecture	Akifusa	after-action report
3	Theory of oral health promotion	Lecture	Akifusa	after-action report
4	Practice of oral health promotion (1)	Practice	Akifusa	after-action report
5	Practice of oral health promotion (2)	Practice	Akifusa	after-action report
6	case study on community oral HP/WP (1)	Practice	Akifusa	after-action report
7	case study on community oral HP/WP (2)	Practice	Akifusa	after-action report
8	case study on community oral HP/WP (3)	Practice	Akifusa	after-action report
9	case study on community oral HP/WP (4)	Practice	Akifusa	after-action report
10	strategy for community oral HP/WP (1)	Practice	Akifusa	after-action report
11	strategy for community oral HP/WP (2)	Practice	Akifusa	after-action report
12	strategy for community oral HP/WP (3)	Practice	Akifusa	after-action report
13	strategy for community oral HP/WP (4)	Practice	Akifusa	after-action report
14	approach to community oral HP/WP	Practice	Akifusa	after-action report
15	Summary	Practice	Akifusa	after-action report

2016年度

Advanced Study of Oral Medicine (Advanced Study of Oral Medicine)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Major Subject optional	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

This course focuses on the latest findings in the treatment of oral diseases.

学生の到達目標

1. Students will understand oral diseases.
2. Students will understand the dental hygiene process of care for oral diseases.
3. Students will understand the risk assessment for oral diseases.
4. Students will explain the treatment of oral diseases from the view point of the dental hygienists.

テキスト

出) 著)

参考書

口腔内科学 (Japanese)
出)飛鳥出版室

著)尾崎 登喜雄

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after action reports on No.1-12 lectures	90%
practice assignments of No.14 and 15	10%

その他

2016年度

Advanced Study of Oral Medicine (Advanced Study of Oral Medicine)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Major Subject optional	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Common oral diseases (Part 1)	Lecture	Hikiji	-
2	Common oral diseases (Part 2)	Lecture	Hikiji	-
3	Common oral diseases (Part 3)	Lecture	Hikiji	-
4	Oral diseases related to systemic diseases (Part 1)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 1-3)
5	Oral diseases related to systemic diseases (Part 2)	Lecture	Hikiji	-
6	Oral diseases related to systemic diseases (Part 3)	Lecture	Hikiji	-
7	Psychosomatic medicine and oral diseases (Part 1)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 4-6)
8	Psychosomatic medicine and oral diseases (Part 2)	Lecture	Hikiji	-
9	Psychosomatic medicine and oral diseases (Part 3)	Lecture	Hikiji	-
10	Age and oral diseases (Part 1)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 7-9)
11	Age and oral diseases (Part 2)	Lecture	Hikiji	-
12	Age and oral diseases (Part 3)	Lecture	Hikiji	-
13	Dental hygiene process of care and oral diseases (Part 1)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 10-12)
14	Dental hygiene process of care and oral diseases (Part 2)	Lecture	Hikiji	Practice assignment Submission
15	Dental hygiene process of care and oral diseases (Part 3)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 13-15) by the appointed day Practice assignment Submission

2016年度

Advanced Cellular Molecular Biology (Advanced Cellular Molecular Biology)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子、秋房 住郎						

授業の概要

The aim of course is;

[Prof Hikiji]

to learn the latest findings in hard tissue.

[Prof Akifusa]

to overview of recent studies on immune function

学生の到達目標

(1) To describe outline cellular and molecular biology, such as cellular structure, subcellular organelle, genome, synthesis of protein, intracellular signal transduction.

(2) To learn basic knowledge for cellular and molecular biological experiments

[Prof Hikiji] To understand hard tissue.

[Prof Akifusa] To learn basic and applied knowledge on immune study

テキスト

出)

著)

参考書

The CELL

出)Garland Science

著)Burce Alberts, Julian Lewis,
Martin Raff, et

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on No. 1 to 6 lecture	60%
practice assignments of No. 7 and 8	40%

その他

2016年度

Advanced Cellular Molecular Biology (Advanced Cellular Molecular Biology)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子、秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	outline of cellular and molecular biology (1) cell and genome	Lecture	Hikiji, Akifusa	preparation of
2	outline of cellular and molecular biology (2) cytoskeleton and proteins	Lecture	Hikiji, Akifusa	after-action report
3	outline of cellular and molecular biology (3) intracellular signal transduction	Lecture	Hikiji, Akifusa	after-action report
4	outline of cellular and molecular biology (4) cell cycle and apoptosis	Lecture	Hikiji, Akifusa	after-action report
5	outline of cellular and molecular biology (5) immune system	Lecture	Hikiji, Akifusa	after-action report
6	Function of hard tissue	Lecture	Hikiji	after-action report
7	Differentiation of hard tissue	Lecture	Hikiji	after-action report
8	Metabolism of hard tissue	Lecture	Hikiji	after-action report
9	Diseases of hard tissue	Lecture	Hikiji	after-action report
10	Methods used in the research on hard tissue	Lecture	Hikiji	after-action report
11	function of immune tissue and cell	Lecture	Akifusa	after-action report
12	overview of innate immune system	Lecture	Akifusa	after-action report
13	overview of acquired immune system	Lecture	Akifusa	after-action report
14	immunity and diseases	Lecture	Akifusa	after-action report
15	overview of recent immune study	Lecture	Akifusa	after-action report

2016年度

Advanced Neural Eating (Advanced Neural Eating)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Specialized	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Yoshino K						
担当教員	吉野 賢一						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on the role of main area in human brain involved in the visual information, working memory and feeling of hunger for feeding behavior.

学生の到達目標

The ability to describe:

- (1) the difference of feeding behavior between human and animal based on neural science;
- (2) the higher brain function regarding the feeding behavior;
- (3) the effects of oral function on general physical function by the nervous system;

テキスト

出) 著)

参考書

Principles of Neural Science, Fifth Edition

出) 著)Kandel ER, Schwartz JH, Jessell
TM Siegelbaum SA, Hudspeth AJ.

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on No. 1 to 14 lecture	84%
after-action report on No. 15 lecture	16%

その他

2016年度

Advanced Neural Eating (Advanced Neural Eating)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Specialized	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Yoshino K						
担当教員	吉野 賢一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Feeding behavior in human and animal	Lecture	Yoshino	after-action report
2	Cognitive stage: input of visual information	Lecture	Yoshino	after-action report
3	Cognitive stage: processing of visual information	Lecture	Yoshino	after-action report
4	Cognitive stage: integration of visual information	Lecture	Yoshino	after-action report
5	Cognitive stage: cognitive function for visual target	Lecture	Yoshino	after-action report
6	Cognitive stage: selection of action	Lecture	Yoshino	after-action report
7	Cognitive stage: preparatory for movement	Lecture	Yoshino	after-action report
8	Cognitive stage: initiation and control of movement	Lecture	Yoshino	after-action report
9	Preparatory stage: initiation of jaw-movement	Lecture	Yoshino	after-action report
10	Preparatory stage: control of jaw-movement	Lecture	Yoshino	after-action report
11	Preparatory stage: processing of information	Lecture	Yoshino	after-action report
12	Preparatory stage: integration of information	Lecture	Yoshino	after-action report
13	Lingual stage	Lecture	Yoshino	after-action report
14	Pharyngeal stage	Lecture	Yoshino	after-action report
15	Esophageal stage	Lecture	Yoshino	after-action report

2016年度

Advanced Medical Policy (Advanced Medical Policy)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Elective Subject 1	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	K Hidaka						
担当教員	日高 勝美、中道 敦子						

授業の概要

The purpose of this course is to learn medical and health promotion policies, health insurance policies carried out by Japanese government, and concept of health sociology.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe overview of medical and health promotion policies, and social insurance policies;
- (2) understand Medical Care Act and related policies;
- (3) understand policies related to medical professions;
- (4) understand laws and policies related to health promotion;
- (5) understand Health Insurance Act and related policies;
- (6) describe concept of health sociology;
- (7) describe approach methods in health sociology;
- (8) describe research methods in health sociology;
- (9) describe genealogy of health and medical sociology;
- (10) describe objects and domains in health sociology;
- (11) describe concept of health promotion;
- (12) understand roles of dental professions in health sociology;

テキスト

出) 著)

参考書

Reference Books are edited in Japanese.

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action reports	50%
presentation	50%

その他

2016年度

Advanced Medical Policy (Advanced Medical Policy)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Elective Subject 1	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	K Hidaka						
担当教員	日高 勝美、中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Overview of medical policies	Lecture	Hidaka	-
2	Policies related to Medical Care Act 1	Lecture	Hidaka	-
3	Policies related to Medical Care Act 2	Lecture	Hidaka	-
4	Policies related to medical professions	Lecture	Hidaka	after-action report
5	Policies related to Health Promotion Act	Lecture	Hidaka	-
6	Policies related to Community Health Act	Lecture	Hidaka	-
7	Overview of social insurance policies	Lecture	Hidaka	-
8	Policies related to Health Insurance Act	Lecture	Hidaka	after-action report
9	Theory of health sociology	Lecture	Nakamichi	after-action report
10	Approach methods in health sociology	Lecture	Nakamichi	after-action report
11	Research methods in health sociology	Lecture	Nakamichi	after-action report
12	Genealogy of health and medical sociology	Lecture	Nakamichi	after-action report
13	Objects and domains in health sociology	Lecture	Nakamichi	after-action report
14	Health promotion	Lecture	Nakamichi	after-action report
15	Conclusion	Lecture	Nakamichi	after-action report

2016年度

Advanced Study of Oral Science (Advanced Study of Oral Science)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Major Subject optional	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

This course focuses on the basic research for oral tissue.

学生の到達目標

1. Students will understand oral tissue.
2. Students will understand the basic research on oral tissue.
3. Students will understand the new direction of the research on oral tissue.

テキスト

口腔科学 Japanese
出)朝倉書店

著)戸塚康則他

硬組織研究ハンドブック Japanese
出)MDU出版会

著)松本歯科大学大学院硬組織研究グループ

参考書

口と歯の事典 Japanese
出)朝倉書店

著)高戸毅他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after action reports	100%

その他

2016年度

Advanced Study of Oral Science (Advanced Study of Oral Science)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Major Subject optional	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Outline of basic research on oral tissue	Lecture	Hikiji	-
2	Morphological analysis of oral tissue Part 1 (Properties of hard tissue)	Lecture	Hikiji	-
3	Morphological analysis of oral tissue Part 1 (Properties of soft tissue)	Lecture	Hikiji	-
4	Morphological analysis of oral tissue Part 3 (Intensive reading of documents)	Intensive reading of medical documents	Hikiji	-
5	Pharmacological analysis of oral tissue Part 1 (Efficacy of medication)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 1-4)
6	Pharmacological analysis of oral tissue Part 2 (Intensive reading of document)	Intensive reading of medical documents	Hikiji	-
7	Biochemical analysis of oral tissue Part 1 (Receptors)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 5-6)
8	Biochemical analysis of oral tissue Part 2 (Gene expression)	Lecture	Hikiji	-
9	Biochemical analysis of oral tissue Part 3 (Protein)	Lecture	Hikiji	-
10	Biochemical analysis of oral tissue Part 4 (Signal transduction system)	Lecture	Hikiji	-
11	Biochemical analysis of oral tissue Part 4 (Intensive reading of documents)	Intensive reading of medical documents	Hikiji	-
12	Physiological analysis of oral tissue Part 1 (Intracellular calcium signaling)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 7-11)
13	Physiological analysis of oral tissue Part 2 (Intensive reading of documents)	Intensive reading of medical documents	Hikiji	-
14	Immunological analysis of oral tissue Part 1 (Osteoimmunology and mucosal immunology)	Lecture	Hikiji	After action report Submission (Lecture 12-13)
15	Immunological analysis of oral tissue Part 2 (Intensive reading of documents)	Intensive reading of medical documents	Hikiji	After action report Submission (Lecture 14-15) by the appointed day

2016年度

Advanced Oral Infection and Immunity (Advanced Oral Infection and Immunity)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Compulsory	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture basic knowledge in the area of oral infectious disease and host immunological responses to oral infection

学生の到達目標

The ability to: (1) describe virulence factors;
(2) describe natural immunity and acquired immunity;
(3) describe messengers and transcriptional factors involved in infections;
(4) describe cell cycle and apoptotic cell death;
(5) describe mucosal immunity;

テキスト

出) 著)

参考書

口腔微生物学・免疫学 第3版(Japanese)
出)医歯薬出版 著)浜田茂幸

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on No. 1 to 15 lecture	90%
oral examination	10%

その他

2016年度

Advanced Oral Infection and Immunity (Advanced Oral Infection and Immunity)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	Compulsory	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Microbial infections	Lecture	Inoue	after-action report
2	Bacterial virulence factors	Lecture	Inoue	after-action report
3	Outline of natural immunity	Lecture	Inoue	after-action report
4	Antimicrobial factors in oral cavity	Lecture	Inoue	after-action report
5	Detection mechanism of microbial invasion in natural immunity	Lecture	Inoue	after-action report
6	Host response to microbial invasion in early step	Lecture	Inoue	after-action report
7	Cellular response to microbial invasion in natural immunity	Lecture	Inoue	after-action report
8	Outline of acquired immunity	Lecture	Inoue	after-action report
9	Molecular biology in acquired immunity	Lecture	Inoue	after-action report
10	Infection and apoptosis	Lecture	Inoue	after-action report
11	Oral mucosal immunity 1	Lecture	Inoue	after-action report
12	Oral mucosal immunity 2	Lecture	Inoue	after-action report
13	Oral mycology 1	Lecture	Inoue	after-action report
14	Oral mycology 2	Lecture	Inoue	after-action report
15	Oral mycology 3	Lecture	Inoue	after-action report

2016年度

Advanced Functional Support for Elderly persons (Advanced Functional Support for Elderly persons)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	M Izumi						
担当教員	泉 繭依						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on role of dental hygienist in support for life and extension of the healthy life expectancy in older individuals.

学生の到達目標

The ability to: (1) describe activities of health promotion in super aging society;
(2) describe training method for oral cavity marginal and related muscle;
collaboration of medical, health, and welfare section in oral healthcare;
(3) describe methods of training/evolution for swallowing function;
(4) draft oral care plan corresponding to individual case:

テキスト

References documents, material are edited in Japanese
出) 著)

参考書

よくわかる摂食・嚥下のメカニズム(Japanese)
出)医歯薬出版 著)山田好秋

摂食・嚥下リハビリテーション 第3版(Japanese)
出)医歯薬出版 著)藤栄一・向井美恵監修

疾患別に診る嚥下障害(Japanese)
出)医歯薬出版 著)藤島一郎監修

5疾病の口腔ケア(Japanese)
出)医歯薬出版 著)藤本篤士

関係学会雑誌(Japanese)
出) 著)日本摂食・嚥下リハビリテーション学会等

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report	80%
practice	20%

その他

2016年度

Advanced Functional Support for Elderly persons (Advanced Functional Support for Elderly persons)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	M Izumi						
担当教員	泉 繭依						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Present issues of super aging society	Lecture	Izumi	after-action report
2	Home medical care	Lecture	Izumi	after-action report
3	Medical cooperation system	Lecture	Izumi	after-action report
4	Nutritional rehabilitation	Lecture	Izumi	after-action report
5	Laboratory values	Lecture	Izumi	after-action report
6	Relationship between oral and nutrition	Lecture	Izumi	after-action report
7	Basic dental hygiene for elderly persons needing long-term care	Lecture	Izumi	after-action report
8	Videofluoroscopic examination	Lecture	Izumi	after-action report
9	Video endoscopy	Lecture	Izumi	after-action report
10	Strength evaluation methods of oral cavity marginal and related muscle (1)	Lecture	Izumi	after-action report
11	Strength evaluation methods of oral cavity marginal and related muscle (2)	Lecture	Izumi	after-action report
12	Training methods of oral cavity marginal and related muscle (1)	Lecture	Izumi	after-action report
13	Training methods of oral cavity marginal and related muscle (2)	Lecture	Izumi	after-action report
14	Case study (1)	Lecture	Izumi	after-action report
15	Case study (2)	Practice	Izumi	after-action report

2016年度

Advanced Professional Oral Health Care (Advanced Professional Oral Health Care)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Nakamichi A.						
担当教員	中道 敦子						

授業の概要

【Language】Japanese

The purpose of this course is to learn the knowledge and the techniques necessary for the perioperative oral function management, to practice the professional oral care based on scientific basis, and the dental hygiene process to some case studies.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe the overview of the perioperative oral function management;
- (2) describe the oral management for the symptoms of cancer treatments;
- (3) describe the oral management for hear-organ-transplant surgery;
- (4) describe the systematic oral examination methods for professional oral care;
- (5) describe the professional oral care to the perioperative patients by means of the dental hygiene process;
- (6) describe the cooperation with other professions.

テキスト

これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル(in Japanese)
出)永末書店 著)別所和久 監修

歯科衛生ケアプロセス実践ガイド(in Japanese)
出)医歯薬出版 著)佐藤陽子 齋藤淳 編著

参考書

周術期口腔機能管理の基本がわかる本(in Japanese)
出)クインテッセンス出版 著)梅田正博 編著

5疾病の口腔ケア(in Japanese)
出)医歯薬出版 著)藤本篤士編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action reports (Each report scores 10 pt.)	100%

その他

2016年度

Advanced Professional Oral Health Care (Advanced Professional Oral Health Care)

開講年次	1 grade	期区分	通年	科目	special subject I	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Nakamichi A.						
担当教員	中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Approach to the perioperative oral function management for team healthcare	Lecture	Nakamichi A.	
2	Cancer treatments and oral managements 1. Perioperative period	Lecture	Nakamichi A.	
3	Cancer treatments and oral managements 2. Aspiration pneumonitis, VAP	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
4	Cancer treatments and oral managements 3. Chemotherapy	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
5	Cancer treatments and oral managements 4. Radiation therapy	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
6	Cancer treatments and oral managements 5. Palliative therapy	Lecture	Nakamichi A.	
7	Heart surgery and oral managements	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
8	Organ transplant surgery and oral managements	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
9	Systematic oral observation method for professional oral care	Lecture	Nakamichi A.	
10	Dental hygiene process: Case study 1. Comprehension for subjects (Diseases, methods of treatments)	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
11	Dental hygiene process: Case study 2. Dental hygiene assessments	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
12	Dental hygiene process: Case study 3. Dental hygiene diagnoses	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
13	Dental hygiene process: Case study 1. Dental hygiene planning	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
14	Dental hygiene process: Case study 1. Dental hygiene intervention and assessment	Lecture	Nakamichi A.	after-action report
15	Dental hygiene process: Case study 1. Reviews and Summarization	Lecture	Nakamichi A.	

2016年度

Seminar of Oral Medicine (Seminar of Oral Medicine)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年前期	科目	Major Subject optional	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

This course focuses on the learning of the skills engaged research on care for oral diseases.

学生の到達目標

1. Students will understand the dental hygiene process in care for oral diseases.
2. Students will understand the practical techniques of care for oral diseases.
3. Students will understand the risk assessment of care for oral diseases.

テキスト

出) 著)

参考書

口腔内科学 (Japanese)
出) 飛鳥出版室

著) 尾崎 登喜雄

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after action reports on No.1-15 practices	100%

その他

2016年度

Seminar of Oral Medicine (Seminar of Oral Medicine)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Major Subject optional	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	Assessment of oral diseases Part 1	Practice	Hikiji	-
3,4	Assessment of oral diseases Part 2	Practice	Hikiji	-
5,6	Assessment of oral diseases Part 3	Practice	Hikiji	-
7,8	Dental hygiene diagnosis in care for oral diseases Part 1	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 1-3)
9,10	Dental hygiene diagnosis in care for oral diseases Part 2	Practice	Hikiji	-
11,12	Dental hygiene diagnosis in care for oral diseases Part 3	Practice	Hikiji	-
13,14	Planning of care for oral diseases Part 1	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 4-6)
15,16	Planning of care for oral diseases Part 2	Practice	Hikiji	-
17,18	Planning of care for oral diseases Part 3	Practice	Hikiji	-
19,20	Care management of oral diseases Part 1	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 7-9)
21,22	Care management of oral diseases Part 2	Practice	Hikiji	-
23,24	Care management of oral diseases Part 3	Practice	Hikiji	-
25,26	Evaluation of the care practice for oral diseases Part 1	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 10-12)
27,28	Evaluation of the care practice for oral diseases Part 2	Practice	Hikiji	-
29,30	Evaluation of the care practice for oral diseases Part 3	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 13-15) by the appointed day

2016年度

Seminar of Cellular Molecular Biology (Seminar of Cellular Molecular Biology)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Compulsory	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅、引地 尚子、秋房 住郎、辻澤 利行						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on theory, application and experimental methods used in the area of cell and molecular biology

学生の到達目標

The ability to: (1) describe experimental principal and procedures in cell culture;
(2) describe detection method of cell differentiation;
(3) describe detection method of cell activation;
(4) describe detection method of apoptotic cell death;
(5) describe method of isolation and analysis of protein;
(6) describe method of DNA analysis;

テキスト

出) 著)

参考書

バイオ実験イラストレイテッド(細胞工学別冊 目で見る実験ノートシリーズ)

出)秀潤社 著)

1 分子生物学実験の基礎

出) 著)

2 遺伝子解析の基礎

出) 著)

3+ 本当にふえるPCR

出) 著)

5 タンパクなんてこわくない

出) 著)

6 すくすく育て細胞培養

出) 著)

・マウス・ラット実験ノート はじめての取り扱い、飼育法から投与、解剖、分子生物学的手法まで(無敵のバイオテクニカルシリーズ)

出)羊土社 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on No. 3 to 30 lectures	100%

その他

2016年度

Seminar of Cellular Molecular Biology (Seminar of Cellular Molecular Biology)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Compulsory	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅、引地 尚子、秋房 住郎、辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Cell culture #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
2	Cell culture #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
3	Cell culture #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
4	Handling of experimental animal #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
5	Handling of experimental animal #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
6	Handling of experimental animal #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
7	Cell preparation from tissue #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
8	Cell preparation from tissue #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
9	Cell preparation from tissue #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
10	Cell differentiation #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
11	Cell differentiation #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
12	Cell differentiation #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
13	Cell activation #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
14	Cell activation #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
15	Cell activation #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
16	Apoptosis #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
17	Apoptosis #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
18	Apoptosis #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
19	DNA analysis by PCR #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-

2016年度

Seminar of Cellular Molecular Biology (Seminar of Cellular Molecular Biology)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Compulsory	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅、引地 尚子、秋房 住郎、辻澤 利行						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
20	DNA analysis by PCR #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
21	DNA analysis by PCR #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
22	Isolation and quantification of protein #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
23	Isolation and quantification of protein #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
24	Isolation and quantification of protein #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
25	Protein analysis by SDS-PAGE #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
26	Protein analysis by SDS-PAGE #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
27	Protein analysis by SDS-PAGE #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report
28	Protein analysis by Western-blotting #1	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
29	Protein analysis by Western-blotting #2	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	-
30	Protein analysis by Western-blotting #3	Lecture and Practice	Inoue, Hikiji, Akifusa, Tsujisawa	after-action report

2016年度

Seminar of Neural Eating (Seminar of Neural Eating)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Specialized	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Yoshino K						
担当教員	吉野 賢一						

授業の概要

The purpose of this course is to analyze main area in human brain involved in the visual information, working memory for feeding behavior by functional near-infrared spectroscopy.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe the principles of functional near-infrared imaging;
- (2) measure the brain activities by functional near-infrared imaging device;
- (3) prepare the visually guided task;
- (4) collect and analyze data;
- (5) describe the brain function involved in orofacial movement

テキスト

出) 著)

参考書

Principles of Neural Science, Fifth Edition

出)

著)Kandel ER, Schwartz JH, Jessell
TM Siegelbaum SA, Hudspeth AJ.

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on No. 1 to 29 lecture	87%
after-action report on No. 30 lecture	13%

その他

2016年度

Seminar of Neural Eating (Seminar of Neural Eating)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Specialized	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Yoshino K						
担当教員	吉野 賢一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Principle of functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
2	Principle of functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
3	Brain activities by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
4	Brain activities by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
5	Visual guided tongue protrusion task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
6	Visual guided tongue protrusion task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
7	Visual guided tongue protrusion task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
8	Visual guided tongue protrusion task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
9	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
10	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
11	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
12	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
13	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
14	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
15	Data analysis	Practice	Yoshino	after-action report
16	Data analysis	Practice	Yoshino	after-action report
17	Visual guided jaw movement task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
18	Visual guided jaw movement task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
19	Visual guided jaw movement task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
20	Visual guided jaw movement task and brain function	Practice	Yoshino	after-action report
21	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
22	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
23	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
24	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
25	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
26	Data collection by functional near-infrared imaging	Practice	Yoshino	after-action report
27	Data analysis	Practice	Yoshino	after-action report
28	Data analysis	Practice	Yoshino	after-action report

2016年度

Seminar of Neural Eating (Seminar of Neural Eating)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Specialized	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Yoshino K						
担当教員	吉野 賢一						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
29	Data analysis	Practice	Yoshino	after-action report
30	Data analysis	Practice	Yoshino	after-action report

2016年度

Seminar of Health and Medical Policies (Seminar of Health and Medical Policies)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Elective Subject 2	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	K Hidaka						
担当教員	日高 勝美						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on recent medical policies and health insurance policies, etc. carried out by Japanese central government and local governments.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe overview of social security system;
- (2) describe Medical Care Act and related policies;
- (3) describe Dental Hygienists Act and related policies;
- (4) describe Dental Practitioners Act, Dental Technicians Act and related policies;
- (5) describe Medical Practitioners Act, other Co-medical Professions Acts and related policies;
- (6) describe Community Health Act, Health Promotion Act, Maternal and Child Health Act, School Health and Safety Act, Industrial Safety and Health Act, Dental Health Promotion Act, Basic Act on Food Education and related policies;
- (7) describe Food Sanitation Act, Act on Pharmaceutical Affairs and Medical Devices and related policies;
- (8) describe Act on Prevention of Infectious Diseases, Preventive Vaccinations Act, Quarantine Act and related policies;
- (9) describe Health Insurance Act, Act on Assurance of Medical Care for Elderly People, Long-Term Care Insurance Act and related policies;

テキスト

出) _____ 著)

参考書

Reference Books are edited in Japanese.

出) _____ 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report	80%
oral examination	10%
presentation	10%

その他

2016年度

Seminar of Health and Medical Policies (Seminar of Health and Medical Policies)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Elective Subject 2	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	K Hidaka						
担当教員	日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Overview of social security system	Lecture	Hidaka	-
2	Medical Care Act 1	Lecture	Hidaka	-
3	Medical Care Act 2	Lecture	Hidaka	-
4	Policies related to Medical Care Act	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
5	Dental Hygienists Act 1	Lecture	Hidaka	-
6	Dental Hygienists Act 2	Lecture	Hidaka	-
7	Policies related to Dental Hygienists	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
8	Dental Practitioners Act	Lecture	Hidaka	-
9	Dental Technicians Act	Lecture	Hidaka	-
10	Policies related to Dental Practitioners and Dental Technicians	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
11	Act on Public Health Nurses, Midwives and Nurses	Lecture	Hidaka	-
12	Medical Practitioners Act, other Co-medical Professions Acts	Lecture	Hidaka	-
13	Policies related to Medical Practitioners and Co-medical Professions	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
14	Community Health Act	Lecture	Hidaka	-
15	Health Promotion Act, Dental Health Promotion Act	Lecture	Hidaka	-
16	Policies related to Community Health Act and Health Promotion Act, etc.	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
17	Maternal and Child Health Act	Lecture	Hidaka	-
18	School Health and Safety Act	Lecture	Hidaka	-
19	Policies related to Maternal and Child Health Act, School Health and Safety Act	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
20	Food Sanitation Act, Basic Act on Food Education	Lecture	Hidaka	-
21	Act on Pharmaceutical Affairs and Medical Devices, etc.	Lecture	Hidaka	-
22	Policies related to Food Sanitation Act, Act on Pharmaceutical Affairs and Medical Devices, etc.	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
23	Industrial Safety and Health Act	Lecture	Hidaka	-
24	Act on Prevention of Infectious Diseases, Preventive Vaccinations Act, Quarantine Act	Lecture	Hidaka	-
25	Policies related to Industrial Safety and Health Act, Act on Prevention of Infectious Diseases, etc.	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
26	Health Insurance Act, Act on Assurance of Medical Care for Elderly People	Lecture	Hidaka	-
27	Payment system for medical services	Lecture	Hidaka	-
28	Long-Term Care Insurance Act	Lecture	Hidaka	-

2016年度

Seminar of Health and Medical Policies (Seminar of Health and Medical Policies)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Elective Subject 2	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	K Hidaka						
担当教員	日高 勝美						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
29	Policies related to Health Insurance Act, Long-Term Care Insurance Act, etc.	Lecture, Practice	Hidaka	after-action report
30	Conclusion and Consideration	Practice	Hidaka	after-action report

2016年度

Seminar of Oral Science (Seminar of Oral Science)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年前期	科目	Major Subject optional	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

This course focuses on the learning of the skills engaged in basic research on oral tissue.

学生の到達目標

1. Students will understand the development of diseases in oral tissue.
2. Students will understand experimental methods for studying oral tissue.
3. Students will understand methods for literature search.
4. Students will understand methods for evaluating the results of research.

テキスト

硬組織研究ハンドブック(Japanese)
出)MDU出版会

著)松本歯科大学大学院硬組織研究グループ

参考書

Documents collected by students or instructors.
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after action reports on No.1-14 lectures practices	75%
after action reports on No.14-15 practices	25%

その他

2016年度

Seminar of Oral Science (Seminar of Oral Science)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年前期	科目	Major Subject optional	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	Outline of research methods for oral tissue.	Practice	Hikiji	-
3,4	Histological techniques Part 1 (Pathological examination)	Practice	Hikiji	-
5,6	Histological techniques Part 2 (Evaluation methods)	Practice	Hikiji	-
7,8	Pharmacological techniques Part 1 (Handling of experimental animals)	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 1-3)
9,10	Pharmacological techniques Part 2 (Drug delivery methods)	Practice	Hikiji	-
11,12	Pharmacological techniques Part 3 (Evaluation methods)	Practice	Hikiji	-
13,14	Biochemical techniques Part 1 (Evaluation methods of gene expression)	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice4-6)
15,16	Biochemical techniques Part 2 (Evaluation methods of protein expression)	Practice	Hikiji	-
17,18	Biochemical techniques Part 3 (Evaluation methods of biological effects)	Practice	Hikiji	-
19,20	Physiological techniques Part 1 (Measurement of intracellular calcium signaling)	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 7-9)
21,22	Physiological techniques Part 2 (Evaluation methods)	Practice	Hikiji	-
23,24	Immunological techniques Part 1 (Handling of immune cells)	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 10-11)
25,26	Immunological techniques Part 2 (Evaluation of inflammation)	Practice	Hikiji	-
27,28	Literature search and evaluation Part 1	Practice	Hikiji	After action report Submission (Practice 12-13)
29,30	Literature search and evaluation Part 2	Practice	Hikiji	1 After action report Submission (Practice 14-15) by the appointed day

2016年度

Seminar of Oral Infection and Immunity (Seminar of Oral Infection and Immunity)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Compulsory	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on basic skill for the study of infectious microbes and host responses to oral infection

学生の到達目標

The ability to: (1) describe experimental procedures in microbial study;
(2) describe biosafety level of pathogen;
(3) describe experimental procedure in immunological study;
(4) describe experimental procedure in oral infectious disease;

テキスト

出) 著)

参考書

戸田新細菌学34版(Japanese)
出)南山堂出版

著)吉田眞一、柳雄介、吉開泰信

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on No. 1 to 30 lecture	100%

その他

2016年度

Seminar of Oral Infection and Immunity (Seminar of Oral Infection and Immunity)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Compulsory	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Microbial observation	Practice	Inoue	after-action report
2	Bacterial staining	Practice	Inoue	after-action report
3	Bacterial culture	Practice	Inoue	after-action report
4	Culture media	Practice	Inoue	after-action report
5	Bacterial resistance	Practice	Inoue	after-action report
6	Bacterial resistance to environmental factors	Practice	Inoue	after-action report
7	Bacterial resistance to drug	Practice	Inoue	after-action report
8	Quantification of bacteria	Practice	Inoue	after-action report
9	Identification of bacteria	Practice	Inoue	after-action report
10	Fungal test	Practice	Inoue	after-action report
11	Biosafety level of pathogen	Practice	Inoue	after-action report
12	Immunization	Practice	Inoue	after-action report
13	Preparation of antibody	Practice	Inoue	after-action report
14	Immunoprecipitation and agglutination	Practice	Inoue	after-action report
15	Labeled antibody	Practice	Inoue	after-action report
16	ELISA and Western blotting	Practice	Inoue	after-action report
17	Monoclonal antibody	Practice	Inoue	after-action report
18	Preparation of monoclonal antibody	Practice	Inoue	after-action report
19	Preparation of lymphocytes	Practice	Inoue	after-action report
20	Detection of lymphocytes	Practice	Inoue	after-action report
21	Quantification of B cell by ELISPOT	Practice	Inoue	after-action report
22	Quantification of T cell by antigen specific proliferation	Practice	Inoue	after-action report
23	Physiological activity of cytokines	Practice	Inoue	after-action report
24	Quantification of cytokines	Practice	Inoue	after-action report
25	Planning of animal experiments	Practice	Inoue	after-action report
26	Microbial inoculation to animal	Practice	Inoue	after-action report
27	Experimental allergy	Practice	Inoue	after-action report
28	Immunological assay using genetically modified animal	Practice	Inoue	after-action report

2016年度

Seminar of Oral Infection and Immunity (Seminar of Oral Infection and Immunity)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	Compulsory	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
29	Properties of Candida albicans	Practice	Inoue	after-action report
30	Infection by C. albicans	Practice	Inoue	after-action report

2016年度

Seminar of Functional Support for Elderly persons (Seminar of Functional Support for Elderly persons)

開講年次	1-2grades	期区分	1年後期～2年前期	科目	special subject II	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	M Izumi						
担当教員	泉 繭依						

授業の概要

The purpose of this course is to lecture on practice to clarify the medical problems, to draft plans, and to operate oral care for elderly persons with disabilities in oral functions.

学生の到達目標

The ability to: (1) describe theories on rehabilitation of oral function, and practice the rehabilitation
(2) describe oral dysfunction, and practice the oral functional evaluation;
(3) practice the oral functional rehabilitation according to each stage
(4) describe medical team approach

テキスト

References documents, material are edited in Japanese
出) 著)

参考書

よくわかる摂食・嚥下のメカニズム(Japanese)
出)医歯薬出版 著)山田好秋

摂食・嚥下リハビリテーション 第3版(Japanese)
出)医歯薬出版 著)才藤栄一・向井美恵

疾患別に診る嚥下障害(Japanese)
出)医歯薬出版 著)藤島一郎

5疾病の口腔ケア(Japanese)
出)医歯薬出版 著)藤本篤士

関係学会雑誌(Japanese)
出) 著)日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action report on all lectures	80%
practice assignments of No. 5 and 7	20%

その他

2016年度

Seminar of Functional Support for Elderly persons (Seminar of Functional Support for Elderly persons)

開講年次	1-2grades	期区分	1年後期～2年前期	科目	special subject II	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	M Izumi						
担当教員	泉 繭依						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Oral functional rehabilitation (1)	Practice	Izumi	after-action report
2	Oral functional rehabilitation (2)	Practice	Izumi	after-action report
3	Oral functional rehabilitation (3)	Practice	Izumi	after-action report
4	Indirect training for oral function(1)	Practice	Izumi	after-action report
5	Indirect training for oral function (2)	Practice	Izumi	after-action report
6	Indirect training for oral function (3)	Practice	Izumi	after-action report
7	Indirect training for oral function (4)	Practice	Izumi	after-action report
8	Direct training for oral function (1)	Practice	Izumi	after-action report
9	Direct training for oral function (2)	Practice	Izumi	after-action report
10	Direct training for oral function (3)	Practice	Izumi	after-action report
11	Direct training for oral function (4)	Practice	Izumi	after-action report
12	Meal support	Practice	Izumi	after-action report
13	Oral functional rehabilitation in acute phase (1)	Practice	Izumi	after-action report
14	Oral functional rehabilitation in acute phase (2)	Practice	Izumi	after-action report
15	Oral functional rehabilitation in acute phase (3)	Practice	Izumi	after-action report
16	Oral functional rehabilitation in acute phase (4)	Practice	Izumi	after-action report
17	Oral functional rehabilitation in convalescent phase (1)	Practice	Izumi	after-action report
18	Oral functional rehabilitation in convalescent phase (2)	Practice	Izumi	after-action report
19	Oral functional rehabilitation in convalescent phase (3)	Practice	Izumi	after-action report
20	Oral functional rehabilitation in convalescent phase (4)	Practice	Izumi	after-action report
21	Oral functional rehabilitation in maintenance phase (1)	Practice	Izumi	after-action report
22	Oral functional rehabilitation in maintenance phase (2)	Practice	Izumi	after-action report
23	Oral functional rehabilitation in maintenance phase (3)	Practice	Izumi	after-action report
24	Oral functional rehabilitation in maintenance phase (4)	Practice	Izumi	after-action report
25	Oral functional rehabilitation in home care (1)	Practice	Izumi	after-action report
26	Oral functional rehabilitation in home care (2)	Practice	Izumi	after-action report
27	Case study (1)	Practice	Izumi	after-action report
28	Case study (2)	Practice	Izumi	after-action report

2016年度

Seminar of Functional Support for Elderly persons (Seminar of Functional Support for Elderly persons)

開講年次	1-2grades	期区分	1年後期～2年前期	科目	special subject II	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	M Izumi						
担当教員	泉 繭依						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
29	Case study (3)	Practice	Izumi	after-action report
30	Case study (4)	Practice	Izumi	after-action report

2016年度

Seminar of Professional Oral Health Care (Seminar of Professional Oral Health Care)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年前期	科目	special subject	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Nakamichi A.						
担当教員	中道 敦子、久保田 浩三、泉 繭依						

授業の概要

【Language】 Japanese

The purpose of this course is to contrive the roles of dental hygienist and the skills necessary for them, and to consider the oral health problems by means of the dental hygiene process through the clinical lectures of the perioperative oral function management.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe the system of the perioperative oral function management;
- (2) implement the preoperative professional oral care to the perioperative patients;
- (3) describe the professional oral care at ICU;
- (4) implement the postoperative professional oral care to the perioperative patients;
- (5) create the professional oral care plan to the patients during cancer treatments;
- (6) create the professional oral care plan to the patients during chemotherapy;
- (7) describe case studies of the perioperative patients by means of dental hygiene process;
- (8) describe the features of oral health problems for the perioperative patients;
- (9) describe the skills of dental hygienists for the perioperative oral function management;
- (10) describe the education methods for dental hygienists to the perioperative oral function management

テキスト

これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル(in Japanese)
出)永末書店 著)別所和久 監修

歯科衛生ケアプロセス実践ガイド(in Japanese)
出)医歯薬出版 著)佐藤陽子 齋藤淳 編著

参考書

周術期口腔機能管理の基本がわかる本 (in Japanese)
出)クインテッセンス出版 著)梅田正博 編著

5疾病の口腔ケア (in Japanese)
出)医歯薬出版 著)藤本篤士 編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
after-action reports	100%

その他

2016年度

Seminar of Professional Oral Health Care (Seminar of Professional Oral Health Care)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	special subject	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Nakamichi A.						
担当教員	中道 敦子、久保田 浩三、泉 繭依						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Approach to the perioperative oral function management Lesson of the practical side of the perioperative medical managements and nursing care	Practice, Lecture	Nakamichi A.	after-action report
2	System of the perioperative oral function managements 1 Lesson in the process of the perioperative oral function management by means of case studies	Practice	Nakamichi A.	after-action report
3	System of the perioperative oral function managements 2 Lesson in the practical side of the process of the perioperative oral function management by means of case studies	Practice	Nakamichi A.	after-action report
4	System of the perioperative oral function managements 3 Considerations for the role of dental hygienists through the practical side of the process of the perioperative oral function management	Practice, Lecture	Nakamichi A.	paper search, after-action report
5	The perioperative professional oral care 1 Implement the postoperative professional oral care to the perioperative patients	Practice	Nakamichi A.	after-action report
6	The perioperative professional oral care 2 Implementation of the postoperative professional oral care to the perioperative patients	Practice	Nakamichi A.	after-action report
7	The perioperative professional oral care 3 Implementation of the postoperative professional oral care to the perioperative patients	Practice	Nakamichi A.	after-action report
8	The perioperative professional oral care 4 Lesson in the practical side of the professional oral care to the perioperative patients at ICU	Practice	Nakamichi A.	after-action report
9	The perioperative professional oral care 5 Lesson in the cooperation with the other occupations necessary for the professional oral care to the perioperative patients at ICU	Practice, Lecture	Nakamichi A.	paper search, after-action report
10	The perioperative professional oral care 6 Implementation of the postoperative professional oral care to the perioperative patients	Practice	Nakamichi A.	after-action report
11	The perioperative professional oral care 7 Implementation of the postoperative professional oral care to a ward patient and shearing information with nurses about the patient	Practice	Nakamichi A.	after-action report
12	The perioperative professional oral care 8 Implementation of the appropriate postoperative professional oral care to a ward patient	Practice	Nakamichi A.	after-action report
13	The perioperative professional oral care 9 Creation of oral health management plan before leaving hospital	Practice	Nakamichi A.	after-action report
14	The professional oral care to the patients during cancer treatments 1 Lesson in the radiation treatment, the oral mucosal disease, and the oral problems by means of actual case studies	Practice	Nakamichi A.	paper search, after-action report
15	The professional oral care to the patients during cancer treatments 2 Planning the appropriate professional oral care to the oral mucosal disease by the radiation treatment.	Practice	Nakamichi A.	after-action report
16	The professional oral care to the patients during chemotherapy 1 Lesson in adverse event such as the chemotherapy and the oral mucosal disease by means of the actual case studies.	Practice	Nakamichi A.	paper search, discussion, after-action report

2016年度

Seminar of Professional Oral Health Care (Seminar of Professional Oral Health Care)

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年前期	科目	special subject	単位数	4
授業方法	演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Nakamichi A.						
担当教員	中道 敦子、久保田 浩三、泉 繭依						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
17	The professional oral care to the patients during chemotherapy 2 Comprehension of the condition of the patients during chemotherapy through the treatment process of bone marrow transplanted	Practice	Nakamichi A.	after-action report
18	The professional oral care to the patients during chemotherapy 3 Planning the appropriate professional oral care to the oral mucosal disease by the chemotherapy	Practice	Nakamichi A.	after-action report
19	The dental hygiene process for the perioperative patients 1 Case analysis	Practice	Nakamichi A.	after-action report
20	The dental hygiene process for the perioperative patients 2 Case analysis	Practice	Nakamichi A.	after-action report
21	The dental hygiene process for the perioperative patients 3 Case analysis	Practice	Nakamichi A.	after-action report
22	The dental hygiene process for the perioperative patients 4 Case analysis	Practice	Nakamichi A.	after-action report
23	The dental hygiene process for the perioperative patients 5 Case analysis	Practice	Nakamichi A.	after-action report
24	The dental hygiene process for the perioperative patients 6 Case analysis	Practice	Nakamichi A.	after-action report
25	The features of oral health problems for the perioperative patients Comprehensive analysis for case study reports 1-6	Practice	Nakamichi A.	paper search, discussion
26	The features of oral health problems for the perioperative patients Summarization of comprehensive analysis for case study reports 1-6	Practice	Nakamichi A.	paper search, discussion, after-action report
27	The skills of dental hygienists for the perioperative oral function management	Practice	Nakamichi A.	paper search, discussion
28	The education methods for dental hygienists to the perioperative oral function management 1	Practice	Nakamichi A.	paper search, discussion
29	The education methods for dental hygienists to the perioperative oral function management 2	Practice	Nakamichi A.	after-action report
30	The education methods for dental hygienists to the perioperative oral function management 3	Practice	Nakamichi A.	paper search, discussion, after-action report

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Hidaka K.) (Specialized Study for Oral Health (Hidaka K.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Specialized Study	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	K Hidaka						
担当教員	日高 勝美						

授業の概要

The purpose of this course is to study Japanese laws and policies related to community dental health promotion.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe laws and regulations related to dental health promotion;
- (2) research on present conditions of community dental health;
- (3) consider plans of community dental health promotion;
- (4) describe research outcomes;

テキスト

出) 著)

参考書

Reference Books are edited in Japanese.

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
presentation	50%
final report	50%

その他

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Hidaka K.) (Specialized Study for Oral Health (Hidaka K.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Specialized Study	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	K Hidaka						
担当教員	日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-90	Japanese laws and regulations related to dental health promotion Present conditions of community dental health Plans of community dental health promotion Report of research results	Lecture and Survey including Presentation and Discussion	Hidaka	Searching and Reading Papers

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Inoue H.) (Specialized Study for Oral Health (Inoue H.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Compulsory	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅						

授業の概要

The purpose of this course is to enhance your study skill on oral mucosal immunity, immunological responses to microbial infections, and allergy.

学生の到達目標

The ability to: (1) read scientific articles logically;
(2) evaluate a result of your experiments;
(3) prepare and perform presentation;
(4) prepare an article;

テキスト

出) 著)

参考書

Scientific papers which linked to your experiments
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
oral presentations	50%
reports	50%

その他

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Inoue H.) (Specialized Study for Oral Health (Inoue H.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1年後期 ~ 2年通年	科目	Compulsory	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Inoue						
担当教員	井上 博雅						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-90	Understand an article and introduce it critically. Discuss your experimental results Arrange your results for presentation, and prepare for your paper	Introduce an article Discuss your experimental results Arrange and summarize your results	Inoue	Choose a topic and prepare for presentation

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Hikiji H.) (Specialized Study for Oral Health (Hikiji H.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Major Subject	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業の概要

This course focuses on the clinical research into oral medicine or the experimental research into oral science. The attainment target is to plan, do, study, and act (the "PDSA cycle") on new insights of oral medicine or oral science.

学生の到達目標

Students will make the care system for dental hygiene process in oral diseases. (Learners of Advanced Study of Oral Medicine)
Students will research oral tissue with experimental methods. (Learners of Advanced Study of Oral Science)

テキスト

(Learners of Advanced Study of Oral Medicine)口腔内科学 (Japanese)
出) 飛鳥出版室 著) 尾崎 登喜雄

(Learners of Advanced Study of Oral Science)口腔科学 (Japanese)
出) 朝倉書店 著) 戸塚康則他

(Learners of Advanced Study of Oral Science)硬組織研究ハンドブック
(Japanese)
出) MDU出版会 著) 松本歯科大学大学院硬組織研究グループ

参考書

Documents collected by students or instructors.
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
presentation	50%
report	50%

その他

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Hikiji H.)

(Specialized Study for Oral Health (Hikiji H.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Major Subject	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	H Hikiji						
担当教員	引地 尚子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1 ~ 90	? To understand the latest findings in oral medicine or oral science.	(Learners of Advanced Study of Oral Medicine)	Hikiji	? Searching and reading research papers ? Documentation and presentation
	? To search and read the research papers.	? Reading papers		
	? To plan and do the research program.	? Planning		
	(Learners of Advanced Study of Oral Medicine)	? Practice		
	? To make the care system for dental hygiene process in oral diseases	? Writing papers		
(Learners of Advanced Study of Oral Science)	(Learners of Advanced Study of Oral Science)			
? To research oral tissue with experimental methods.	? Reading papers			
? Documentation and presentation	? Planning			
	? Experiment			
	? Writing papers			

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Akifusa S.) (Specialized Study for Oral Health (Akifusa S.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	basic	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	16hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	S Akifusa						
担当教員	秋房 住郎						

授業の概要

The aim of this course is to study on immune response in status of metabolic disorder such as metabolic syndrome, using cellular and molecular biological and immunological technique.

学生の到達目標

- (1) To analyze influences of adipokines on immune responses, using cellular and molecular biological and immunological technique
- (2) To conclude investigation(s) of examinations, and submit international scientific journal
- (3) To present the research results at a conference

テキスト

出) 著)

参考書

recent papers on your study, searching yourself and instructor
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
presentation and dissertation	100%

その他

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Akifusa S.) (Specialized Study for Oral Health (Akifusa S.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	basic	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	16hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	S Akifusa						
担当教員	秋房 住郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-90	To search literatures on your research To prepare your research program To exam on influences of adipokines on immune system using cellular and molecular biological and immunological technique To complete your dissertation for master course	examination literature study polishing of dissertation	Akifusa	literature study acquisition of lab technique

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Yoshino K.) (Specialized Study for Oral Health (Yoshino K.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Specialized	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Yoshino K						
担当教員	吉野 賢一						

授業の概要

The purpose of this course is 1) to investigate the process and integration of information, the initiation and control of movement, and/or the learning and memory by functional near-infrared spectroscopy, 2) to explain the role of cortex in relation to the feeding behavior, 3) to write a master's thesis involved in the brain function while the subjects performed a visually guided tongue-movement task.

学生の到達目標

The ability to:

- (1) describe the organization of functionally specific areas in the brain;
- (2) investigate the brain function by functional near-infrared imaging device;
- (3) understand the contents of other papers needed to the investigation;
- (4) write the thesis involved in the brain function;
- (5) present and discuss in the academic meeting as necessary.

テキスト

出) 著)

参考書

the papers for reference to the investigation
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
presentation	20%
writing	80%

その他

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Yoshino K.) (Specialized Study for Oral Health (Yoshino K.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Specialized	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	Yoshino K						
担当教員	吉野 賢一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-90	The study of the brain function by functional near-infrared spectroscopy, while the subjects performed a visually guided tongue-movement task.	Practice	Yoshino	Presentation, and writing a thesis

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Nakamichi A.) (Specialized Study for Oral Health (Nakamichi A.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Expert study	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	A Nakamichi						
担当教員	中道 敦子						

授業の概要

The purpose of this course is to study on Simulation-Based Education and to make highly professional oral health care technology.

学生の到達目標

To ability to : (1) find out expedient literatures and understand them;
(2) practice professional oral health care;
(3) design technical education system of professional oral health care;
(4) present the research results at a conference

テキスト

出) 著)

参考書

Recent papers on your study, searching yourself and instructor
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
Presentation	50%
paper	50%

その他

2016年度

Specialized Study for Oral Health (Nakamichi A.) (Specialized Study for Oral Health (Nakamichi A.))

開講年次	1 ~ 2 grades	期区分	1 年後期 ~ 2 年通年	科目	Expert study	単位数	12
授業方法	講義・演習	時間数	180hours	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	A Nakamichi						
担当教員	中道 敦子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-90	<ul style="list-style-type: none"> • To search literatures on your research • To examine a clinical professional oral health care • To examine a simulation education method of professional oral health care • To perform presentation at a conference. 	reading a paper, studying a paper examination	Nakamichi	Searching a paper, studying a paper